長崎大学熱帯医学研究所

年　次　要　覧

平成14年度
（2002）

長崎大学熱帯医学研究所
平成15年（2003）10月

長崎大学熱帯医学研究所

総 合 目 標

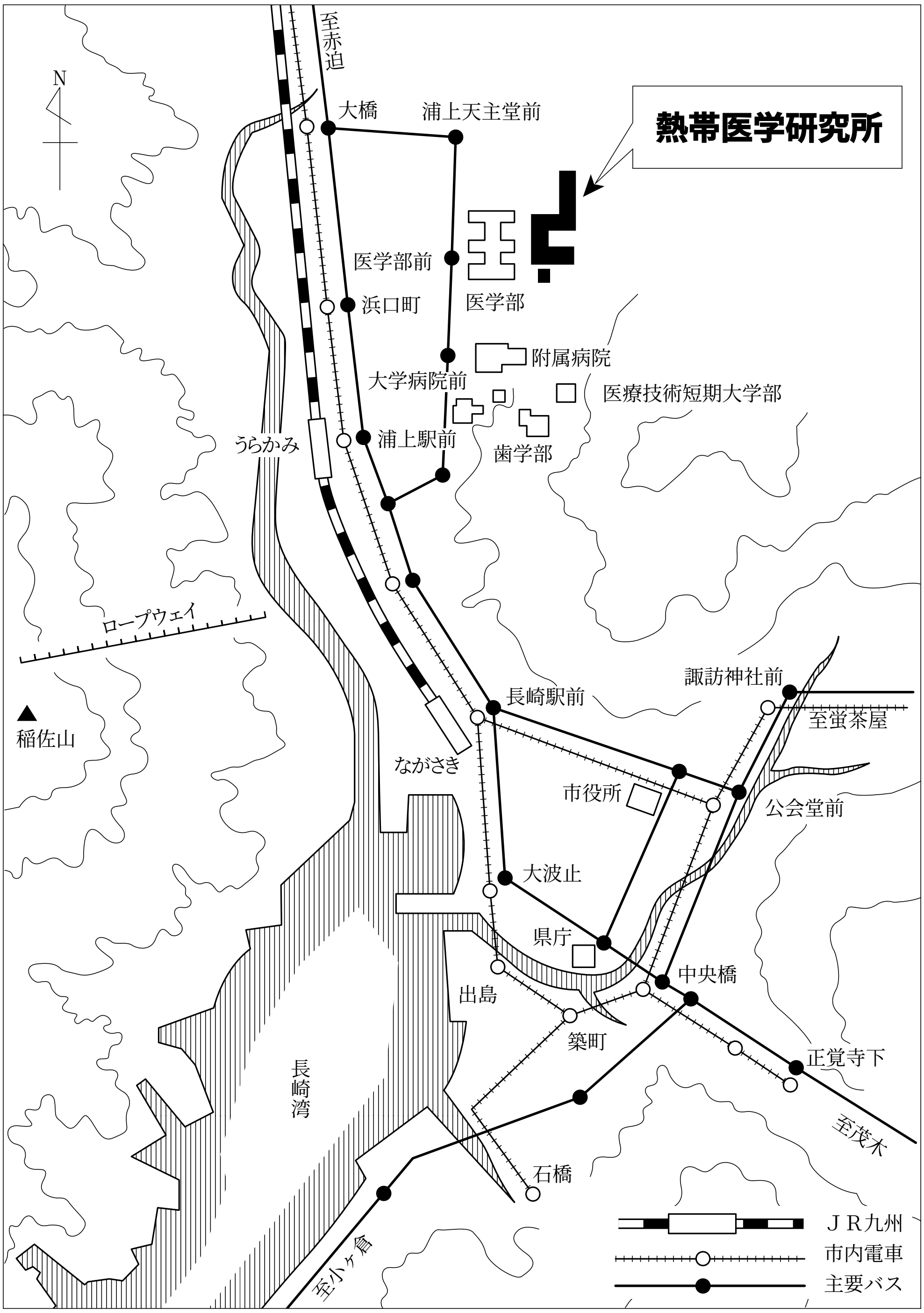
熱帯地域に存在する複雑多様な自然・社会環境が，熱帯病をはじめとする錯綜した健康問題を引き起こし続けている。国際交流の進展が著しい今日，これらの問題は世界的視野に立って解決されなければならない。

長崎大学熱帯医学研究所は，上述の認識に基づき，熱帯病の中でも最も重要な領域を占める感染症を主とした疾病と，これに随伴する健康に関する諸問題を克服することを目指し，関連機関と協力して以下の項目の達成を図るものである。

１．熱帯医学及び国際保健における先導的研究
２．研究成果の応用による熱帯病の防圧ならびに健康増進への国際貢献
３．上記に係る研究者と専門家の育成

研　究　所　全　景

長崎大学熱帯医学研究所位置図



所 在 地　長崎市坂本１丁目12-4(〒852-8523)
電　　話　095－849－7800（総合案内）
敷地面積　3,305㎡
建物面積　延8,354㎡

新築年月　昭和36年(1961) ３月
増築年月　昭和42年(1967) ２月
増築年月　昭和55年(1980) ３月
増築年月　昭和60年(1985) ８月
増築年月　平成６年(1994) ３月
増築年月　平成15年(2003) ３月

序

長崎大学熱帯医学研究所は，昭和17年に長崎医科大学附属東亜風土病研究所として開設され，沿革に記載された経緯の後，昭和42年に「熱帯医学に関する学理および応用の研究」を設置目的とする長崎大学附置熱帯医学研究所となった。以後今日まで，日本において熱帯医学研究を目的とする唯一の公的機関として活躍してきた。平成元年に医学系国立大学附置研究所として初の共同利用研究所に，平成６年度には大部門制に改組され，平成７年度には文部省から熱帯医学に関する国際的に卓越せる研究拠点（Center of Excellence＝COE）に指定された。平成13年度には文部科学省による４大学の免疫・感染症研究の連携推進体制の整備の一環として熱帯感染症研究センターが独立し，現在の組織は３大部門（11研究分野，１客員分野，１外国人客員分野を含む），１センター，１施設，１診療科からなる。

本誌の表紙をめくった頁に研究所の総合目標－Mission Statement－が記されている。これは平成８年度に行われた外部評価の提言に基づき研究所が平成11年５月に策定したものである。研究所は総合目標を達成するために，種々の研究教育活動を行っている。

熱帯医学研究所は研究活動の大要を昭和44年以来，年度毎にまとめて要覧として発刊している。平成11年度までは，要覧の中で最も重要な項目である研究活動の項目が，各分野毎の研究活動として紹介されていた。熱帯医学研究所の総合目標の中で最も重要な「熱帯医学及び国際保健における先導的研究」がどの様に熱帯医学研究所で行われているのかを読者に理解して貰うには，古い編集方法は適切でないと判断し，この点を改善する為，平成12年度以後の要覧の編集においては，各研究分野で行われている研究活動を主たる熱帯病毎にまとめなおして，研究活動として報告している。

平成15年７月，熱帯医学研究所と長崎大学医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻が共同で申請した「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」が21世紀 COE プログラムの医学系で採択された。

採択理由の一つに研究所の長年に亘る熱帯医学領域での実績があげられている。これまでに研究所が発刊してきた要覧に目を通していただきたい。

熱帯医学研究の特長は熱帯病が流行する現場での研究と学際的研究である。各研究分野がどの様な視点で，また研究所全体としてはどの様に熱帯医学の研究に取り組んでいるかを，読者の方々がこの要覧をごらんになり理解していただければ幸いである。

平成15年８月

長崎大学熱帯医学研究所　所長　青　木　克　己

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成14年度（2002）
目　　次

総合目標

長崎大学熱帯医学研究所位置図

序

1　沿革 …… 1

2　組織及び規模 …… 3

　2．1　組織 …… 3

　2．2　職員 …… 3

　2．3　経費 …… 9

　2．4　敷地と建物 …… 9

3　共同利用研究 …… 10

　3．1　共同研究 …… 10

　3．2　研究集会 …… 16

4　研究活動 …… 22

　4．1　マラリア …… 22

　4．2　住血吸虫症 …… 24

　4．3　フィラリア症 …… 25

　4．4　トリパノソーマ症 …… 26

　4．5　寄生蠕虫症 …… 27

　4．6　デング熱，日本脳炎，西ナイル熱及びその他のアルボウイルス感染症 …… 27

　4．7　コレラに代表される細菌性下痢症 …… 30

　4．8　呼吸器感染症 …… 31

　4．9　その他世界的に問題になっている感染症 …… 33

　4．10　細胞からのアプローチ …… 35

　4．11　社会からのアプローチ …… 38

5　特別事業費による事業 …… 41

　5．1　熱帯医学研修課程 …… 41

6　文部科学省科学研究費補助金等による研究 …… 44

　6．1　文部科学省科学研究費補助金（平成14年度採択分） …… 44

　6．2　文部科学省科学研究費補助金（平成15年度内定分） …… 46

　6．3　受託研究費（平成14年度分） …… 48

7　海外活動 …… 50
8　外国人研究者の受け入れ …… 58
　８．１　熱帯医学研究コース …… 58
　８．２　平成14年度に受け入れた外国人研究者 …… 59
9　研究成果の発表状況 …… 62
　９．１　研究業績 …… 62
　９．２　学会発表演題 …… 74
　９．３　国際会議における研究活動 …… 87
　９．４　報告書等印刷物 …… 93
　９．５　熱帯医学研究所集談会 …… 96
10　講演会 …… 98
　10．１　熱帯医学研究所における所外講師による講演 …… 98
　10．２　熱帯医学研究所教官による講演 …… 99
11　主要な研究設備 …… 111
12　刊行物 …… 112

1　沿　　　革

昭和17年３月，東アジアにおける風土病に関する学理およびその応用の研究を行うことを目的として，長崎医科大学に附設された東亜風土病研究所が本研究所の前身である。

設立当時所員は医科大学の諸教室（病理学，細菌学，内科学，皮膚科学）を利用して研究活動に従事し，主として中国大陸における野外調査に重点を置いた。昭和20年８月原子爆弾によって母体大学と共に研究資料等は一瞬のうちに灰燼に帰し，研究所発展の道は一時阻止され，研究活動も頓挫を来した。

昭和21年４月長崎医科大学附属風土病研究所と改称し，東亜の２字は削除され，５月には諫早市へ移転して研究活動を再開した。

昭和24年５月国立学校設置法の公布により，長崎大学風土病研究所となり，その後昭和32年７月25日の諫早大水害による研究所移転等の変遷を経て，昭和35年度に長崎市坂本地区での新築が実現，翌年４月新庁舎へ移転した。

昭和39年度から既存の病理，臨床の両部門に加えて，順次，疫学，寄生虫学，ウイルス学の各部門が増設され，41年度末にはこれに伴う増築も終わった。

昭和42年６月国立学校設置法の一部改正により長崎大学熱帯医学研究所となり，熱帯医学に関する学理およびその応用を研究することが目的となった。同時に熱帯医学研究所内科（熱研内科）として，20病床の診療科が医学部附属病院に設置された。昭和49年度には病原細菌学部門と附属研究施設としての熱帯医学資料室が開設され，昭和53年度には防疫部門（客員部門）と熱帯医学研修課程が新設された。昭和54年度には昭和52年度に新築された感染動物隔離実験棟が熱帯性病原体感染動物実験施設へ昇格した。昭和54年度には研究所本館の第２次増築も完了し，昭和58年度には国際化社会の到来に伴い，国立大学における国際交流を促進するとともに，開発途上国の自立発展および文化的知的水準の向上に資するため，国際協力事業団（JICA）の集団研修コースである熱帯医学研究コースが開設された。昭和59年度には原虫学部門が増設され，昭和60年度には原虫学部門と資料室を収容するための研究所本館第３次増築も完了した。昭和62年度には病害動物学部門が増設され，平成元年度には，共同利用研究所への改組が実現した。平成３年度には感染生化学部門が新設され計10部門となり，平成５年度には研究実験棟が増築された。平成６年度には，これまでの小部門制による研究体制から３大部門制への改組が行われ，12研究分野が設置された。平成７年度からは，世界の最先端の学術研究を推進する卓越した研究拠点（COE：センター・オブ・エクセレンス）の研究所に指定され，平成８年度には，病原体解析部門に分子疫学分野（外国人客員分野）が新設された。平成９年度には，熱帯医学資料室の廃止・転換に伴い，熱帯病資料情報センターが新設され，更に平成13年度には，熱帯病資料情報センターの廃止・転換に伴い，熱帯感染症研究センター（時限：10年）が新設されて，研究所の整備・充実も着々と進んでいる。

歴　代　所　長

（長崎医科大学附属東亜風土病研究所）

角尾　晋	自	昭和17年（1942） 5月4日
	至	昭和20年（1945） 8月22日
古屋野　宏平	自	昭和20年（1945）12月22日
	至	昭和23年（1948） 1月23日
高瀬　清	自	昭和23年（1948） 1月24日
	至	昭和23年（1948） 8月31日
登倉　登	自	昭和23年（1948） 9月1日
	至	昭和24年（1949） 5月30日

（長崎大学風土病研究所）

登倉　登	自	昭和24年（1949） 5月31日
	至	昭和33年（1958） 8月31日
大森　南三郎	自	昭和33年（1958） 9月1日
	至	昭和38年（1963）11月30日
福見　秀雄	自	昭和38年（1963）12月1日
	至	昭和42年（1967） 5月31日

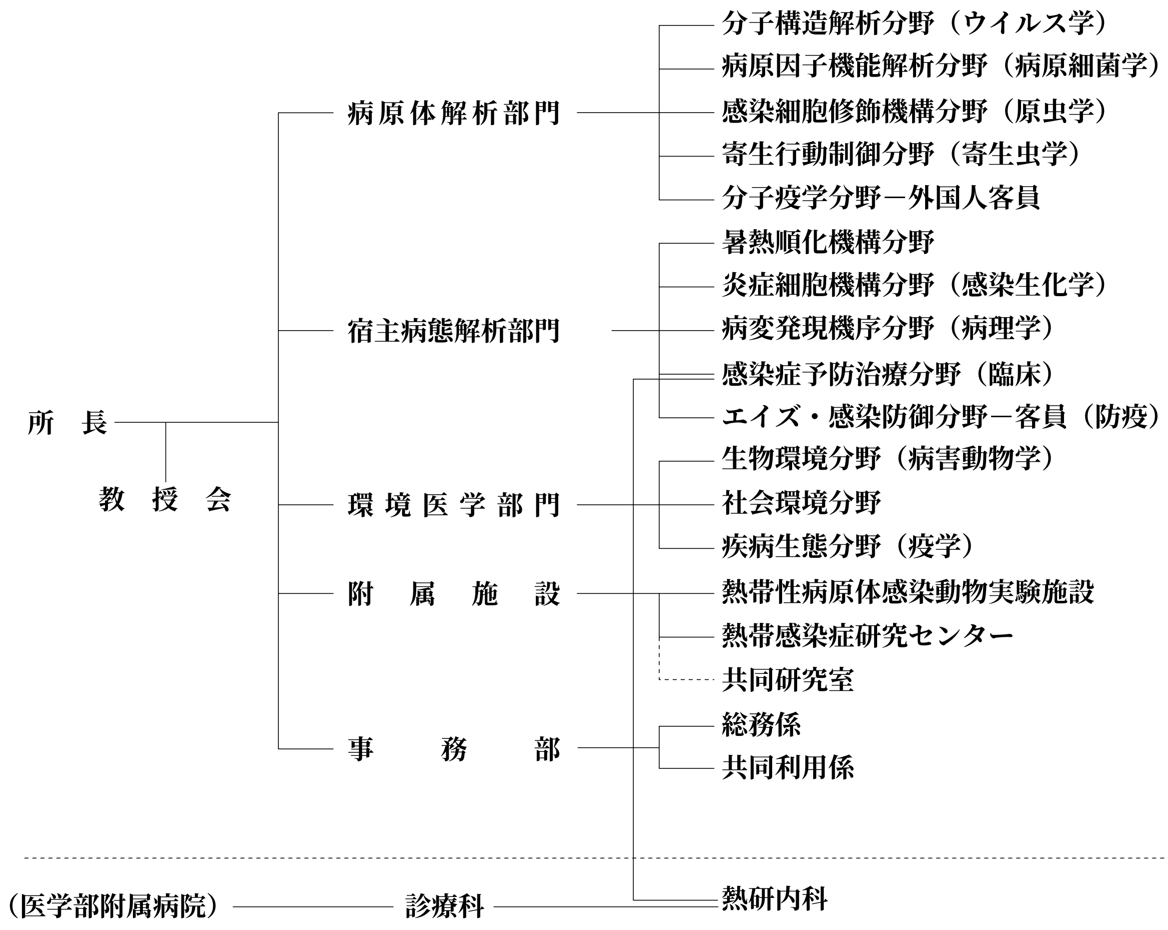
（長崎大学熱帯医学研究所）

福見　秀雄	自	昭和42年（1967） 6月1日
	至	昭和44年（1969）11月30日
片峰　大助	自	昭和44年（1969）12月1日
	至	昭和48年（1973）11月30日
林　薫	自	昭和48年（1973）12月1日
	至	昭和52年（1977）11月30日
内藤　達郎	自	昭和52年（1977）12月1日
	至	昭和54年（1979）11月30日
片峰　大助	自	昭和54年（1979）12月1日
	至	昭和56年（1981） 4月1日
松本　慶蔵	自	昭和56年（1981） 4月2日
	至	平成3年（1991） 4月1日
板倉　英世	自	平成3年（1991） 4月2日
	至	平成5年（1993） 4月1日
小坂　光男	自	平成5年（1993） 4月2日
	至	平成9年（1997） 4月1日
五十嵐　章	自	平成9年（1997） 4月2日
	至	平成13年（2001） 3月31日
青木　克己	自	平成13年（2001） 4月1日
	至	現在

2　組織及び規模

2．1　組　　織

平成15年７月１日



（　）内は旧部門名を示す

2．2　職　　員

平成15年７月１日

1）定員内職員

区　　分	教官					その他の職員	合　　計
	教　　授	助教授	講　　師	助　　手	計		
定　　員	12	10	0	18	40	9	49
現　　員	12	4	5	20	41	10	51

2）その他の職員

外国人研究員（客員教授）１名　研究機関研究員　１名　産学官連携研究員　２名
非常勤講師　23名　事務補佐員及び技能補佐員　14名　研究支援推進員　７名
研究支援員　１名

3）教職員・大学院学生等氏名

分野	職名	学位	氏名
所長	(併)教授	医学士 医学博士	青木克己
分子構造解析分野 （ウイルス学）	教授	医学士 医学博士	森田公一
	講師	獣医学士 医学博士	長谷部太
	助手	獣医学士 獣医学修士	井上真吾
	研究機関研究員		アフジャル ホセイン カン
	技能補佐員 （研究支援推進員）		山口知美
	技能補佐員 （実験助手）		城臺和美
	大学院学生		エドワード ギタウ マテンゲ
病原因子機能解析分野 （病原細菌学）	教授	農学士 農学博士	平山壽哉
	助手	医学士 医学博士	江原雅彦
	助手	理学士 理学博士	和田昭裕
	助手		一ノ瀬昭豊
	文部科学技官 （技術専門職員）		岩見守
	大学院学生		中山真彰
感染細胞修飾機構分野 （原虫学）	教授	医学士 医学博士	神原廣二
	講師	理学士 薬学博士	上村春樹
	助手	医学士 医学博士	中澤秀介
	産学官連携研究員		吉永一未
	技能補佐員 （実験助手）		木下美紀
	技能補佐員 （実験助手）		冨丸紅
	大学院学生		シュアイブ モハマドゥ ナシル
	大学院学生		フアマン マリア セシリア
	大学院学生		宮﨑俊雄
	大学院学生		ファレス サンドラ イネス
寄生行動制御分野 （寄生虫学）	教授	医学士 医学博士	青木克己
	講師	医学士 医学博士	藤巻康教
	助手	医学士 医学博士	渡部幹次
	文部科学技官 （技術専門職員）		三浦光政
	技能補佐員 （実験助手）		冨永佐登美
	大学院学生		草場照代
	大学院学生		依田健志
分子疫学分野	外国人研究員 （客員教授）	医学士 医学博士	ジョンウティウェス ソムチャイ

暑熱順化機構分野	(併)助　教　授	工学士 医学博士	大渡　伸
炎症細胞機構分野 （感染生化学）	教　　授	医学士 医学博士	中村　三千男
	講　　師	栄養学修士 医学博士	熊取　厚志
	助　　手	理学修士 医学博士	鈴木　章一
	文部科学技官 （研究補助員）		森内　俊之
	大学院学生		藤井　仁人
	大学院学生		K.A.ディーパ
病変発現機序分野 （病　理　学）	教　　授	医学士 医学博士	岩崎　琢也
	助　教　授	医学士 医学博士	鳥山　寛
	助　　手	医学博士 理学博士	千馬　正敬
	助　　手	獣医学士 獣医学博士	早坂　大輔
	助　　手	農学士 医学博士	吾郷　昌信
	研究支援員		安部　優子
	技能補佐員 （実験助手）		福田　朱美
	大学院学生		余　福勲
	大学院学生		タイ　ホン　チーカム
	大学院学生		亀井　里加
感染症予防治療分野 （臨　　床）	教　　授	医学士 医学博士	永武　毅
	助　教　授	医学士 医学博士	大石　和徳
	助　　手	医学士 医学博士	麻生　憲史
	助　　手		渡邊　貴和雄
	大学院学生		齋藤　麻理子
	大学院学生		大池　貴行
	大学院学生		鋤崎　利貴
	大学院学生		小山　純
	大学院学生		與座　嘉康
	大学院学生		陳　蒙
	大学院学生		秦　亮
	大学院学生		加地　千春
	大学院学生		久富　由紀
	大学院学生		福間　藍子
	大学院学生		吉居　廣朗
診　療　科 （熱研内科）	科長（併）教授	医学士 医学博士	永武　毅
	副科長(併)助教授	医学士 医学博士	大石　和徳

	講師	医学士 医学博士	渡邊　浩
	助手	医学士 医学博士	山領　豪
	助手	医学士 医学博士	土橋　佳子
	助手	医学士	森本　浩之輔
	医員	医学士 医学博士	星野　和彦
	医員	医学士	池田　秀樹
	医員	医学士	古本　朗嗣
	医員	医学士	本田　章子
	医員	医学士 医学博士	本村　和嗣
	医員	医学士	石田　正之
	医員（研修医）	医学士	水谷　玲子
	医員（研修医）	医学士	高木　理博
エイズ・感染防御分野	客員教授	医学士 医学博士	山本　直樹
	客員助教授	理学博士	佐藤　裕徳
	助手	農学士 医学博士	久保　嘉直
	技能補佐員 （実験助手）		冨永　知可
生物環境分野 （病害動物学）	教授	農学士 医学博士	高木　正洋
	講師	農学士 農学博士	川田　均
	助手	農学士 農学博士	都野　展子
	産学官連携研究員		前川　芳秀
	技能補佐員 （研究支援推進員）		上野　俊子
	技能補佐員 （実験助手）		川島　恵美子
	大学院学生		長谷川　麻衣子
	大学院学生		才田　進
社会環境分野	教授	医学博士	溝田　勉
	助手	理学士 理学修士	谷村　晋
	助手	体育学士 医学博士	金田　英子
	助手	法学士 経済学修士	古川　孝明
	技能補佐員 （研究支援推進員）		多良　栄子
	大学院学生		鈴木　千鶴子
疾病生態分野 （疫学）	教授	医学士 医学博士	平山　謙二
	助教授	工学士 医学博士	大渡　伸
	助手	獣医学士 医学博士	菊池　三穂子
	技能補佐員 （研究支援推進員）		村上　愛

	技能補佐員（実験助手）		早嶋順子
	大学院学生		ラタワン ウバリー
	大学院学生		ソンタムワット ドウッダウ
熱帯性病原体感染動物実験施設	施設長(併)教授	医学士 医学博士	中村三千男
	助手	農学士 医科学修士	柳 哲雄
	技能補佐員（実験助手）		川嶋順子
熱帯感染症研究センター	センター長(併)教授	医学士 医学博士	嶋田雅曉
	教授	保健学博士	門司和彦
	助教授	農学士 医学博士	鈴木 博
	助手	農学士 保健学博士	安高雄治
	技能補佐員（研究支援推進員）		荒木一生
	技能補佐員（研究支援推進員）		崎谷恭子
	技能補佐員（実験助手）		須田清美
	大学院学生		浜田芳樹
	大学院学生		大野晃生
	大学院学生		中尾優子
	大学院学生		古庄淳浩
	大学院学生		中村禎子
	大学院学生		蔡 国喜
共同研究室	室長（併）教授	農学士 農学博士	平山壽哉
	助手(併)		一ノ瀬昭豊
	技能補佐員（研究支援推進員）		田村久美
非常勤講師	大分医科大学・教授	医学士 医学博士	牧野芳大
	大分医科大学・助教授	農学士 医学博士	江下優樹
	埼玉医科大学・講師	獣医学修士 医学博士	名和 優
	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授	医学士 医学博士	河野 茂
	国立感染症研究所・部長	医学士 医学博士	渡邊治雄
	京都大学大学院医学研究科・教授	医学士 医学博士	光山正雄
	大阪大学微生物病研究所・助教授	医学士 医学博士	飯田哲也
	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・教授	医学士 医学博士	由井克之
	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科・教授	医学士 医学博士	藤田紘一郎
	三和中央病院・部長	医学士 医学博士	坂本 信
	おおり医院・院長	医学士 医学博士	大利昌久
	国立病院長崎医療センター・名誉院長	医学士 医学博士	矢野右人

	国立感染症研究所・室長	農学士 農学修士	森川　茂
	東京都医学研究機構 東京都神経科学総合研究所・副参事研究員	理学修士 医学博士	小池　智
	東京大学大学院医学系研究科・教授	医学士 医学博士	松島　綱治
	理化学研究所分子細胞生物学研究室・主任研究員	薬学士 薬学博士	天沼　宏
	獨協医科大学・講師	医学士 医学博士	和賀　一雄
	国立感染症研究所・室長	農学士 農学博士	津田　良夫
	国立感染症研究所・室長	農学士 学術博士	澤邉　京子
	医療法人永敏会・理事	医学士	楽得　康之
	下野医院・理事長	医学士	下野　國夫
	琉球大学遺伝子実験センター・助教授	理学士 理学博士	新川　武
	東京医科歯科大学難治疾患研究所・教授	医学士 医学博士	木村　彰方
	東海大学医学部・教授	医学博士	猪子　英俊
	兵庫医科大学・教授	医学士 医学博士	中西　憲司
	九州大学大学院医学研究院・教授	医学士 医学博士	姫野　國祐
	東京大学大学院医学系研究科・教授	薬学士 薬学博士	北　潔
	関西医科大学・教授	医学士 医学博士	西山　利正
	山口県立大学看護学部・助教授	保健学修士 医学博士	中澤　港
	京都大学生態学研究センター・助教授	理学士 理学博士	山内　淳
	宮崎県串間市国保病院・小児科医長	医学博士	山元　加代子
	国際下痢症研究センター・バングラディシュ研究員	医学博士	我妻　ゆき子
	ピースウインズジャパン海外事業部・医師	医学士 医学博士	神谷　保彦
	長崎県福祉保健部西彼保健所・次長	医学士 医学博士	一瀬　休生
事務部	事務長	文部科学事務官	清水　洋治
	総務係長	文部科学事務官	吉富　力生
	総務主任	文部科学事務官	原田　司
	総務主任	文部科学事務官	馬場　秀光
	総務係員	文部科学事務官	石坂　亜美
	総務係員	事務補佐員	森山　ひろみ
	総務係員	事務補佐員	末永　純子
	総務係員	事務補佐員	松尾　明日香
	共同利用係長	文部科学事務官	松田　敬子
	共同利用係員	文部科学事務官	橋口　文子
	共同利用係員	事務補佐員	松本　由美子

2．3　経　　費

年度別歳出決算額（平成５－平成14年度）

区分／年度	人　件　費	物　件　費	合　　計
平成５年	377,943,572 円	680,022,581 円	1,057,966,153 円
〃　6　年	391,614,944	264,284,909	655,899,853
〃　7　年	414,972,193	566,076,492	981,048,685
〃　8　年	423,863,566	406,226,075	830,089,641
〃　9　年	431,756,359	294,963,427	726,719,786
〃　10　年	473,414,781	412,687,773	886,102,554
〃　11　年	471,498,613	307,109,233	778,607,846
〃　12　年	450,088,155	307,804,552	757,892,707
〃　13　年	448,975,931	443,188,323	892,164,254
〃　14　年	436,287,495	446,435,378	882,722,873

2．4　敷地と建物

敷　地　長崎市坂本１丁目12－４　長崎大学医学部構内　3,305㎡

建　物

建物名称	構　　造	建面積㎡	延面積㎡	所在地	備　　考
本　　館	鉄筋コンクリート３階，１部４階建	1,716	6,296	坂本１丁目12－４	昭36．３　建築 〃42．２　増築 〃55．３　〃 〃60．８　〃 平６．３　〃
熱帯性病原体集中研究管理棟	鉄筋コンクリート４階建	313	1,320	〃	平15．３　建築
熱帯性病原体感染動物実験施設	鉄筋コンクリート３階建	198	488	〃	〃53．３　新築 〃63．３　増築
薬品庫	ブロック建	19	19	〃	〃47．３　新築
仮設倉庫	プレハブハウス	231	231	〃	〃51．11　〃
計		2,477	8,354		

３　共同利用研究

３．１　共同研究（◎は研究代表者）

１．日本脳炎ウイルス・デングウイルスのレセプターの同定

長崎大・熱研　◎森田　公一，長谷部　太
静岡県立大・薬　鈴木　康夫，左　一八

２．デング・日本脳炎キメラウイルスの作製

長崎大・熱研　◎森田　公一，長谷部　太，井上　真吾
大分医科大・医　牧野　芳大
琉球大・医　只野　昌之
埼玉医科大・医　名和　優

３．フラビウイルス非構造蛋白質 NS３の生物活性

長崎大・熱研　◎森田　公一，長谷部　太，井上　真吾，T.C.T.Hong
国立感染研　清水　博之

４．ヘリコバクター・ピロリの病原性に関する研究

長崎大・熱研　◎平山　壽哉，和田　昭裕
千葉大・医　野田　公俊，八尋錦之助
岡山大・医　倉園　久生，木村　美幸
帯広畜産大・蓄　牧野　壮一
長崎大・医　河野　茂
神戸大・医　白坂　大輔

５．病原細菌によるβ－ディフェンシン－２の発現誘導

長崎大・熱研　◎平山　壽哉，和田　昭裕
東海大・工　北條　裕信
徳島大・医　高橋　章
長崎大・工　新留　琢郎，青柳　東彦

6．トリパノソーマの病原性と発育変態に関わる分子生物学的研究

長崎大・熱研	◎神原　廣二，上村　春樹，中澤　秀介，柳　　哲雄
久留米大・医	福間　利英，原　　　樹，井上　雅広
日本厚生科学研	蛭海　啓行
大阪大	池原　森男
産業技術総合研	大塚　榮子

7．マラリア原虫の防御免疫にかかわる研究

長崎大・熱研	◎神原　廣二，上村　春樹，中澤　秀介，柳　　哲雄
大阪工大・工	田辺　和裄
愛媛大・医	坪井　敬文
徳島大・総合科学	大橋　　真
藤田保健衛生大・医	前野　芳正
生産開発科学研	伊藤　義博

8．腸管内感染原虫症の疫学研究

長崎大・熱研	◎神原　廣二，上村　春樹，中澤　秀介，柳　　哲雄
東海大・医	橘　　裕司
神戸大・医	宇賀　昭二
金沢大・医	井関　基弘
奈良女子大・理	吉川　尚男

9．開発途上国における土壌伝播寄生虫の伝播疫学

長崎大・熱研	◎青木　克己，藤巻　康教
徳島大・医	太田　房雄
愛知医大	木村　英作
神戸大・医	宇賀　昭二

10．ビルハルツ住血吸虫症の病態像：これまで注目されなかった病変

長崎大・熱研	◎青木　克己，藤巻　康教，渡部　幹次，嶋田　雅曉， 門司　和彦
長崎大・医	金武　　洋，野俣浩一郎，野口　　満
鹿児島大・多島研	野田　伸一

一橋大・社　浜本　満

11．感染防御因子遺伝子の発現制御解析とその応用

長崎大・熱研　◎中村三千男
旭川医大・医　若宮　伸隆
エフェクター細胞研　金ヶ崎士朗
東京大・先端研　玉谷　卓也
順天堂大・医　長岡　功
東京医歯大・難治研　北嶋　繁孝
国立感染研　鈴木　和男
名古屋市大・医　岡田　秀親，岡田　則子
琉球大・遺伝子実験センター　松崎　吾朗，新川　武

12．DNA 修復機構と感染症

長崎大・熱研　◎中村三千男
京都大・理　米井　脩治，張　秋海
九州大・医　康　東天

13．エンテロウイルス感染の重症化機序の解析

長崎大・熱研　◎岩崎　琢也，早坂　大輔
国立感染研　永田　典代，清水　博之
東京都神経科学総合研　小池　智，細沼　美樹
東京大　野本　明男
北海道大　苅和　宏明
岡山大　荒尾雄二郎

14．慢性肝疾患の癌化にいたる肝組織像の変化およびウイルス学的研究

長崎大・熱研　◎鳥山　寛，千馬　正敬
長崎大・医　濱崎　圭輔
長崎大・保健管理センター　中尾　一彦

15．感染症に対する新たなワクチン利用・開発の研究

長崎大・熱研　◎永武　毅，平山　壽哉

長崎大・医　　河野　茂
熊本大・医　　前田　浩
京都大・医　　光山　正雄
琉球大・医　　斎藤　厚
和歌山医大　　山中　昇

16．HIV 感染症の変貌とその対策

長崎大・熱研　　◎大石　和徳，山本　直樹，久保　嘉直
長崎大・医歯薬学総合研　　森内　浩幸
国立感染研　　佐藤　裕徳，佐多徹太郎，武部　豊
国立国際医療センター　　岡　慎一
東京大学医科学研　　岩本　愛吉
都立駒込病院・感染症科　　根岸　昌功

17．疾病媒介蚊の空間分布規定要因解析法の開発

長崎大・熱研　　◎高木　正洋，津田　良夫，都野　展子
名古屋女子大・家政　　杉山　章
京都大･総合地球環境学推進センター　　吉村　充則
立命館大・文　　中谷　友樹
産業医大・医　　沢辺　京子
琉球大・医　　當間　孝子

18．蚊媒介性感染症の分布域拡大はあるか

長崎大・熱研　　◎高木　正洋，津田　良夫，都野　展子
国立感染研　　小林　睦生
名古屋大・医　　川本　文彦
香川医大・医　　村主　節雄
佐賀医大・医　　茂木　幹義
大分医大・医　　江下　優樹

19．熱帯病対策における地理情報システム（GIS）の応用

長崎大・熱研　　◎溝田　勉，谷村　晋
国立感染研　　二瓶　直子

岡山大	山本　秀樹
富士常葉大	藤川　格司
大阪産業大	田中みさ子
㈱パスコ	佐山　哲也，森賀　文月，福島　美希

20．発展途上国におけるエイズ流行とその対策に関する研究

長崎大・熱研	◎溝田　　勉，谷村　　晋，金田　英子
長崎純心大	鈴木千鶴子
米国・チューレーン大	楽得　康之
京都大	山本　太郎
岡山大	山本　秀樹
長崎大・大学院生	秦　　　亮

21．熱帯性疾患の対策・予防と社会環境要因の診断

長崎大・熱研	◎溝田　　勉，谷村　　晋
大阪国際大	山本　勇次
北海道大	神谷　正男
浜松医大	佐藤　弘明
神戸大	藤田　大輔
旭川医大	伊藤　　亮
長崎純心大	鈴木千鶴子
女子栄養大	佐久間　充

22．シャーガス病の病態に関する免疫遺伝学的研究

長崎大・熱研	◎平山　謙二，菊池三穂子
順天堂大・医	奈良　武司，吉田　彩子，飯泉　恭一
東京女子医・医	金子　　明，塚原　高広
名古屋市大・医	鈴木　高史

23．紫外線（UV－B）照射と生体免疫能の関連

長崎大・熱研	◎大渡　　伸，藤巻　康教，熊取　厚志，鳥山　　寛， 金田　英子
長崎大・医	奥村　　寛

24. 熱帯病の数学モデルの構築と予防制圧への応用

長崎大・熱研	◎嶋田　雅曉，門司　和彦，安高　雄治，木須　友子
長崎大・医	菊池　泰樹
京都大・生態研センター	山内　　淳
山口県立大・公衆衛生学	中澤　　港

25. 南日本に多発する恙虫病の解明

長崎大・熱研	◎鈴木　　博
埼玉医大	高橋　　守，三角　仁子

26. 熱帯地での地域プロスペクティブ研究

長崎大・熱研	◎門司　和彦，嶋田　雅曉，安高　雄治，金田　英子
長崎大・医	本田　純久
国立社会保障・人口問題研	大場　　保
東京医歯大・大学院	梅崎　昌裕

27. Great Mekong Area における人類生態変遷の研究

Mekong Human Ecological Transition Study:MEHETS

長崎大・熱研	◎門司　和彦，嶋田　雅曉，安高　雄治，金田　英子，藤巻　康教
東京大・人類生態学	大塚柳太郎，夏原　和美，山内　太郎
岐阜大・地域科学部	口蔵　幸雄
佐賀大・農	稲岡　　司，楠本　恭子
国立国際医療センター	中村　　哲
東京医歯大	梅崎　昌裕
新潟医療福祉大	村山　伸子
神戸大	川端　眞人
国立がんセンター研	吉見　逸郎
北海学園大	須田　一弘
杏林大	高坂　宏一
群馬大	阿部　朋子

３．２　研究集会

１．フラビウイルス研究におけるリコンビナントウイルスの応用

開催日：平成15年２月14日～２月15日

場　所：長崎大学熱帯医学研究所　大会議室

代表者：分子構造解析分野　森田　公一

発表者：⑴.「ダニ媒介性脳炎ウイルスの感染性クローンの構築」

長崎大学熱帯医学研究所　早坂　大輔

⑵.「日本脳炎ウイルス複製におけるゲノム RNA 3’末端 NCR の役割」

金沢医科大学医学部　竹上　　勉

⑶.「日本脳炎ウイルス発現ベクターを用いた DNA 免疫」

東京都神経科学総合研究所　保井孝太郎

⑷.「LongPCR を応用したコンビナントウイルス作製法とその利用」

長崎大学熱帯医学研究所　森田　公一

⑸.「デング４型ウイルス遺伝子を背景としたリコンビナントウイルス」

琉球大学医学部　只野　昌之

⑹.「A single amino acid mutation in the PreMregion of dengue 2 virus is associated with increased virus infection capacity and cytokine production」

長崎大学熱帯医学研究所　Basu Pandey

⑺.「Dengue virus の系統樹解析－基礎データの蓄積」

国立感染症研究所ウイルス１部　伊藤美佳子

⑻.「自然感染におけるポリオウイルスの遺伝子組み換えとその意義」

国立感染症研究所ウイルス２部　Andi Utama

⑼.「フラビウイルス研究におけるリコンビナントウイルスの応用－日本脳炎ウイルス中和抗体の解析」

埼玉医科大学　名和　　優

⑽.「リコンビナントウイルスを用いた NS３蛋白機能解析」

長崎大学熱帯医学研究所　長谷部　太

⑾.「シュードタイプウイルスを用いた HCV 感染機構の解析」

大阪大学微生物病研究所　松浦　善治

⑿.総合討論「フラビウイルスのリコンビナントウイルス利用の問題点」

座　長　保井孝太郎

２．新しい住血吸虫対策法：流行地の現状を考慮し発想を新たにした武器開発の提案

開催日：平成14年８月20日

場　所：長崎大学熱帯医学研究所　大会議室

代表者：寄生行動制御分野　青木　克己

発表者：⑴．「フィリピンにおける日本住血吸虫症と，ラオス・カンボジアにおけるメコン住血吸虫症対策」

独協医科大学　　松田　　肇

⑵．「東南アジアにおける住血吸虫症への集団治療の効果をどの様に評価し，今後の対策につなげるか」

筑波大学　　大前比呂思

⑶．「地理情報の収集と GIS/RS による分布解析の可能性と限界」

国立感染症研究所　　二瓶　直子

⑷．「ビルハルツ住血吸虫症の自覚症状：排尿困難」

長崎大学熱帯医学研究所　　渡部　幹次

⑸．「Detection of specific antibodies in the urine as markers of human S.japonicum infection」

国立感染症研究所　　朝日　博子

⑹．「住血吸虫感染によって誘導される凝固促進因子（CLIP）の誘導機構および病態生理学的意義に関する解析，並びに本因子検出による住血吸虫症診断への応用」

慶応義塾大学医学部　　田邊　将信

⑺．「住血吸虫症モデル動物としてのスナネズミ：抗原提示機序と糸球体腎炎の係わりから」

弘前大学医学部　　神谷　晴夫

⑻．「日本住血吸虫症モデルとしてのミニブタの可能性」

長崎大学熱帯医学研究所　　平山　謙二

⑼．「NOS 阻害剤による住血吸虫殺滅の試み」

久留米大学医学部　　平田　瑞城

⑽．「自然環境が生体へ与える影響と住血吸虫症」

長崎大学熱帯医学研究所　　大渡　　伸

⑾．「Calpain－住血吸虫ワクチン候補分子の局在」

名古屋市立大学医学部　　熊谷　　貴

⑿．「日本住血吸虫はどこからきたか？アフリカそれともアジア？」

高知医科大学医学部　　　　　　　吾妻　　健

⒀.「遺伝子導入／ノックアウトした住血吸虫作成の試み」

順天堂大学医学部　　　　　　　　奈良　武司

⒁.「走化性を利用したミラシジウム囮の開発をめざして」

長崎大学熱帯医学研究所　　　　　青木　克己

⒂. 開発途上国で効果を発揮する住血吸虫対策戦略術についての総合討論

⑴. 診断，集団治療及び疫学に関する新しい研究課題

⑵. 病理と感染防御における新しい研究課題

⑶. 住血吸虫の生物学的研究の進展

３．重症感染の発症機序解明のための動物モデルの開発

開催日：平成15年１月14日～１月15日

場　所：長崎大学　ポンペ会館セミナールーム

長崎大学熱帯医学研究所　病変発現機序分野

代表者：病変発現機序分野　岩崎　琢也

発表者：⑴.「ポリオウイルスの病原性発現機構」

東京大学大学院医学系研究科　　大岡　静衣，柳谷　朗子

⑵.「ポリオウイルス感染の病理学的解析：transgenic mouse を用いた解析」

国立感染症研究所　　　　　　　永田　典代

⑶.「ポリオウイルスの組織特異的感染に対する１型インターフェロンレセプター欠損の影響」

東京都神経科学総合研究所　　　小池　　智

⑷.「抗エンテロウイルス剤の *in vivo* 解析」

丸石製薬㈱研究開発本部中央研究所　吾郷　昌信

⑸.「単純ヘルペスウイルス－１（HSV－１）感染動態と宿主反応の解析：マウス感染実験」

九州大学医学部　　　　　　　　皆川　洋子

⑹.「狂犬病ウイルスの遺伝子操作系～その確立とワクチン開発への応用～」

岐阜大学獣医公衆衛生学　　　　伊藤　直人

⑺.「狂犬病ウイルスの神経病原性に関する分子生物学的研究」

岐阜大学連合獣医学研究科　　　高山　陸代

⑻.「Reverse　Genetics による狂犬病ウイルス西ヶ原株から RC-HL 株への弱毒化機構の解析」

岐阜大学連合獣医学研究科　　　　山田健太郎

⑼.「BHK-21細胞に適応したダニ媒介性脳炎ウイルス変異株のマウスにおける病原性解析」

北海道大学獣医学研究科　　　　高島　郁夫

4．節足動物媒介性疾患と媒介動物の防圧戦略

開催日：平成14年10月４日～10月５日

場　所：長崎大学熱帯医学研究所　大会議室

代表者：三重大学　鎮西　康雄

発表者：⑴.「日本における節足動物媒介性感染症の問題点と今後の対応」

国立感染症研究所　　　　小林　睦生

⑵.「マラリア原虫とその課題」

長崎大学熱帯医学研究所　　　　中澤　秀介

⑶.「マラリア原虫のハマダラカによる特異的媒介機構」

三重大学　　　　伊澤　晴彦

⑷.「マラリア媒介蚊の transgenesis」

自治医科大学　　　　吉田　栄人

⑸.「同胞種の問題，どこまで判っているか」

国立感染症研究所　　　　沢辺　京子

⑹.「デングウイルス媒介蚊制御の諸問題」

大分医科大学　　　　江下　優樹

⑺.「ウイルス側の問題・課題：デング熱」

長崎大学熱帯医学研究所　　　　森田　公一

⑻.「媒介の種特異性を決める要因：サシチョウバエのリーシュマニア原虫感受性」

高知医科大学　　　　橋口　義久

⑼.「シトクロームＣオキシダーゼサブユニット１遺伝子の多様性を応用したサシチョウバエおよびツエツエバエの種同定法」

香川医科大学　　　　村主　節雄

⑽.「動物寄生性オンコセルカ，媒介昆虫および人への感染」

大分医科大学　　　　高岡　宏行

⑾.「日本におけるダニ媒介性ウイルス感染症の現状」

北海道大学　　　　高島　郁夫

⑿.「アジアにおけるライム病ボレリア媒介様式の多様性」

福井医科大学　高田　伸弘

⒀.「日本における紅斑熱群リケッチア媒介種の多様性」

大原総合病院　藤田　博己

馬原医院　馬原　文彦

⒁.「マダニの生物活性物質と原虫感染」

帯広畜産大学　藤崎　幸蔵

⒂.「バベシア症の疫学調査結果と今後の課題」

神戸大学　斎藤あつこ

福井医科大学　矢野　泰弘

⒃.「感染症媒介性マダニ類の生活史」

埼玉医科大学　藤本　和義

⒄.「環境記載／評価の手法について」

長崎大学熱帯医学研究所　高木　正洋

⒅.「GIS は流行発生予測に使えるか」

国立感染症研究所　二瓶　直子

⒆.「環境適応からみたネッタイシマカとヒトスジシマカ」

国立感染症研究所　津田　良夫

⒇.「同胞種の同定の現状について」

琉球大学　當間　孝子

(21).「新世紀の新しい殺虫剤とは」

長崎大学熱帯医学研究所　川田　　均

(22).「殺虫剤感受性レベルの監視と抵抗性遺伝子の分子診断」

国立感染症研究所　冨田　隆史

(23).「殺虫剤抵抗性とアセチルコリンエステラーゼの薬剤感受性低下」

筑波大学　河野　義明

5．危機管理としての熱帯病対策

開催日：平成14年12月25日～26日

場　所：長崎大学熱帯医学研究所　大会議室

代表者：社会環境分野　溝田　　勉

発　表：⑴.「ザンビア国における邦人襲撃事件の社会的背景と対応について」

岡山大学大学院医歯学総合研究科　山本　秀樹

⑵.「Complex Humanitarian Emergency（地域武力紛争）と感染症」

日本赤十字九州国際看護大学　喜多　悦子

⑶.「ソロモン諸島国の民族紛争によるマラリア対策へのインパクト」

神戸大学医学研究国際交流センター　川端　眞人

⑷.「ウエストナイルウイルス脳炎」

九州保健福祉大学　五十嵐　章

⑸.「米国における再興感染症としてのウエストナイル症」

チューレーン大学医療センター　楽得　康之

⑹.「ネパール・マオイスト考：新国王のジレンマと国民のエポケー」

大阪国際大学法政経済学部　山本　勇次

⑺.「私のマラリア顛末記」

浜松医科大学　佐藤　弘明

⑻.「人口移動とマラリアのアウトブレイク」

国立国際医療センター研究所　狩野　繁之

⑼.「もう一つの危機管理」

熊本大学文学部　池田　光穂

⑽.「感染症対策への新たなるアプローチ～連携協力～」

JICA（国際協力事業団）大阪国際センター　石崎　光夫

⑾.「熱帯病対策に土木工学はどう貢献するか～国内感染に備えて」

長崎大学大学院生産科学研究科　後藤惠之輔

⑿.「わが国の医療システムの現状と展望」

長崎県立大学経済学部　古川　孝明

⒀.「EBM からリスクアセスメントおよびリスクマネージメントへ」

産業医科大学大学院医学研究科　吉村　健清

⒁.「フィールドに出る前に」

大分医科大学　山城　哲

⒂.「ドミニカ共和国とタンザニア連合共和国のヘリコバクタ・ピロリ感染率からみた慢性持続性感染に対する危機管理」

大分医科大学　青木　一雄

⒃.「中国におけるエイズ（HIV/AIDS）及び人口政策の現状－「人間の安全保障」に資する研究報告⑴－」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科　秦　亮

4　研究活動

4．1　マラリア

マラリアは今日でも結核，エイズと並んでコントロールが難しい感染症である。蚊や原虫は世代交代がヒトと比べ圧倒的に速く，遺伝子を交換，組み換える。その結果として宿主の体内を含む環境に適応しているのである。この適応能を越える対策を実施しなければマラリアの制圧はできない。制圧には，蚊や原虫の適応能，別の面から言えば多型性の限界がわかっていることが必要である。それ以前に，環境や蚊の生態が明らかでなければならない。それらが変化した場合，マラリア伝播にどう影響するか推定できなければならない。さらに重要なことは原虫に対してどのように防御が成立するのか明らかでなければならない。実際に，マラリアに対して完全に免疫防御が成立したという報告はなく，完全に治療したことを証明することさえ困難である。これらの疑問に答える研究が重要である。

2002年度，センターは３篇発表している。１篇目[4386]は気象と患者の発生数との関係をジンバブエの統計を使って解明を目指した研究である。１月，２月と通年の雨量に加え８月の平均気温の高さが流行期の臨床的マラリア患者と判断された患者数と強い相関を示した。このことは流行期にマラリア患者が爆発的に発生する強さを上述の変数で予測可能ということである。２篇目[4390]はパプアニューギニアにおいて，環境の異なる４村を選び，マラリアの流行の比較を目指した。マラリア原虫の感染の有無を分子生物学的に，抗体価を間接蛍光抗体法で調べた。罹患率と抗体価に相関が認められた。環境調査のデータは論文には示されていない。４村間に観察されたマラリアの流行状況の違いは媒介蚊が卵を産む水面と多寡と関係し，水面の多寡は自然環境や人間の活動と関係つけられて考察されている。３篇目[4359]はソロモン島でマラリアを媒介している２種類のハマダラ蚊の解説である。

生物環境分野ではタイ北部の23年間にわたる媒介蚊の調査を総括した。媒介蚊の採取はヒトと動物を囮とする種々の方法で行い，統計解析をした。一方，土地利用のデータは風景写真を取りこれをデジタル化して農作物による，道路，村，田，果樹園などの別の土地利用による，カテゴリー分けをした。分類は実地見聞と住民に質問して確認し，統計解析した。国際地球生態環境計画が1997年に試験的にタイで行った地表が何によって覆われているかをリモートセンシングしたデータも使用した。結果，マラリア伝播地域と非伝播地域を比較すると，媒介蚊の密度に差はないが伝播地域では媒介蚊が増え，非伝播地域では媒介蚊が減る傾向が観察された。これらの増減の傾向は人口移動やヒトの行動の変化，社会経済の変化などの関与も否定できないが，土地利用と森林の断片化が関与していると考察されている。

＊文中の４桁の上付数字は長崎大学熱帯医学研究所「業績番号」を示す。（参照 p. 62）

原虫部門は４篇発表している。１篇目[4295]はマウスモデルにおける防御能の獲得に関する研究である。ネズミマラリア原虫感染マウスに治療量以下のサルファダイアジンを投与し，初感染から２ヶ月後に同一の原虫をチャレンジして感染経過を観察している。治療量以下でもより投与量が少ない場合の方が防御能をネズミに与えやすい。完全に治療した場合は防御能を与えられないことを示した。２篇目[4296]は，マラリアと HIV の同時感染における原虫粗抗原の HIV への影響に関する研究である。ヒト末梢単核球を原虫抗原で刺激した後 HIV のクローン２種を感染させウイルスの増殖を逆転写酵素の活性の測定などによって調べた。一方，HIV が細胞に侵入する際に使用するレセプターの発現が増加するか，原虫抗原刺激後の末梢単核球を抗 CCR５抗体，抗 CXCR４抗体で染色しフロウサイトメトリーを行った。抗原刺激によってレセプターの発現は増加するが刺激時に IFN が共存すると増加しなかった。短期間の抗原刺激では感染能を増す HIV クローンがあるが，長期間の刺激では感染能は抑制された。抗原刺激時に IFN が共存した場合に感染能が抑制された。３篇目[4297]は三日熱マラリア原虫のメロゾイト表面抗原の形成に関する研究である。61サンプルの内，タイ(20例)，ブラジル（８例)，バングラディッシュ（５例)，韓国（４例)，バヌアツ（２例)，日本（１例）から採取した40サンプルが三日熱マラリア原虫のメロゾイト表面抗原をコードする遺伝子(5.1−5.3kb)について単一のアレルであったのでこれらの DNA 配列をシーケンスエラーが10万分の1.4のレベルでシーケンスを２回繰り返した。得られたシーケンスを種々の解析ソフトで分析した。以下のことが明らかになった。三日熱メロゾイト表面抗原の遺伝子には31種類のパターンがあった。このパターンは７個の保存領域（各パターンに共通している）とそれらに接する６個の可変領域がモザイク状に編成されて出来上がっていた。組み換えの起こった点は遺伝子全体にわたり可変領域にも保存領域にも存在し，分布に規則性がなかった。ブラジルのサンプルはアジアのサンプルよりもより均一性が高かった。同類の２シーケンス間の連鎖不平衡がそれらの間隔が増すにつれて急速に減少するため，新たな組み換えが起きて新しいパターンが生じると考察された。一方，C 末端は DNA 配列の差異は非常に少なかった。４篇目[4298]は，原虫の増殖は抑制されているが根絶ができていない状態の解明を目指す研究である。CD25＋T 細胞は自己免疫に関与し，マラリアにおいても自己免疫が関与した病態があるので，持続感染における CD25＋T 細胞の作用に着目した。持続感染状態のマウスに同一原虫をチャレンジして感染率が上昇する際の CD25＋T 細胞数は増加し，抗 CD25＋抗体を投与したマウスでは感染率の上昇開始が遅れることが示された。CD25＋T 細胞は持続感染時に防御のファインチューニングをする脇役ではないだろうか，主役を明らかにすることがより重要であろう。

臨床部門は１篇発表した。旅行医学におけるマラリアそのほかの熱帯病を解説した[4335]。

疾病生態部門は１篇発表した。脳性マラリア，繊維性住血吸虫症と遺伝的背景との関連を

述べた総論である。従来，脳性マラリアの発生と血中の TNF-α との関連が示唆されてきた。TNF-α のプロモーター領域の DNA 配列を脳性マラリア患者と重症化していない熱帯熱マラリア患者についてビルマ人患者105人，カレン人の患者128人のサンプルを使って解析し，プロモーター領域の多型を７型に分けて分析した結果，TNFP-D 型と脳性マラリアとの間に有意な相関があることを見出した[4374]。

研究活動の概括をした際に，そこから研究のスタンスやスコープも明解に理解できることが重要である。各論文についてはそれぞれの目的がイントロダクションには書かれているが，熱帯医学研究所全体としての姿勢が見え難い。熱帯医学研究所はマラリア研究において，一定の方向性を打ち出すべきである。

昨年よりも論文が多岐に亘っている。各分野に取材して噛み砕いて書くことが要請されているが，著者の多くは出張中のため責任執筆者の責任において説明した。誤解が生じた場合は著者でなく執筆者に責任を問われたい。（文責：中澤秀介）

４．２　住血吸虫症

世界に約２億人の感染者がいると推定されている住血吸虫症は WHO の指定する重要な熱帯病の一つでもある。人に感染する住血吸虫は，日本，マンソン，メコン，ビルハルツ住血吸虫の４種が重要である。日本住血吸虫は中国，東南アジアに，マンソン住血吸虫症はアフリカ，南米に，メコン住血吸虫はメコンデルタ一帯に，ビルハルツ住血吸虫はアフリカ，中東に流行している。

住血吸虫はその名の通り成虫が人体の腸管や膀胱の血管内に寄生することで引き起こされる感染症である。人は中間宿主貝が生息する河や池と接触する時水中を遊泳する幼虫が体内に侵入し感染する。感染した幼虫は約６週間で成虫となり産卵を開始する。産み出された虫卵の一部は体外に排出されるが一部は体内に沈着し血管の閉塞から臓器障害を来す。

日本，マンソン，メコン住血吸虫は成虫が腸管の静脈に寄生する。肝臓に沈着した虫卵は線維化を引き起こし果ては肝硬変にまで至る。この病態は感染強度にもよるが流行地では約10年ほどで肝臓の線維化がおこる。感染者のうち10%程度の人が非常に重度の線維化を引き起こすことが知られている。同じ感染強度でも病害が人により異なる機序について疾病生態分野では免疫機構に関わる遺伝子に着目し解析を行ってきた。

中国江西省の村では人口2,000人のうち30才代以上ではほとんどの人が数回の感染を経験していた。村民を対象に肝病変の進行度を正常から肝硬変まで順に四段階に分類し各人の血液から抽出した DNA から HLA，サイトカインの遺伝子について病変との相関をみた。HLA

-DRB1*1101が進行とともに頻度が下がり逆にHLA-DRB5*0101とHLA-DPB1*0301が重症群で増加する傾向にあったという。さらにサイトカインであるIL-13のプロモーター遺伝子のあるハプロタイプとHLA-DRB5*0101は肝線維化の進展に相乗的に作用することが判明したという。この結果を中心に感染症に対する感受性に関わる遺伝解析について総説を発表している[4375]。

住血吸虫症への対策の一つとしてワクチンの開発がある。しかしながら住血吸虫症のこれまでの知見は主にマウスを用いて得られたものであり，必ずしも人の病態を反映しているとはいいがたい。中国では豚が人と並び住血吸虫の感染源でありまた豚は人と臓器の構造が似ていることから住血吸虫感染モデルとして優れているとされてきた。しかし，その大きさと遺伝背景の不透明さゆえに必ずしも理想的とは言えなかった。そこで近年，日本で開発されたクラウン系ミニ豚を用いて住血吸虫感染のモデルとしての可能性を検討した。その結果従来のミニ豚の知見と異なりクラウン系ミニ豚は非常にすぐれた住血吸虫感染モデルであることが判明した。（第72回日本寄生虫学会大会発表）

人体に寄生する住血吸虫のうちビルハルツ住血吸虫のみ膀胱静脈に寄生し虫卵は尿中に排出される。このとき感染者は血尿と排尿困難を訴えるとされる。寄生行動制御分野ではアフリカのケニアでこのビルハルツ住血吸虫感染者の訴える排尿困難を解析し，住民に住血吸虫感染の自覚をより促すために感染者の調査を行った。ケニアのクワレ地区（ビルハルツ住血吸虫感染の流行地）の学童を対象に尿流量計を用いてその排尿機能を調査した。その結果，排尿機能は感染者においても健常者と同じく保たれておりその自覚症状は主に膀胱の刺激症状に起因することが示唆された。（第43回日本熱帯医学会発表）膀胱刺激症状に起因する痛みの訴えや排尿困難が今後治療後にどのように変化するか検討中である。

熱帯感染症研究センターではビルハルツ住血吸虫症について解説記事を発表した[4392, 4393]。
（文責：渡部幹次）

４．３　フィラリア症

フィラリア症はリンパ系に寄生するバンクロフト糸状虫とマレー糸状虫の感染によっておこる重篤な疾患である。主として開発途上国に流行し（76ヶ国），感染者の数は８千万人，感染の危険にさらされている人は７億人と推定されている。近年WHOにより集団治療による撲滅対策（Elimination of Filariasis）が世界各地で推奨され，実施されているので，近い将来，フィラリア症は公衆衛生上の問題はなくなると期待されている。

しかし，発症機序の解明，抗成虫薬の開発など未解決の研究課題は多い。寄生行動制御分

野は愛知医科大学寄生虫教室と長年共同研究を続けており，今年度は下記の研究成果を発表した。

Brugia pahangi を感染させた自然発症高血圧ラット（SHRSP）の病態の観察結果が報告された[4299]。この研究はフィラリア感染の循環器に及ぼす病変を観察するには SHRSP を用いればが何らかのヒントが得られると考えられるからである。*B. pahangi* 感染 SHRSP は対象群に比べて，体重減少と心肥大を起こし，死亡率が高くなった。この実験結果はフィラリア感染は循環器障害を起こす可能性を示している。

フィラリア特異的尿中 IgG４を検出する ELISA を用いて，スリランカのバンクロフト糸状虫症の流行地で，両親と５才以下の子供の感染状況を観察した結果が報告された[4300]。生後58日以内の乳児には抗体陽性者はみられるが，生後65－417日の乳児には陽性者が見られないこと，生後1000日以後急激に抗体陽性率が上昇すること，抗体陽性の母親から生まれた子供は抗体陰性の母親より生まれた子供より抗体陽性率は高いこと，子供の抗体陽性率と父親の陽性率は関係がないことなど，興味ある所見が報告されている。

フィラリア症の簡単な解説[4304]と総説[4305]も発表された。（文責：青木克己）

４．４　トリパノソーマ症

シャガス病は無症候から心不全，消化器異常など複雑な病態を起因することで知られている。この多様な病態をもたらす原因はその病原体 *Trypanosoma cruzi* のもつ病原性の多様さと，ヒト側の防御反応を含むさまざまな免疫反応の多様性にあると考えられている。原虫側の多様性を調べる一方法として原虫蛋白の二次元電気泳動パターンについて，中央および南アメリカ各地より得られた24株について比較研究を行った。互いに共通しない蛋白スポットの多さはこの原虫が非常に多様な集団よりなり立っていることを示したが，大きく分類すると２つの大きなグループに分類され，それらがさらに小さなサブグループへと分類されることが示された[4373]。このグループ分けは中央から北部南アメリカが１つのグループにそれ以南が第二のグループに入ることから，多様性の分類法として十分役立つことが示された。ヒト主要組織適合遺伝子複合体（MHC）の多様性がどのような形で病態に関係するかは今後の問題であるが，南米パラグアイ，Angaite American community において MHC クラス１に関連する gene A および B の遺伝子多様性が調べられた。興味あることには，この遺伝子を細胞膜上に発現しない MICA-MICB null homozygotes が多数この集団に認められ，本来腸上皮やいくつかの免疫細胞に発現されるべき分子が欠落しても十分に健康な生活が送れることを示した。このような特徴がどのような背景から生みだされ，どのような病態に関連するかは

今後の研究問題である[4372]。（文責：神原廣二）

４．５　寄生蠕虫症

人に寄生して病害を与える蠕虫は50種以上ある。その代表は腸管に寄生する回虫、鞭虫、鉤虫で感染者はそれぞれ13億、10億、12.5億人以上に達する。感染者の多くが熱帯地域の住民であることから腸管寄生蠕虫症は熱帯病の中でも公衆衛生上とくに重要である。

回虫、鞭虫、鉤虫は小児の栄養状態に影響を与え、栄養不良や発育遅延などをもたらす。しかし、必ずしも寄生虫感染と栄養不良との間に正の相関があるわけではない。

感染症研究センターではバングラディシュにおいて駆虫薬投与により栄養状態が改善するか否かを４群（６ヶ月ごと駆虫＋健康教育群、６ヶ月ごと駆虫群、１回の駆虫＋健康教育群、１回のみの駆虫群）に分けて調査した。１グループ約500名ずつの２－８歳児をを対象に糞便内寄生虫卵の検査と身長・体重測定を投薬前および投薬６、12、18ヶ月後に行い、身長や体重の変化を分析した。その結果、１）寄生虫の感染率や感染強度は治療により減少すること、２）18ヶ月の間に行った４回の検便調査において鞭虫に感染していなかった回数の多い児ほど栄養状態はよいこと、３）wasting（身長に対する体重が標準の80%以下）の割合は18ヶ月でほとんど変化せず、stunting（年齢に対する身長が標準の80%以下）の割合は18ヶ月でむしろ増加すること（駆虫にもかかわらず、栄養摂取が悪いため加齢とともに栄養状態の悪い児が増加するものと推察）、４）治療の違いによる栄養状態の改善の差は見られないことを報告した[4387]。（文責：藤巻康教）

４．６　デング熱，日本脳炎，西ナイル熱及び
その他のアルボウイルス感染症

昆虫やダニなどの節足動物で媒介され脊椎動物に感染するウイルスを総称してアルボウイルスと呼び，アルボウイルス感染症は熱帯地域はもとより世界各地において発生しており，公衆衛生学的に非常に重要な問題となっている。アルボウイルスとよばれるウイルスは400種以上にも及び，その中でもフラビウイルスに属するデングウイルスは重症型のデング出血熱の原因ウイルスであり，日本脳炎ウイルス，西ナイルウイルスは時に致死的な脳髄膜炎をおこすことから，世界保健機関（WHO）も重要項目の１つに揚げている。分子構造解析分野と生物環境分野ではこれらのウイルス感染症の病原性や感染伝播様式をより深く理解し適

切な診断法の開発や疾病対策に利することを目的として以下のような研究を行っている。

１．フラビウイルス科フラビウイルス属

１－１）デングウイルス

デングウイルス感染症の流行の予測，及び，その病原性のメカニズムを解明することを目的として，東南アジアを中心にデングウイルス分離株の遺伝子解析を行った。その結果，近年ベトナムで流行しているデングウイルス４型株はこれまで報告されている４型株と異なる新しい遺伝子型（Genotype-3）に分岐し，ベトナム固有株による流行であることが認められた。また，近年デングウイルスの輸入感染例も増加傾向にあり，長崎大学大学病院におけるデングウイルス３型感染による症例から詳細な臨床所見，免疫応答（細胞性免疫，各ウイルス抗原に対する反応性やサイトカインの動態等）に関する知見を得た[4328]。

黄熱やデングウイルスの媒介様式の１つとしてサルによる森林サイクルの存在が知られているが，その実態はあまりよく解明されていない[4275]。そこで，フィリピンのルソン島において54頭の健康な赤毛ザル（*Macaca fascicularis*）から採血を行い，デングウイルス，日本脳炎ウイルス及びチクングニヤウイルスに対する抗体保有調査を行った[4279]。デングウイルス，日本脳炎ウイルスに対する IgG 抗体は100%のサルに，チクングニヤウイルスに対する IgG 抗体は約60%のサルに認められたことから，これらウイルスの森林サイクルの存在が示唆された。

さらにデングウイルスの抗原性を分子レベルで解明する為，Long PCR 法を応用したリコンビナントウイルス作製技術を用いて，日本脳炎ウイルス遺伝子を背景にデングウイルス２型，３型及び４型の構造遺伝子を組換えたキメラウイルスを作製し，それぞれの病原性の解析が進行中である。

１－２）日本脳炎ウイルス

日本を含むアジア各国の日本脳炎ウイルス分離株について遺伝子解析を継続して行っている[4274, 4277, 4281, 4284, 4286]。1990年代に日本，韓国及びタイに遺伝子型１型の侵入が確認され，同様の現象がベトナムの近年の分離株についても認められた。

また，日本脳炎ウイルスの分子生物学的研究として NS５蛋白を大腸菌の系を用いて発現・精製し，RNA dependent RNA polymerase（RdRp）活性の至適反応条件，RdRp Motif の酵素活性への役割及び基質特異性について検討を行った。日本脳炎ウイルスの RdRp 活性の至適反応条件は HCV に報告されている結果とほぼ同じ特性を示し，４つのアミノ酸 Motif はそれぞれ RdRp 活性に重要な役割をもつことが確認された。また，ウイルス遺伝子複製の際，－鎖複製の開始点となる＋鎖３’末端に RNA 合成に抑制的に働く塩基配列の存在が示唆された。

これまで日本脳炎ウイルスの非構造蛋白 NS３の NTPase 及び RNA helicase 活性について

発現蛋白による解析を行い報告してきたが，今回は Long　PCR 法を用いて NS３の RNA helicase Motif II（DEAH）を HCV 型（DECH）に置換したウイルスを作成し，感染・増殖への影響について検討した。NS３蛋白の構造の変化は細胞向性に影響を与え，また，これまで報告されている Motif 以外の遺伝子領域の酵素活性における重要性が示唆された。

１－３）西ナイルウイルス

従来このウイルスはアフリカ，中東，西アジアの熱帯・亜熱帯地域に生息していたが，1999年に米国のニューヨーク市に侵入し，その後，流行地域を急速に拡大し，2002年には40州以上で3,873名の感染者（うち246名死亡）が発生し，今後も更なる流行地域の拡大及び日本への侵入などが危惧され大きな社会問題となっている[4276,4278,4282,4283,4285]。これまで，このウイルスに対するワクチンや治療薬は開発されていなかったが，㈶阪大微生物病研究所及び㈶化学及血清療法研究所と協同で，西ナイル熱に対する細胞培養ワクチンを開発し，マウスを使った動物実験で有効な成績を上げている。また，Loop-mediated Isothermal Amplification（LAMP）法を応用した西ナイル熱の新しい診断法（RT-LAMP）を開発した。

１－４）セントルイス脳炎ウイルス

セントルイス脳炎ウイルス感染による K562細胞における細胞死のメカニズムをアポトーシスの種々の指標を用いて解析し，セントルイス脳炎ウイルス感染による K562細胞における細胞変性効果には Bax 遺伝子による up-regulation が関与していることが示唆された[ウ−3]。

２．トガウイルス科アルファウイルス属

チクングニヤウイルスによる病態は発熱・発疹・疼痛が主症状でデング熱と酷似しており，デングウイルス感染症との早期鑑別診断法の確立が望まれていた。そこで，RT-PCR 法によるチクングニヤウイルス感染症の迅速診断法を確立し，1998年12月にマレーシアで発生したチクングニヤウイルス感染症の突発的流行時に分離されたウイルス株の解析に応用した。世界各地で分離されたチクングニヤウイルス株19株についてＥ１遺伝子257bp の塩基配列を用いて UPGMA 法により遺伝子系統樹解析を行った結果，チクングニヤウイルスは Asia 型，Central / East Africa 型，West Africa 型の３つの遺伝子型に分岐し，マレーシアで分離されたウイルス株は Asia 型に分類された[4182]。また，これまでほとんど報告されていなかったチクングニヤウイルスの塩基配列について，プロトタイプウイルスである S27株（Tanzania，1953年）の全塩基配列を決定し報告した[4272]。

３．媒介昆虫へのアプローチ

デングの流行地域であるラオス中央に位置する Khammouane 州の Nongbok 県と Thakhek 県に調査地域を設定し，デングウイルス媒介蚊の生態調査を行った。両調査地域とも *Aedes*

aegypti が優先種であったが，それぞれ生息する容器の種類や環境に差が認められた。また，捕食性ミジンコ（*Mesocyclops aspericornis*）が生息する容器内にはデングウイルス媒介蚊の幼虫は認められなかった[4360]。

パキスタンの Karachi 市近郊で1985年から1994年にかけ蚊の採集を行い，208,395（1,017プール）匹の *Culex tritaeniorhynchus* の雌を収集した。全ての蚊のプール材料でウイルス分離を試みたが1986年の検体で４株の西ナイルウイルスが分離されただけで，日本脳炎ウイルスや他のフラビウイルスは検出できなかった。この地域に流行している脳髄膜炎は日本脳炎ウイルスによる可能性が低いことが示唆された[4280]。

デングのコントロール対策の中で最重要項目である媒介蚊の防除を推し進める上で有用な知見を得ることを目的として，落ち葉の種類，その腐敗過程の特徴，及び *Aedes albopictus* の幼虫の成長に及ぼす影響について検討を行った[4362]。腐敗速度の速いカエデ科の落ち葉は幼虫への栄養の供給に優れ，腐敗速度の遅いクスノキ科の落ち葉に比べて幼虫の成長に適していた。また，媒介蚊に対する捕食性ミジンコによる生物学的防除の有効性について室内基礎実験[4361,4363]，及び，野外実験[4361]を通して評価を行った。室内実験として，長崎県内に生息する３種類の捕食性ミジンコ *Macrocyclops distinctus*，*Megacyclops viridis* 及び *Mesocyclops pehpeiensis* の寿命，生産性，捕食性について比較解析を行い，また，これらの因子と環境（容積）との関連についても検討を行った。３種共，デングウイルス媒介蚊 *Aedes albopictus* の１～３令幼虫を捕食することが判明し，また，その他の媒介蚊 *Culex tritaeniorhynchus* 及び *Anopheles minimus* の若齢幼虫駆除への有効性が示唆された[4361,4363]。自然条件下での３種の捕食性ミジンコの生物学的防除手段としての有効性を検討するために長崎大学坂本地区構内で野外実験を行った。３種共，*Aedes albopictus* 幼虫発生を抑制し，特に *Macrocyclops* 単独群と混合群で効果的に幼虫の発生抑制が認められ，自然界での捕食性ミジンコによる *Aedes albopictus* の防除の可能性が示唆された[4361]。（文責：長谷部　太）

４．７　コレラに代表される細菌性下痢症

WHO はコレラ cholera，赤痢 epidemic dysentery，腸チフス typhoid fever の３種類の感染症を主たる細菌性下痢症としている。

コレラはコレラ毒素 cholera toxin を産生する *Vibrio cholerae* O１あるいは O139で汚染された飲食物の摂取に由来し，急性水様性下痢，嘔吐，著明な脱水を引き起こす。未治療の死亡率は50％にも達する。WHO によると2001年には58の国で184,311人の罹患，2,728人の死亡が報告され，実数はこの10－20倍と想定されている。本邦では感染症発生動向（厚生労働省）

によれば2001年の患者総数は37人である。ヒトからヒトへの感染は殆どないが，胃切除等の胃疾患例では重篤化しやすいことが問題となっている。

細菌性赤痢はヒトを宿主とする *Shigella dysenteriae* 特に血清型１（Sd１）感染に由来し，敗血症，痙攣，腎不全，溶血性尿毒症症候群 HUS を合併し，死亡率は５－15%である。感染症発生動向によれば本邦では2002年には641人が罹患し，そのうち348人が海外で感染し，感染推定地はアジアが296人と大部分を占めている。日本には常在しておらず，国内例は輸入食品からの国内感染，感染者からの２次感染と想定されている。国外例は大多数が成人例であるが，国内例は小児も含まれている。薬剤耐性が問題となっている。

腸チフスは *Salmonella typhi* で汚染された飲食物の摂取により感染し，必ずしも下痢症状を来さない。未治療の死亡率は10%程度である。世界中で年間1700万人が罹患し，60万人前後が死亡していると想定されている。耐性菌の出現が問題とされている。

分子疫学分野の Basu Dev Pandey は2001年にネパールのカトマンズのモンスーン早期（４－５月）における15才以上の成人の下痢症患者（n＝181）を対象とした病原体解析を行った。その結果，33%の患者で病原体を同定し，病原性大腸菌が8.28%，*Shigella* sp が13.25%（*S. dysenteriae* ５%；*S. flexneri* 4.41%，*S. boydi* 2.2%；*S. sonnei* 1.65%），*Vibrio cholerae* 01が1.1%を占めていた。複数の病原体が検出される例も多く，*Trichuris trichuria*（27.6%），鈎虫（12.7%），*Ascaris lumricoides*（11.0%），*Cryptosporidium*（7.73%），*Cyclospora* sp.（3.86%）が検出された。これらの結果はこの地域の住民が多種類の病原体により下痢症疾患が引き起こされていることを明らかにした[4271]。

共同研究室の一ノ瀬昭豊は増殖中の細菌を自然な状態で走査電子顕微鏡を用いて観察する方法を開発した。*Escherichia coli* O157：H７ verotoxin-minus 株と *Burkholderia psudomallei* を対象とし，特定の処理を行ったセロファンを溶解した寒天培地に浸漬し，セロファン寒天培地を作製した。この培地上で菌を培養し，固定，脱水，臨界点乾燥，蒸着後，走査型電子顕微鏡により観察した。併せて透過型電子顕微鏡のための検体も作製した。培養時間が異なる検体を経時的に検討した。その結果，細菌の微細構築の変化を捕らえることに成功した。従来の方法に比し，自然の状態に近い細菌を観察する事ができる方法であることが確認された[4395]。（文責：岩崎琢也）

４．８　呼吸器感染症

肺炎球・桿菌やインフルエンザ菌などの呼吸器感染症の病原微生物の多くは空気感染や飛沫感染で伝播するものであり，ヒトからヒトへの感染症として世界的な規模での流行を引き

起こし，途上国では小児の死亡原因の代表的なものであり続けている。臨床治療予防分野では呼吸器感染症の臨床と発症メカニズムなどの研究を通してその制圧を目指している。原著論文のほかに呼吸器感染症研究の歴史[4339]と今後の課題を18編の総説を通して示し，新たな治療・予防薬の開発の必要性を論じている。

原著論文では，老人病院における寝たきり患者の気管や便から分離される黄色ブドウ球菌の遺伝子パターンの比較から，こうした患者が黄色ブドウ球菌の交雑と院内での間欠的な汚染の原因となっていることを示した[4334]。一方，胃酸の気管への誤流入が上皮を傷つけ，緑膿菌などのの付着・定着を容易にして肺炎を引き起こすことをマウスの実験から明らかにし[4329]，吸引時などでの誤った医療行為による肺炎の危険を説いた[4332]。さらに，ペニシリン耐性肺炎球菌の親子間での高頻度の伝播があることを分離菌株の遺伝子パターンを比較することから明らかにした[4330]。肺炎の起炎菌の一つであるモラクセラ・カタラリスが定着する宿主の受容体がアシアロ GM１およびアシアロ GM２であることを明らかにした[4327]。ポヴィドンヨード液を用いた嗽が緑膿菌，黄色ブドウ球菌およびインフルエンザ菌による呼吸器感染に予防効果が高いことを示した[4326]。

総説としては，患者の症状，所見および一般検査をもとに肺炎を疑う症状などの詳細[4356]とMRSA 肺炎の特徴と治療を概説した[4348]。さらには院内感染としての肺炎防止策を示した[4343]。一方，肺炎の炎症終息機構に関して，アポトーシスを引き起こした好中球を貪食した肺胞マクロファージが肝細胞増殖因子を産生して組織再生修飾を促すことを示した[4342]。インフルエンザにおける種々の病態の診断において，ウイルスと細菌の関与の有無を明確にして適切な抗菌薬を用いた治療指針の重要性を説く[4340, 4344, 4347, 4354]とともに，インフルエンザの迅速診断について概説した[4353]。

抗菌薬開発と臨床上問題となった耐性菌出現の歴史と現状とその課題について概説した[4346, 4351]。小児は易感染者である高齢者への呼吸器病原菌のキャリアーであり，低年齢児ほど薬剤耐性菌の保菌率が高いことなどを認識して対処する必要があることを示した[4355]。マクロライド系抗生物質の種類と特徴を紹介するとともにエリスロマイシンやニューマクロライドに抗菌作用以外の抗炎症作用に着目した感染症治療の新たな展開を示した[4341]。さらに呼吸器病原菌の抗菌薬に対する耐性菌の増加をとともに肺炎球菌[4341]やインフルエンザ菌ワクチンの重要性を指摘し，今後のワクチン開発戦略を説いた[4345, 4350]。

また，京大ウイルス研との共同研究でチオレドキシンを高発現したマウスがインフルエンザウイルスによる肺炎に抵抗性を獲得すること[4312]や火山災害が及ぼす気管支喘息への影響を普賢岳爆発災害経験を持つ６－11歳の小学生を対象として調べたところ，火山ガスや火山灰のみならず不安などの心理社会的状態が小学生達の喘息発症に関連することを明らかにした[4384]。（文責：平山壽哉）

４．９　その他世界的に問題になっている感染症

胃潰瘍は地球規模でみられる疾患で，これに続発すると考えられる胃ガンや胃壁リンパ腫は日本においても頻度の高い悪性腫瘍である．これらの潰瘍の多くは，*Helicobacter pylori* の持続感染によるもので，本菌の感染機序の解明は急務である．病原因子機能解析分野では，*H. pylori* の何が宿主の細胞に影響を与えるかを研究してきた．細胞に傷害を与えるのは，細菌本体ではなくその分泌する VacA や CagA だと考えられている．*H. pylori* の分泌する VacA は細胞膜に結合し空胞を形成させる物質だが，人の胃内で実際にどれほどあり，胃潰瘍の発症と相関があるのかは報告がなかった。病原因子機能解析分野では，神戸大医との共同研究で bead-ELISA を用いて *H. pylori* 陽性の胃炎，胃潰瘍，十二指腸潰瘍患者総数48名の胃液中の VacA を測定した[4291]。その結果それぞれ52±22（pg/ml），228±277，49±22であった．このことは，これらの疾患のどのタイプが発症するかは従来言われている VacA の質だけでなく，量も関与していることを示していた．

胃上皮細胞膜の VacA 受容体の本体として既に受容体型タンパク質チロジンホスファターゼ（RPTPβ）（別名 PTP-ζ）を明らかにしていた（レビューとして[4287]）．VacA の本受容体への結合が培養血清添加で阻害され，その阻害因子が高分子であることがわかった[4292]．マウスにおけるそのオルソログはもっぱら中枢神経系に発現していると考えられてきた．そこで，国立基礎生物学研究所などとの共同研究を行い，PTP-ζ の遺伝子をノックアウトした *Ptprz*$^{-/-}$マウスと対照マウス（*Ptprz*$^{+/+}$）の初代培養胃上皮細胞における VacA の影響を解析した．その結果，空胞形成とそれに伴う増殖低下は両方で観察されたが，*Ptprz*$^{-/-}$マウスの場合には付着している細胞がはがれ易いことがわかった[4293]．さらに VacA が直接 Ptprz に結合し，その基質である Git-1［G protein-coupled receptor kinase interactor 1］のリン酸化レベルをあげること，従来知られていた Ptprz のリガンドである pleiotropin をマウスに経口投与すると *Ptprz*$^{+/+}$マウスでのみ特異的に胃潰瘍が発症することがわかった．以上のことは，マウスにおいても Ptprz は中枢神経系だけでなく，胃粘膜でも発現されており，VacA の受容体として胃潰瘍の形成に関わることを示していた．

受容体 RPTPβ を持たないにもかかわらず VacA で空胞を形成する Wilms 腫瘍細胞から VacA 結合性を指標にして，新たな受容体をレクチンカラムで分離した．アミノ酸配列の一部が RPTPα と完全に一致したたことなどから，これが RPTPβ と同様 VacA への受容体になっていることが示唆された．

レトロビールスの感染症に地球規模で蔓延している HIV 感染や風土病的な広がりをもちながら，熱帯地・亜熱帯地を含む様々な地方で成人型Ｔ細胞性白血病（HTL）や熱帯性痙性不全麻痺（tropical spastic paraparesis）/HAM を引き起こす HTLV 感染がある．感染症予防治

療分野ではミャンマーでHIV-1に関する分子疫学調査を行った[4333]．ミャンマーでは2000年に29,636例HIV-1感染（うち4,063例はAIDS）が報告されており，その１／３が静脈注射ドラッグ常用者（IDU）であり，残りが異性間性交者（HeS）であった．UNAIDSによれば，ミャンマーのHIV感染者は53万人と推定されている．本調査はミャンマーでのHIVの広がり方を知る目的で，ヤンゴンとマンダレーで*gag*（p17）と*env*（C２/V３）領域をターゲットに血漿中RNAの塩基配列を決定し，その系統樹解析を行った．その結果，ヤンゴンのIDUは全例一つのサブタイプBに属し，HeSの約半数もこれで，かってのタイのパターンに類似していた．これは，強力な発端者がいたことを示唆している．一方，マンダレーのIDUでは，４つのサブタイプが混在するのに対してHeSの過半数が01サブタイプであった．これらは，ミャンマーで地域特異的なHIV伝播が起こっていることを示している．また，ヤンゴンのIDUを除くすべてのグループで，サブタイプ間の再構成を起こしたものが多く同定された．今後さらに詳細な解析を進める予定である．一方エイズ・感染防御分野では，HTLVのTaxがマトリックス酵素であって組織のタンパク質分解を荷なうmetalloprotease-９（MMP-９）遺伝子の発現に及ぼす効果を解析した．HTLV-１感染細胞株でTaxタンパク質が発現する条件では，MMP-９のメッセージもタンパク質も数十倍に上がり，その際，MMP-９プロモーターのNF-*k*B site およびSP-１siteへの転写因子の結合が増えていた．ATL患者の初代培養細胞では例外なくMMP-９のmRNAが上昇し，生検したリンパ節ではMMP-９タンパク質が免疫組織化学的に証明された．白血病細胞で作られ，細胞外に放出されるMMP-９は基底膜のIV型コラーゲンを破壊し，腫瘍細胞の浸潤を可能にするキー酵素の一つと考えられる．したがって，ATLの治療にはその発現を制御することが極めて重要であり，本研究がそのきっかけとなろう．

世界的にポリオが制圧された今日，神経症状を呈する重大なエンテロウイルスはEnterovirus71（EV71）である[4321]．これは1998年台湾で流行したようにその発症伝播が世界的な脅威となっているにもかかわらず，その多彩な臨床症状と分離株との関連は明らかではなかった．そこで，病変発現機序分野では国立感染研などとの共同研究を行い，種々のEV71臨床分離株の猿への感染系を用いて神経系への病原性を解析した[4310]．その結果，EV71がいつどのような臨床症状を呈した患者から分離されたかには関係なく，弛緩性麻痺に代表される錐体路系徴候と振戦や歩行障害に代表される錐体外路徴候を示す事が解った．組織学的検査ではウイルスの増殖が，大脳，小脳皮質，脳幹，歯状核，脊髄で認められた．

性器ヘルペスの起炎菌は単純ヘルペス（HSV）１型および２型であるが，２型ウイルスでの神経伝播経路や，ウイルス毒性と臨床症状との関連は不明な点が多い．病変発現機序分野では，慈恵医大・富山医薬大との共同研究でBALB/cマウス実験モデルを用いてその解析を行った[4323]．その結果，神経伝播経路はウイルスの株に関係なく，接種膣粘膜上皮より後根神

経節をへて脊髄に到り，知覚神経ニューロンから運動神経系や自律神経系ニューロンに直接感染していく事が明らかとなった．ヒトで尿閉を起こす株すなわち強毒株がマウスでは毒性が最も弱いことから，両種の感受性には違いが認められた．また，エストロゲンを投与するとHSV２型による死亡率が０になるのは，感染病態や，予防法を考える上で興味深い．

Ａ型肝炎ウイルス（HAV）は，東南アジアで広くまん延しており，小児に比べて大人での初感染では症状や病態が重くなる傾向がある．従ってそれへの抗体陽性率がどうなっているかは，発病予測を知る上で重要である．またＤ型肝炎ウイルス（HDV）はHBVのエンベロップを流用するので，HBVキャリアの比較的多い東南アジアでの発症が危惧される．病変発現機序分野ではタイ北部におけるこれらウイルスのまん延度を知るために，学童における抗HAV抗体とHBV陽性献血者における抗HDV抗体をチェックした[4316,4317]．前者の結果は，都市部の10～16歳児での陽性率が低い事と，農村部の児童が全般的に低い事を示しており，これら陰性の子供たちに将来集団的なHAV感染症が起こる可能性があることを示していた．また，後者でHDV陽性者は１名も検出されず，アフリカや台湾，フィジー・サモア等とは異なっている事がわかった．その理由は今後興味ある疫学的問題である．

リケッチアは，熱帯地だけでなく世界各地で風土病としてまた人獣共通感染症としてまん延している．ツツガ虫リケッチアはダニ（ツツガ虫）に媒介されるが，野生のダニのリケッチア陽性率を知る目的で，熱帯感染症研究センターは新潟大薬学部などと共同して，薩摩半島の３地区のダニ *Leptotrombidium scutellare* における抗リケッチア免疫蛍光染色を行った[4378]．ダニの捕獲にはセンターの鈴木助教授が開発した黒布法を用いた．その結果，6,775例中１例のみが抗ツツガ虫抗体陽性でありそのサブタイプはKawasaki型であった．（文責：中村三千男）

４．10　細胞からのアプローチ

病原体刺激に対する宿主細胞応答と関連して，熱帯医学研究所では2002年度に以下のような研究成果を得ている。

感染症予防治療分野では，慢性下気道感染症の気道局所病態において炎症性サイトカイン，特にIL‐８が破壊性気道病変に関連していることを示し，サイトカイン産生の機構解明と，それらの制御による治療法の確立を目指して研究を行ってきている。

IL‐８産生には炎症巣に集積する活性化好中球が関連していると考えられているが，それは臨床的に使用される濃度のerythromycin,clarithromycin等14員環マクロライドによって抑制されることを示した。この14員環マクロライドによるIL‐８産生抑制においてアポトーシス

の促進は認められず，本抗生剤が慢性下気道感染症の治療に有効であることを示唆している[4325]。

びまん性汎細気管支炎患者の下気道感染局所に浸潤した好中球は，徐々にアポトーシスを示し肺胞マクロファージによって処理される。今回，14員環，15員環マクロライドで肺胞マクロファージを処理すると貪食の効率は上がり，それはマクロファージ上のホスファチジルセリンレセプターを介していることを明らかにした。14員環 erythromycin,clarithromycin，15員環 azithromycin は有効であったが，16員環マクロライド，βーラクタム系の抗生物質は効果を示さなかった。14員環，15員環マクロライドのびまん性汎細気管支炎における抗炎症作用において，肺胞マクロファージによるアポトーシスを起こした細胞の処理が関連していることが示された[4331]。

エイズ・感染防御分野では標的細胞特異的に遺伝子を導入するシステムの開発研究を行っている。

エコトロピック（同種指向性）モロニーマウス白血病ウイルス（Mo-MLV）をベクターとして，その感染性を失せることなく，Env タンパク質の可変領域 A に EGF リガンドや SDF-１α リガンドを挿入出来ることを示した。しかもケモカインの一種であるヒトストローマ由来因子 SDF-１α-Env を挿入したベクターでは，レセプターである CXCR４を発現するヒト細胞特異的に形質導入することが出来，それはリガンドーレセプター相互認識によるものであることを示した。この研究は，レトロウイルスベクターの Env に特異的なリガンドを挿入することで，そのリガンドと結合するレセプターを発現している細胞を特異的なターゲットとして形質導入することに成功した最初の報告である[4357]。

ラット XC 細胞はラウス肉腫ウイルス感染腫瘍から得られた細胞で，Mo-MLV が感染すると細胞同士の融合を起こして，多核細胞化を示すことが知られている。この XC 細胞の性質が，ウイルスレセプターの違いによるのではないかと仮定し，CAT１cDNA を単離した。実際に，ラット XC 細胞の CAT１では Asn 結合型糖鎖付加部位に変異が生じており，それによって Mo-MLV の感染性が下がることを示すことができた。一方で細胞融合，多核化については CAT１の変異のみでは説明ができず，XC 細胞の何か他のファクターも必要と思われる[4358]。

炎症細胞機構分野では，感染の初期防御に働く食細胞の解析を行っている。食細胞 NADPH オキシダーゼを欠損する慢性肉芽腫症（CGD）患者では，活性酸素産生において直接電子を運ぶ役割を担っている Gp91phox の５’上流プロモーター領域に，PU-１，HAF-１が結合出来なくなる変異が見つかっている。この２つのファクターはプロモーターの同じサイト（Pu box）に結合することが示されており，実際の in vivo での遺伝子発現においてどちらの寄与が大きいのかを，単球に分化した PLB-985細胞を用いて調べた。ルシフェラーゼレ

ポーターアッセイ，プロモーター部位の変異を含むオリゴヌクレオチドを用いたゲルシフト阻害実験を行い，プロモーターの PU-１との結合親和性が遺伝子の発現に重要であり，HAF-１の寄与は補助的なものであることを明らかにした[4306]。

病変発現機序分野は名古屋大学との共同研究で，ヒトヘルペスウイルス６（HHV-６）を中枢神経系アストロサイトーマ U251腫瘍細胞に潜在感染させ，そのサイトカイン産生を調べて報告した。感染初期タンパク質の U90は核に存在が認められたが，後期に発現する OHV-３タンパク質は検出されず，ウイルス粒子も存在しなかった。ウイルスのコピー数は，感染の後，継代するごとに徐々に減少し，６世代以降一定に保たれていた。潜在化したウイルス感染細胞を TPA 処理すると U31，U39遺伝子の転写が起こり，それに伴って宿主の IL-６，IL-１β の産生が認められた。この HHV-６の in vitro 中枢神経系アストログリア細胞への潜在感染系の確立は，免疫抑制状態や多発性硬化症に於ける病態を解明するモデルとして期待される[4307]。

病原因子分野では抗菌ペプチド，ディフェンシンの研究を行っている。ヒトの呼吸器官で，上皮細胞はマクロファージ等の細胞と協調して先天性免疫応答に働いている。その表面には，Arg 特異的 ADP リボシルトランスフェラーゼを発現し，分泌しており，一方免疫細胞から分泌される defensin は Arg に富んでいて基質と考えられる。今回，defensin の生物活性は ADP リボシル化によって調節されているのではないかと推測し，その仮説を検証した。気管上皮細胞に発現される ADP リボシルトランスフェラーゼ-１は，defensin-１の Arg-14を ADP リボシル化し，その抗菌活性，細胞障害性活性を抑制した。さらに ADP リボシル化された defensin-１は，修飾を受けていない defensin-１の抗菌作用，細胞障害性をも阻害した。ADP リボシル化された defensin-１は，喫煙者の気管支肺胞洗浄液からは検出されたが非喫煙者からは検出されなかった。この実験から，気管上皮細胞の ADP リボシルトランスフェラーゼ-１は defensin-１の ADP リボシル化を介して気管上皮における先天性免疫の調節に重要な役割をしていることが示された[4289]。

また病原因子分野は，細胞への効果的な遺伝子導入方法の開発を長崎大学工学部と共同で研究している。今年度，L-リジンを基にして樹枝状に伸張させた試薬を開発し，５回，６回以上重合させて作成した表面に64，128のアミノ基を持つ試薬が有効であることを示した。開発した遺伝子導入試薬は細胞毒性を示さず，種々の培養細胞に効果的にプラスミド DNA を導入して発現させることが出来た。またこの試薬は血清存在下でも使用することが出来ることが特徴で，今後の応用を期待している[4290]。

共同研究室では，設置している電子顕微鏡を用いて，フグの一種 Tetraodon nigroviridis の皮膚におけるフグ毒テトロドトキシン（TTX）の局在を調べた。モノクローナル抗体を用いて，光学顕微鏡，電子顕微鏡で観察し，皮の未分化基底細胞リソゾーム中に TTX の存在を

認めた。TTX は魚の血管から拡散によって未分化基底細胞層に入り，ファゴサイトーシスで取り込まれてリソゾームに検出されると推測している[4396]。（文責：上村春樹）

4．11　社会からのアプローチ

本項では，実験ラボから各疾患を見るという手法を採らず，熱帯病及び熱帯医学分野の様々な研究・報告を別の角度から紹介する。内容的には熱帯医学研究の現状レビュウ，純粋な生物・化学的研究，技術方法論としての保健医療情報システム構築への試み，国際保健看護学分野での取り組みや医学分野での国際協力，さらには頻発する危機管理や研究者倫理の背景となる文化論的研究が含まれる。もとより熱帯病流行の要因は，自然地理的要因のみならず，貧困や無知，劣悪な社会経済的な要因が少なからず影響を及ぼしている。

医学の進歩は，その研究対象としての地理的区分を今や殆ど除外視するものとした。熱帯地に生ずる疾患は，その地に限らず何処にでも発症し得る。近年の新興・再興感染症がそれを如実に示している。また，医学の目的は生身の人間の健康，中でも病気の診断や治療を目的とした研究室限りの行為ではとても終結ということにはならなくなった。むしろ予防に主眼を置いた，学際的かつ統合的な研究こそ必要となっている。つまり，資源を含めて所与の条件を踏まえつつ，人間個人から集団の健康を守る具体策の提示が求められている。

加えて研究方法が大きく変化を遂げた。コンピュータ技術の進歩が情報産業を生み，その市場として医療や熱帯医学の発展に活用される機会を大きくした。IT は先端科学のみならず，人間社会の健康保持にこそ活用されるべきとの立場から保健情報の収集に役立てようとの目論みである。熱帯医学は研究対象が極めて広範にわたることから，疾患そのものの理解把握のみならず対策・予防にこそ格段の創意工夫を要するという特徴がある。対象が病原体に限らず，人間集団そのものという難しさがそこに存在する。

平成14年度に寄せられた研究論文を，その方法論から幾つかに分類してみたい。⑴比較的従来型の実証研究，⑵人間集団社会への対策・予防を目的とした提案型の研究，⑶IT 技術の応用による疫学的取組みの推進，そして⑷非科学的かも知れないが，患者と医師が「語らい」を通した治療や健康回復の本質に迫る取組み研究の４つである。

まず，⑴に含まれるのは，大分県において初めてハナヒル（Dinobdella ferox）がヒトへの寄生例発見が報告されている[4376]。欧米型の計測方法でアジア人，特に日本人の体型や体格の特性を指摘している[4382,4385]。遺伝情報の分類からすれば，パプア・ニューギニア人種に多いのは同じオーストラリア原住民族であってもメラネシア型であって，ミクロネシア及びポリネシア型でないこと[4391]。慢性閉塞性肺疾患患者と運動耐容能評価法としての漸増シャトル

ウォーキングテストの妥当性が示された[4389]。大学病院看護師のバーンアウト・スコアと東大式自記健康調査票の成績を比較したところ，年齢や役職の相違が顕著に精神心理面での動揺に現出していること[4380]，等がある。

この段階では，従来の「科学的」方法の定石を採ることにより実証可能なデータ収集とその積み上げで，今後に接点を持ち診断や治療，あるいはフィールド調査に役立つ可能性があるとされる社会への接近を試みていることが伺われる。

次に，疾病予防を目的とし，背景となる事柄について理解の混乱を避けるという点で直に社会への対応という第２区分では以下の４つの研究がその目的を果たし得ている。

まず，バングラデシュの農村コミュニティ50箇所の調査を行ったデータが示すところは[4388]，空気や水の汚れ，森林の伐採，貧困や失業そして教育などの社会的経済的状況が人々の栄養不良や健康状況に大きく作用し，農村社会全体の発展に多大な影響を及ぼしている事態を多角的に指摘している。

狂牛病（BSE），炭疽菌が米国社会に与えた影響は[4364]，流石にその前年度に起きた同時多発テロとの関連性こそ喧伝される状況下ではなくなったものの，突発的に生じたやに見られる感染症が，流行や騒乱地域特有の社会・文化的基盤の上に緊急性が付加された課題であることが判明した。プリオンや細菌対象の病理研究のみでは，あれほどの社会的騒動に展開し得なかった状況を示している。

危機管理の点から，輸入感染症に対する格別の配慮はマラリア，住血吸虫症，デング熱に係わる医療従事者及び旅行者における注意点[4349]，そして一般的に血液に起因する疾病や輸血，注射，麻薬患者を介して生じた医療情報のネットワーク化により，行動の危機管理を徹底すべき時代に立ち至っていると考えられる[4365]。

最初に掲げた第３区分のもとでは，コンピュータ技術の応用により，種々の病原体が人間社会に及ぼす負の影響を少なくする研究への支援を多様に試みている。医療とコンピュータ[4369, 4370]，寄生虫に関する情報収集システム[4394]，衛星通信を使用したネパール国への小児科支援目的の遠隔医療実験とその実用化[4368]，及び保健情報の視覚化と WebGIS である[4371]。

以上とは全く別の観点から人間社会とのアプローチを健康回復について図ったものが，以下の当初分類中の第４である。

老人保健医療施設入所者への生活史聴取とナラティブ・ベースト・ナーシングによる医療が健康達成にとって大いに効果的である旨の研究が紹介されている[4381]。「語らせる」ことを通じ看護問題の解決や，人間が尊厳を確保する意味での誇りとイメージを生きる場面で持続出来るという今一つの医療モデルを提案している。

同様の意味で「やまい」（illness）の理解を疾患（disease），病気（sickness）との区別で捉え，ナラティブ・ベースト・ナーシングと国際保健が純粋に科学的方法論を採ることで「癒

し」に繋がるかどうかの疑問が投げかけられた[4383]。近年，科学的・確率論的根拠に基づいた（EBM）医療が強調されてきたが，個々の患者にとっては，自分の罹っている「やまい」が全てであるという。接近方法を変えることにより，異文化における「やまい」への対処を新たなものにしたり，さらには幼児期の病気に対する統合ケア（IMCI）の重要性が指摘されている。

心身の健康に関する認識を，より望ましいと考えられる方向に価値転換させるには，単なる科学的データの収績のみでは不充分と言えよう。教養的常識や内なる異文化理解を深めることにより判断され得る事柄も少ない。国際協力による「癒し」の研究の意義もそこにある[4366,4367]。また，国際保健医療の領域から感染症対策や広く熱帯医学を概観すると，いわゆる「人間の安全保障」を充足させるのはプライマリー・ヘルスケア（PHC）の充実や推進がその基本となる。またそれを支える熱帯病医学と社会病理との間にどの程度の距離が置かれているかによって，熱帯医学研究が如何に社会にアプローチし得ているかの度合いが決まるというものである。（文責：溝田　勉）

5　特別事業費による事業

5．1　熱帯医学研修課程

熱帯医学研修課程は，研究所の役割のひとつである教育・研修プログラムの中で，「専門家の育成」として位置付けられている。文部省（当時）により昭和53年度（1978）に本研究所に設けられ，現在我が国唯一の熱帯医学に関する専門的な研修課程である。毎年６月から８月の３ヶ月間行われる。定員は従来10名であったが，応募者数の増加と東大医科研の同種コースの閉鎖に伴い，平成12年から定員15名に増加した。

研修課程の目的は，熱帯医学に関する基本的かつ系統的な知識や技術を伝え，熱帯医学領域の理解を助け，この領域への参入を支援することにあり，その対象者としては，現在の専門に熱帯医学の理解が重要と考える研究者，あるいは熱帯医学領域の活動を志す者，また国内における活動に熱帯医学の知識と技能を必要とする者など，広範な人材を想定している。

運営は，所外関連領域機関長および専門家14名に委嘱して構成されている熱帯医学研修課程運営委員会の指導の元に，実質的には所内の教務委員会が司っている。

平成14年度（第25回）熱帯医学研修課程は，平成14年６月３日から８月30日まで定員15名で実施した。

従来は年度末近くに開催していた運営委員会を，研修課程終了時の平成14年８月29日に，研修生との交換会も兼ねて開催した。運営委員の出席は５名であった。

運営委員会では，平成14年度の実施報告に続き，熱帯医学研修課程の定員，あり方など多岐にわたって討議されたが，具体的な平成15年度研修生募集要項（案）及び熱帯医学研修課程運営については，熱帯医学研究所内の教務委員会が運営委員会の討議内容に基づいて企画実施することで了承された。

１．応募者について（図１）

本年度応募者は，定員15名に対し25名，国内16名（９都道府県）国外９名で，九州管内からの応募者は３名であった。昨年の34名から９名減である。

２．研修生について（図２）

本年度から選考過程をより客観性のあるものにするため，選考における評価方法に点数制を取り入れた。

本年度の評価方法では，既に海外経験のある者が高得点になる配点となった。実際本年度の研修生のうち９名は青年海外協力隊などで海外医療援助活動等の経験を持っている者が多

図１　応募者内訳（男女別）

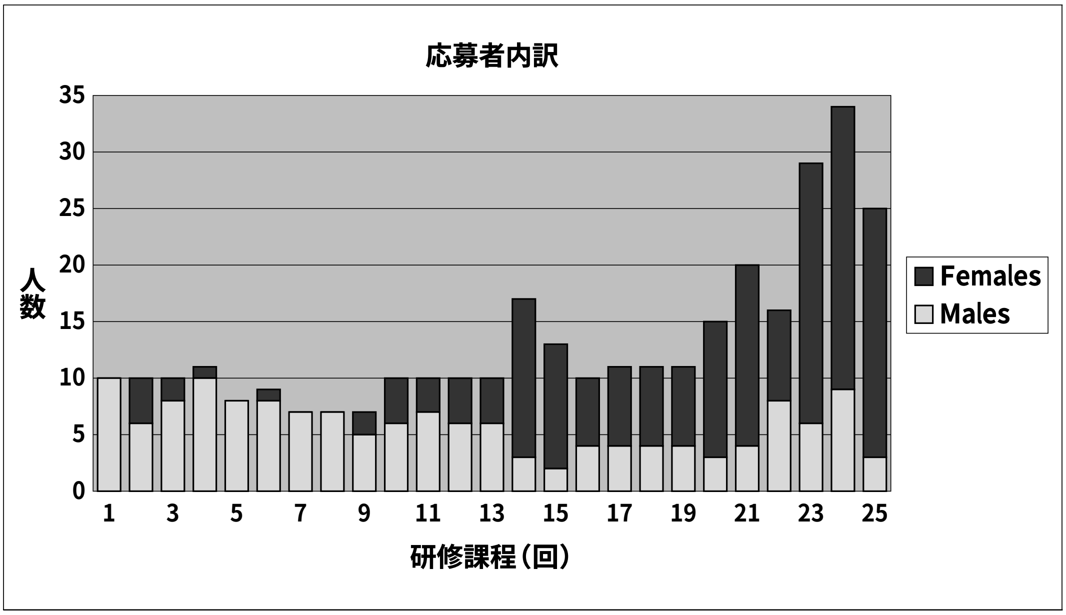
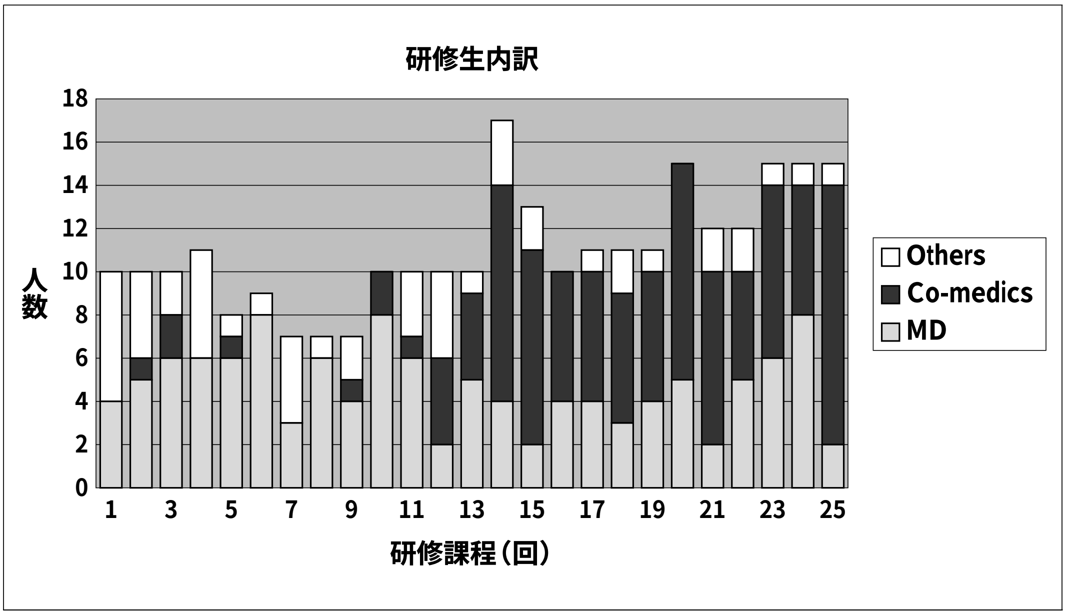


図２　研修生内訳（専門別）



い。結果的に，これまでに海外における活動経験はないがこれから海外で活動する希望を持っている者に不利な選考となった。

政府組織からの応募が本年度も検疫所，自衛隊からそれぞれ１名あった。検討の結果，これらの応募に対して本年度は無条件で受け入れることにした。従って，実質的に選考されて入学した者は13名である。

研修生の構成が，実践家が中心となる最近の傾向に変化はない。

３．カリキュラムについて

研究所内の各分野が一定の得意課目を担当し，カバーできない特殊な課目や学際領域を特別講義として外来講師が担当するという，従来の方法を踏襲した。

４．研修生による評価

今年度は毎時間（各教官または各テーマ別）の評価を５段階で行った。

全体として，講義・実習に対する評価は３－４であったが，研修生自身の理解は２－３と比較的低く，提供した内容と満足度の間には乖離が認められた。

一部の講義に対しては，内容も含めて厳しい評価があった。

終了時に，例年通り研修課程全般について，講義，実習，テキストの内容を評価した。結果は10点満点で７点。ここ数年間のうちでは最低点であった。

また，せっかくの評価が迅速かつ有効に活用されていないとの指摘があった。

５．運営委員会

主にふたつのテーマについて審議した。１）研修生の多様性の問題，研修生ひとりひとりの興味が非常にことなるために，研修生の満足度が低下し，講義陣にも戸惑いがある問題と，２）講義・実習の内容の質そのものに対する不満，である。

論議は多岐にわたったが，いずれも講義陣の期待と研修生の期待に齟齬が生じてきているものと理解された。研修生の期待と研修内容のミスマッチを招いている大きな原因のひとつは，研修課程に対する熱研のビジョンが明確に示されていないことであることが認識され，来年度に向けてビジョンを含めてカリキュラム，講義内容の見直しが必要であることが了解された。

６．今後の方針と検討課題

１）　様々な工夫によって講義実習内容の質の向上を目指す。

２）　多様な研修生に対応したカリキュラムのあり方を検討する。

３）　若者を育てるという観点から研修生選考方法を再考する。

４）　応募者数の今後の変化に注目する。

５）　研修課程に対するわれわれのビジョンを明確にし，募集要項に記載する。

（文責：嶋田雅曉）

6　文部科学省科学研究費補助金等による研究

6．1　文部科学省科学研究費補助金（平成14年度採択分）

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研　究　課　題	備　考
特定領域研究(2)	教　授・平　山　壽　哉	6,500	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の空胞致死活性機序	14年度
〃	教　授・高　木　正　洋	3,000	疾病媒介蚊の地理的変異の精査，並びにその起因環境の GIS による分析	14年度
基盤研究(A) 海　外(1)	教　授・平　山　謙　二	11,100 間接 3,330	シャーガス病の多様な病態とヒト及び原虫の種内変異との関連	12年～14年度 継続
基盤研究(A) 海　外(2)	教　授・高　木　正　洋	8,500 間接 2,550	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度
基盤研究(B) 一　般(2)	教　授・永　武　　毅	2,800	呼吸器病原菌のヒト上皮細胞付着因子解明による感染予防戦略への応用	13年～14年度 継続
基盤研究(B) 展　開(2)	教　授・平　山　壽　哉	3,600	ヘリコバクター・ピロリの成分ワクチン開発基盤	13年～15年度 継続
基盤研究(B) 海　外(2)	教　授・青　木　克　己	5,000	ビルハルツ住血吸虫症－流行地の住民への浸潤程度が明らかにされるべき病害の疫学調査	12年～14年 継続
〃	教　授・永　武　　毅	3,700	タイ国における AIDS に合併した呼吸器感染症治療法と予防対策の研究	12年～14年 継続
〃	教　授・門　司　和　彦	1,000	エイズと住血吸虫感染の予防行動に対する健康教育の有効性に関する研究	12年～15年度 継続
〃	教　授・森　田　公　一	4,600	東南アジアにおけるデング出血熱の新興・拡大の原因調査	13年～14年度 継続
〃	教　授・嶋　田　雅　曉	2,300	アフリカにおける住血吸虫症流行地住民の行動研究	13年～15年度 継続
〃	助教授・鳥　山　　寛	3,400	熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度 継続
〃	教　授・平　山　壽　哉	6,900	ヘリコバクター・ピロリ感染の多様な疾患と VacA 毒素の多型比較調査	14年～15年度
〃	教　授・岩　崎　琢　也	6,600	東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析	14年～16年度
〃	助教授・大　石　和　徳	5,300	デングウイルス感染症における血小板減少の機序の解明	14年～15年度
〃	講　師・上　村　春　樹	2,500	熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の変異多型と薬剤感受性：地域性と時間的推移	14年～16年度

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研　究　課　題	備　考
〃	助　手・安　高　雄　治	2,800	アフリカにおける高解像度衛星画像データの熱帯感染症研究への応用	14年～16年度
基盤研究(C) 一　般(2)	教　授・平　山　壽　哉	1,600	ヘリコバクター・ピロリ VacA 毒素の毒性発現と受容体の役割	13年～14年度 継続
基盤研究(C) 一　般(2)	教　授・青　木　克　己	1,600	住血吸虫ミラシジウムの中間宿主貝へのケモ・クリノカイネシスに係る情報伝達経路	13年～14年度 継続
〃	助教授・大　渡　　伸	1,500	疾病感染に対する太陽紫外線曝露の増悪作用と影響評価	13年～14年度 継続
〃	講　師・上　村　春　樹	1,300	トランスシアリダーゼファミリーの構造と機能の多様性と原虫生活環における役割	13年～14年度 継続
〃	講　師・熊　取　厚　志	1,500	CYBB 転写異常型慢性肉芽腫におけるインターフェロンγ著効機序の解析	13年～14年度 継続
〃	講　師・津　田　良　夫	900	都市化がもたらすデング熱媒介蚊の生態遺伝的変化	13年～16年度 継続
〃	教　授・岩　崎　琢　也	2,200	単純ヘルペス感染における粘膜より神経への伝播経路の解明	14年～15年度
〃	教　授・中　村　三千男	2,200	リケッチア感染による gp91phox 遺伝子発現の修飾機構の解析	14年～15年度
〃	助教授・大　石　和　徳	1,700	インフルエンザ菌による肺適応免疫誘導に関する研究	14年～15年度
基盤研究(C) 企　画(2)	助　手・谷　村　　晋	3,400	ミャンマーにおける住血吸虫症疫学調査	14年度
萌芽研究	教　授・門　司　和　彦	1,200	アフリカにおける子どもの「病いの疫学」と統合ケア（IMCI）	14年～15年度
若手研究(B)	助　手・和　田　昭　裕	600	ヘリコバクター・ピロリの病原性遺伝子群の機能解析	13年～14年度 継続
〃	助　手・渡　部　幹　次	500	核磁気共鳴画像装置を用いた，糞線虫感染による脳内病変と宿主行動変容の経時的解析	13年～14年度 継続
〃	助　手・鈴　木　章　一	1,000	樹状細胞の分化における IRF－４の役割	13年～14年度 継続
合　計	直接経費 間接経費	100,800 5,880		

６．２　文部科学省科学研究費補助金（平成15年度内定分）

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研　究　課　題	備　考
特定領域研究(2)	教　授・森　田　公　一	2,700	西ナイルウイルスのワクチン試作とその評価	15年度
特定領域研究(2)	教　授・平　山　謙　二	5,200	重症型熱帯感染症（デング出血熱,慢性シャーガス病）の感受性遺伝子の解明	15年度
基盤研究(A)海外(2)	教　授・高　木　正　洋	9,900 間接 2,970	東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価	14年～17年度継続
基盤研究(B)展開(2)	教　授・平　山　壽　哉	3,600	ヘリコバクター・ピロリの成分ワクチン開発基盤	13年～15年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・森　田　公　一	3,600	デング出血熱重症化に関与する宿主および病原体因子の解明	15年～17年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・平　山　壽　哉	6,000	ヘリコバクター・ピロリ感染の多様な疾患と VacA 毒素の多型比較調査	14年～15年度継続
基盤研究(B)海外(2)	講　師・上　村　春　樹	2,100	熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の変異多型と薬剤感受性：地域性と時間的推移	14年～16年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・青　木　克　己	4,900	ビルハルツ住血吸虫症：感染者の疾病認識に沿った調査により明らかになる多様な病害	15年～17年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・岩　崎　琢　也	4,000	東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析	14年～16年度継続
基盤研究(B)海外(2)	助教授・鳥　山　　　寛	3,100	熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究	13年～16年度継続
基盤研究(B)海外(2)	助教授・大　石　和　徳	3,600	デングウイルス感染症における血小板減少の機序の解明	14年～15年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・平　山　謙　二	4,200	南米のシャーガス病の重症化を規定するヒトおよび原虫の遺伝子解析	15年～18年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・嶋　田　雅　曉	1,400	アフリカにおける住血吸虫症流行地住民の行動研究	13年～15年度継続
基盤研究(B)海外(2)	教　授・門　司　和　彦	600	エイズと住血吸虫感染の予防行動に対する健康教育の有効性に関する研究	12年～15年度継続
基盤研究(B)海外(2)	助　手・安　高　雄　治	1,800	アフリカにおける高解像度衛星画像データの熱帯感染症研究への応用	14年～16年度継続
基盤研究(C)一般(2)	助　手・江　原　雅　彦	2,400	Non－Ｏ１コレラ菌の組織侵入,敗血症憎悪メカニズム	15年～16年度継続

研究種目	研究代表者職・氏名	金額(千円)	研究課題	備考
基盤研究(C) 一般(2)	教授・中村三千男	1,300	リケッチア感染による gp91phox 遺伝子発現の修飾機構の解析	14年～15年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	講師・熊取厚志	2,100	炎症時のインターフェロンγによるシトクロム b558重鎖遺伝子発現誘導機構の解析	15年～16年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	教授・岩崎琢也	1,300	単純ヘルペス感染における粘膜より神経への伝播経路の解明	14年～15年度 継続
基盤研究(C) 一般(2)	助教授・大石和徳	1,600	インフルエンザ菌による肺適応免疫誘導に関する研究	14年～15年度 継続
萌芽研究	教授・平山壽哉	2,000	ピロリ菌空胞化毒素を阻害する血清成分に関する研究	15年～16年度 継続
萌芽研究	教授・平山謙二	2,000	住血吸虫性肝線維化を調節するT細胞を刺激する虫卵抗原の同定	15年～16年度 継続
萌芽研究	助教授・大渡伸	2,300	水圧振動の共鳴・忌避周波数による水棲病害微生物の選択的駆除と生態系影響評価	15年～17年度 継続
萌芽研究	教授・門司和彦	600	アフリカにおける子どもの「病いの疫学」と統合ケア（IMCI）	14年～15年度 継続
若手研究(B)	助手・鈴木章一	2,400	IRF－4欠損マウスを用いた樹状細胞の分化及び活性化機構の解析	15年～16年度 継続
若手研究(B)	助手・早坂大輔	1,600	フラビウイルスの節足動物細胞における感染・増殖機構に関する分子基盤の解明	15年～17年度 継続
若手研究(B)	助手・久保嘉直	1,300	レトロウイルスエンベロープ蛋白質による膜融合のシグナル伝達経路	14年～15年度 継続
若手研究(B)	助手・都野展子	1,500	マラリア媒介蚊ガンビエハマダラカグループの同所的共存機構	15年～17年度 継続
合計	直接経費 間接経費	79,100 2,970		

６．３　受託研究費（平成14年度分）

受託者等	職・氏名	研究課題	備考
科学振興財団（CREST）	教授・森田公一	ウイルス感染症における糖鎖機能の解明と創薬への応用	分担研究者
厚生労働科学研究費補助金･新興･再興感染症研究事業	教授・森田公一	節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立，疫学及びワクチン開発に関する研究	分担研究者
厚生労働科学研究費補助金･新興･再興感染症研究事業	教授・森田公一	感染症および感染症対策の国際動向に関する研究	分担研究者
PRESTO さきがけ研究21	助手・和田昭裕	ヘリコバクター・ピロリの空胞化致死毒素の作用機序解析と新しい治療戦略	
国際協力事業団開発パートナー事業	教授・神原廣二	インドネシア国ロンボックおよびスンバワ島におけるマラリア対策	プロジェクトマネージャー
国際協力研究委託費	教授・神原廣二	*Anopheles subpictus* によって起こされるマラリア制圧の試み	分担研究者
千葉大学ナショナルバイオリソースプロジェクト	教授・神原廣二	中核的拠点整備プロジェクト　－病原微生物－　病原性原虫の収集，株保存と分析，その提供	協力業務担当者
国際医療協力研究医学事業	教授・青木克己	国際寄生虫対策の効果的，効率的な推進方策に関する研究	分担研究者
厚生労働科学研究費補助金･新興･再興感染症研究事業	教授・青木克己	日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及び予防に関する研究―住民の住血吸虫症に対する認識を高める方法の開発	分担研究者
文部科学省平成14年度特別研究促進費	教授・青木克己	住血吸虫症治療における安全性と治療効果の評価法に関する検討	分担研究者
厚生労働省国際医療協力研究委託費	助教授・鳥山寛	開発途上国におけるウィルス肝炎キャリアの実態および防御に関する研究	分担研究者
厚生省特定疾患対策研究事業	教授・永武毅	特定疾患の微生物学的原因究明に関する研究	分担研究者
厚生省科学研究費補助金・新興・再興感染症研究事業	教授・永武毅	髄膜炎菌性髄膜炎の発生動向調査及び検出方法研究	分担研究者
厚生省科学研究費補助金	教授・永武毅	インフルエンザ脳炎・脳症の発症機序の解析と治療法の開発研究	分担研究者
日米医学協力研究会	教授・永武毅	急性呼吸器感染症に関する研究	部会長
日米医学協力計画アジア地域奨励研究事業	教授・永武毅	タイ北部地域におけるインフルエンザ流行に関する調査研究	主任研究者

受託者等	職・氏名	研　究　課　題	備　考
財団法人ヒューマンサイエンス振興財団	助教授・大　石　和　徳	抗体価測定法の確立・評価及び抗体価とオプソニン活性の相互関連に関する研究	分担研究者
杏林製薬株式会社との共同研究	教　授・永　武　　毅	病原細菌のヒト咽頭上皮細胞付着メカニズムの解明および感染予防薬の開発に関する研究	研究担当者
ブンシジャパン株式会社との共同研究	教　授・永　武　　毅	各種洗剤の細菌増殖抑制効果の有無に関する研究	
厚生労働省科学研究費補助金・エイズ対策研究事業	助　手・久　保　嘉　直	HIV 及びその関連ウイルスの増殖機構及び増殖制御に関する研究	研究協力者
厚生科学研究費補助金・新興・再感染症研究事業	教　授・平　山　謙　二	日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及び予防に関する研究―住血吸虫の診断用抗原探索，ワクチン揮発に関する研究	分担研究者
厚生科学研究費補助金・新興・再興感染症事業	教　授・嶋　田　雅　曉	日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及び予防に関する研究―対策のための数学モデル作成に関する研究	分担研究者
厚生科学研究費補助金・新興・再興感染症事業	教　授・門　司　和　彦	日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及び予防に関する研究―住血吸虫症対策における健康教育改善法に関する研究	分担研究者

7　海 外 活 動

職名	氏名	渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
技能補佐員	前川芳秀	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.4.9〜H15.3.31	受託研究費
技能補佐員	吉永一未	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.4.20〜H15.3.31	受託研究費
教授	門司和彦	拠点大学方式学術交流事業による共同研究実施	ベトナム	H14.4.21〜H14.4.25	日本学術振興会
教授	高木正洋	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.5.12〜H14.5.26	受託研究費
助手	井上真吾	デングウイルス，日本脳炎ウイルス及び脳炎関連ウイルスの分離解析	フィリピン	H14.5.14〜H14.6.13	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山壽哉	共同研究打ち合わせ及び米国微生物学会発表	アメリカ	H14.5.16〜H14.5.24	委任経理金
教授	平山謙二	住血吸虫症診断キットの開発研究の打ち合わせ	中国	H14.5.15〜H14.5.17	自費
助教授	大石和徳	呼吸器感染症と樹状細胞に関する情報収集	アメリカ	H14.5.19〜H14.5.24	科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))
教授	平山謙二	会議出席及び研究打ち合わせ	ベトナム・カンボジア・タイ	H14.5.23〜H14.5.31	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	門司和彦	マラリア対策の基礎調査	インドネシア	H14.5.25〜H14.5.30	委任経理金
助手	都野展子	ケニアにおける高地マラリア媒介蚊に関する研究及び資料収集	ケニア イギリス	H14.6.1〜H15.3.31	在外研究員旅費
教授	神原廣二	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.6.2〜H14.6.16	受託研究費
教授	平山謙二	日本脳炎ワクチン開発のための準備会議出席及び中南米シャーガス病重症化ノ遺伝要因の解析及び研究打ち合わせ	タイ ボリビア パラグアイ	H14.6.20〜H14.7.4	世界保健機関 科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
助教授	大石和徳	デング熱プロジェクトの共同研究打ち合わせ	フィリピン	H14.6.25〜H14.6.28	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	永武毅	「呼吸器病原菌のヒト上皮細胞付着因子解明による感染予防戦略への応用」に関する共同研究打合せ	トルコ	H14.6.30〜H14.7.4	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	平山謙二	講義及びマラリアの免疫に関する研究打ち合わせ	タイ マレーシア	H14.7.8 ～ H14.7.14	自費
教授	門司和彦	「アフリカにおける住血吸虫症流行地住民の行動研究」の現地調査及び研究打ち合わせ	ケニア・タンザニア・イギリス・クロアチア・アメリカ	H14.7.20 ～ H14.9.11	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山謙二	会議及びワークショップ出席	タイ	H14.7.21 ～ H14.8.2	世界保健機関
教授	平山壽哉	国際微生物学連合会議出席	フランス	H14.7.26 ～ H14.8.2	自費
教授	森田公一	世界ウイルス学会出席	フランス	H14.7.26 ～ H14.8.2	委任経理金
助教授	鳥山寛	「熱帯アフリカと東南アジアにおける悪性腫瘍の分子病理学的研究」のための調査・研究	ケニア タイ	H14.7.28 ～ H14.8.23	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助教授	大石和徳	デング熱プロジェクトの共同研究打ち合わせ	フィリピン	H14.7.28 ～ H14.8.2	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	中澤秀介	拠点大学方式による共同研究実施	ベトナム	H14.7.29 ～ H14.9.8	日本学術振興会
助手	安高雄治	「アフリカにおける高解像度衛星画像データの熱帯感染症研究への応用」に関する調査，研究打ち合わせ	タンザニア	H14.8.5 ～ H14.9.16	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	金田英子	「アフリカにおける子どもの「病の疫学」と統合ケア」に関する現地調査	ケニア	H14.8.7 ～ H14.10.15	科学研究費補助金（萌芽研究(2))
教授	高木正洋	野外調査及び「デング熱及びマラリア」に関するワークショップ出席	ベトナム	H14.8.11 ～ H14.8.31	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2),特定領域研究(2))日本国際医療団
助手	長谷川太	拠点大学方式による共同研究実施	ベトナム	H14.8.15 ～ H14.9.1	日本学術振興会
教授	森田公一	「デング熱及びマラリア」に関するワークショップ出席	ベトナム	H14.8.18 ～ H14.8.24	日本国際医療団
助手	井上真吾	デングウイルス感染症における血小板減少の機序の解明	フィリピン	H14.9.1 ～ H14.10.1	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助教授	大石和徳	共同研究打ち合わせ	ウガンダ	H14.9.3 ～ H14.9.10	ヒューマンサイエンス振興財団

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	嶋田雅曉	住血吸虫症に関する現地調査及び研究打ち合わせ	タンザニア ケニア	H14. 9. 6 ～ H14. 10. 1	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	岩崎琢也	中枢神経組織のウイルス感染症のウイルス病理学的解析に関する共同研究	マレーシア	H14. 9. 9 ～ H14. 9. 13	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山謙二	中南米シャーガス病重症化の遺伝要因解析	パラグアイ ボリビア	H14. 9. 11 ～ H14. 9. 21	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
教授	神原廣二	開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14. 9. 18 ～ H14. 9. 27	受託研究費
講師	上村春樹	「熱帯熱マラリア原虫の薬剤耐性遺伝子の変異多型と薬剤感受性:地域性と時間的推移」に関する研究打ち合わせ	ミャンマー	H14. 9. 22 ～ H14. 10. 1	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	長谷部太	デングウイルスに関する共同研究	ベトナム	H14. 9. 23 ～ H14. 10. 5	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	平山壽哉	ヘリコバクターピロリワクチン開発の調査研究及び共同研究打ち合わせ	アメリカ	H14. 10. 4 ～ H14. 10. 18	在外研究員等旅費
教授	永武毅	小児性髄膜炎に関する共同研究打ち合わせ	バングラディシュ	H14. 10. 4 ～ H14. 10. 9	委任経理金
教授	溝田勉	小児性髄膜炎に関する共同研究打ち合わせ	バングラディシュ	H14. 10. 4 ～ H14. 10. 9	委任経理金
助手	井上真吾	「デング熱」に関する国別研修コース参加	フィリピン	H14. 10. 15 ～ H14. 10. 26	日本国際医療団
教授	神原廣二	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14. 10. 17 ～ H14. 10. 30	受託研究費
教授	門司和彦	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14. 10. 19 ～ H14. 10. 30	受託研究費
教授	高木正洋	「東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価」のための生態調査	インドネシア	H14. 10. 19 ～ H14. 10. 31	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	森田公一	「デング熱」に関する国別研修コース参加	フィリピン	H14. 10. 20 ～ H14. 10. 26	日本国際医療団
教授	永武毅	急性呼吸器感染症に関する共同研究打ち合わせ	タイ	H14. 10. 23 ～ H14. 10. 27	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助手	麻生憲史	急性呼吸器感染症に関する共同研究打ち合わせ	タイ	H14.10.23〜H14.10.29	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	谷村晋	JICA 短期専門家として保健医療情報システムの指導を行う	ホンデュラス	H14.10.28〜H14.11.9	国際協力事業団
教授	平山謙二	汎太平洋新興感染症国際会議出席	中国	H14.10.29〜H14.11.2	日米医学協力研究会
外国人研究員	パンディ バス デヴ	汎太平洋新興感染症国際会議並びに日米医学協力計画アジア地域奨励研究事業報告会出席	中国	H14.10.30〜H14.11.3	日米医学協力研究会
教授	永武毅	汎太平洋新興感染症国際会議並びに日米医学協力計画アジア地域奨励研究事業報告会出席	中国	H14.10.30〜H14.11.3	日米医学協力研究会
助手	井上真吾	デングウイルス感染症における血小板減少の機序の解明	フィリピン	H14.10.31〜H14.11.16	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山謙二	アジア小児感染症学会大会出席	タイ	H14.11.10〜H14.11.13	タマサート大学
助手	谷村晋	タイ・国際寄生虫対策アジアセンターにおける情報ネットワーク指導	タイ	H14.11.11〜H14.11.22	国際協力事業団
教授	溝田勉	国際熱帯医学マラリア学会と第7回熱帯地理病理学会との合同会議参加	タイ	H14.11.19〜H14.11.23	自費
助手	中澤秀介	「東南アジアにおける蚊媒介性感染症の流行を左右する環境の定量的評価」のための研究打ち合わせ	ベトナム	H14.11.25〜H14.12.1	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
助手	江原雅彦	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施	ベトナム	H14.11.22〜H14.12.2	日本学術振興会
教授	森田公一	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施	ベトナム	H14.11.24〜H14.11.30	日本学術振興会
講師	長谷部太	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施, デングウイルス感染症の診断法のワークショップ	ベトナム 台湾	H14.11.25〜H14.12.7	日本学術振興会 自費
講師	上村春樹	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施	ベトナム	H14.11.25〜H14.12.1	日本学術振興会
教授	高木正洋	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施	ベトナム	H14.11.25〜H14.12.8	日本学術振興会

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
助教授	大石和徳	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施	ベトナム	H14.11.25〜H14.12.1	日本学術振興会
教授	岩崎琢也	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席及び共同研究実施	ベトナム	H14.11.25〜H14.12.1	日本学術振興会
教授	平山謙二	WHO主催によるデータマネージメントの国際ネットワーク会議出席及び日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席並びに共同研究実施	タイ ベトナム	H14.11.24〜H14.12.1	日本学術振興会
助手	谷村晋	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席	ベトナム	H14.11.27〜H14.12.1	日本学術振興会
教授	青木克己	日本学術振興会拠点大学方式による学術交流事業・国際セミナー出席	ベトナム	H14.11.27〜H14.12.1	日本学術振興会
教授	嶋田雅曉	熱帯地における感染症，特に住血吸虫症に関する調査及び研究打ち合わせ	タンザニア	H14.12.3〜H14.12.20	科学研究費補助金(特定領域研究(C)(2))
助手	安高雄治	熱帯地における感染症，特に住血吸虫症に関する調査及び研究打ち合わせ	タンザニア	H14.12.3〜H14.12.23	委任経理金
助手	渡部幹次	フィラリア症及びマラリア抵抗性の調査	ネパール マレーシア	H14.12.8〜H14.12.19	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山壽哉	共同研究打ち合わせ	アメリカ	H14.12.13〜H14.12.19	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	井上真吾	「東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析」に関する共同研究	フィリピン	H14.12.15〜H14.12.22	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	岩崎琢也	「東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析」に関する共同研究	フィリピン	H14.12.15〜H14.12.18	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	高木正洋	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.12.17〜H14.12.26	受託研究費
講師	川田均	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.12.17〜H14.12.26	受託研究費
助手	谷村晋	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H14.12.19〜H14.12.24	受託研究費
教授	門司和彦	「東南アジアにおけるウイルス性脳脊髄炎のウイルス病理学的解析」に関する剖検リストの入手と分析	バングラディシュ	H14.12.20〜H14.12.28	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
講師	一瀬休生	インドネシアの環境における病原細菌の疫学調査	インドネシア	H15. 1. 6 ～ H15. 1. 22	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	永武毅	小児性髄膜炎に関する共同研究打ち合わせ	バングラディシュ	H15. 1. 17 ～ H15. 1. 21	委任経理金
教授	青木克己	住血吸虫症の調査研究	ケニア	H15. 1. 18 ～ H15. 1. 27	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	金田英子	学校保健に関する指導	タイ・ラオス	H15. 1. 21 ～ H15. 2. 15	国際協力事業団
教授	門司和彦	「資源と生態史－空間領域の占有と共存」に関する共同研究打ち合わせ	タイ・ラオス	H15. 1. 21 ～ H15. 1. 30	科学研究費補助金(特定領域研究(2))
教授	神原廣二	開発パートナー事業の実施	インドネシア	H15. 1. 23 ～ H15. 2. 11	受託研究費
助手	柳哲雄	マラリア流行疫学調査	インドネシア	H15. 1. 25 ～ H15. 2. 5	受託研究費
助教授	鳥山寛	チェンマイ地域における肝疾患の調査研究	タイ	H15. 1. 25 ～ H15. 2. 9	受託研究費
助手	谷村晋	「ミャンマーにおける住血吸虫症疫学調査」に関する事前調査	ミャンマー	H15. 1. 17 ～ H15. 1. 23	科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))
講師	川田均	「東南アジアにおける蚊媒介感染症の流行を左右する環境の定量的評価の実施」に関する生態調査	インドネシア	H15. 2. 1 ～ H15. 2. 8	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	嶋田雅曉	熱帯病，特に住血吸虫症に関する現地調査及び研究打ち合わせ	タンザニア	H15. 2. 4 ～ H15. 2. 28	委任経理金
教授	永武毅	タイにおける急性呼吸器感染症に関する共同研究実施	タイ	H15. 2. 9 ～ H15. 2. 12	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	麻生憲史	タイにおける急性呼吸器感染症に関する共同研究実施	タイ	H15. 2. 9 ～ H15. 2. 12	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
助手	谷村晋	住血吸虫症疫学調査	ミャンマー	H15. 2. 6 ～ H15. 2. 15	科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))
助手	谷村晋	住血吸虫症疫学調査	ミャンマー	H15. 2. 18 ～ H15. 3. 5	科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	森田公一	日本学術振興会論文博士号取得希望者に対する支援事業に基く，現地における研究指導	インド	H15. 2.20 〜 H15. 2.28	日本学術振興会
助手	柳　哲雄	病原微生物特に病原性原虫に関する資料並びに試料収集	ネパール	H15. 2.22 〜 H15. 3. 6	受託研究費
教授	高木正洋	蚊媒介性感染症の防除対策の調査及び研究	ベトナム	H15. 2.23 〜 H15. 2.28	日本学術振興会
技能補佐員	上野俊子	蚊媒介性感染症の防除対策の調査及び研究補助	ベトナム	H15. 2.23 〜 H15. 2.28	科学研究費補助金(基盤研究(A)(2))
教授	平山謙二	「アジアの寄生虫症に対するアジア独自の戦略研究」プロジェクトの「Asian Parasitology」編集のための討論	中国	H15. 2.26 〜 H15. 2.28	文部科学省科学技術振興調整費
教授	岩崎琢也	国際ヘルペスマネージメントフォーラム（IHMF）参加及び共同研究打ち合わせ	フランス ドイツ	H15. 2.28 〜 H15. 3. 8	IHMF委員会自費
講師	藤巻康教	日本学術振興会拠点大学方式による共同研究の実施	ベトナム	H15. 3. 2 〜 H15. 3.15	日本学術振興会
教授	神原廣二	国際協力事業団開発パートナー事業の実施	インドネシア	H15. 3. 4 〜 H15. 3.12	受託研究費
助手	井上真吾	デングウイルス及び日本脳炎ウイルス感染症の共同研究	フィリピン	H15. 3. 4 〜 H15. 3.30	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))
教授	平山謙二	「シャーガス病の多様な病態とヒト及び原虫の種内変異との関連」に関する研究打ち合わせ	キューバ	H15. 3. 5 〜 H15. 3.11	科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))
助手	谷村　晋	内蒙古黄河灌漑地域の飲料水用井戸のGIS及び水質調査	中国	H15. 3.10 〜 H15. 3.17	科学技術振興事業団
教授	青木克己	「アジアの寄生虫症に対するアジア独自の戦略研究」プロジェクトのための討論	韓国	H15. 3.14 〜 H15. 3.15	文部科学省科学技術振興調整費
助手	安高雄治	情報収集及び研究打ち合わせ	アメリカ	H15. 3.16 〜 H15. 4. 6	委任経理金
教授	神原廣二	「ナショナルバイオリソースプロジェクト中核的拠点整備プログラム」の一環としての病原性原虫の株保存と分析，提供のための資料収集	フィリピン	H15. 3.18 〜 H15. 3.22	受託研究費
教授	嶋田雅曉	「臨床的データ管理のワークショップ」参加	タイ	H15. 3.23 〜 H15. 3.30	世界保健機関

渡航者		渡航目的	渡航先国	渡航期間	経費区分
職名	氏名				
教授	平山謙二	「臨床的データ管理のワークショップ」参加及び研究打ち合わせ	タイ	H15. 3.23 ～ H15. 3.28	世界保健機関
助教授	大石和徳	デング熱プロジェクトの共同研究	フィリピン	H15. 3.25 ～ H15. 3.29	科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))

8　外国人研究者の受け入れ

8．1　熱帯医学研究コース

本集団研修コース（熱帯医学研究）は，国際協力事業団（JICA）の委嘱により昭和58年度（1983）から毎年おこなわれている。平成14年度は本コースの第20回目にあたる。

本コースの目的は，熱帯地域にはびこる熱帯病及び各種感染症の予防，撲滅に貢献するため，途上国においてこれらの分野で臨床や研究に携わる医師や研究者に本研究所で研究する機会を与え，研修生自身の研究能力を向上させ，ひいては当該国へのインパクトを期待するものであるが，本研究所にとっても研修生を通して熱帯現地の研究者との関係を深め，新しい研究テーマを発掘する可能性を持つユニークなコースと認識されている。

これまで本コースで研修を受けた者は現在研修中の者も含めて154人で，出身国は38ヶ国に及ぶ。コースの期間は開設当時の６ヶ月から９ヶ月,12ヶ月と次第に延長された。12ヶ月となった平成10年からは従来の certificate に代わり diploma を授与することになり，より一層の質的向上を果たしている。

現在では，１月の入所式の後３月初めまでの約６週間は熱帯医学研究所内の各部門・分野による共通講義が研修生全員に対して行われ，熱帯医学に関する総合的・基礎的知識が与えられる。その後，研修生は各専門分野に所属し，分野が用意したプログラムに沿った研修と,与えられた課題による研究に専念する。

また，研修生全員が参加して他の大学や研究所への研修旅行が行われ，個別にはそれぞれの研究テーマに沿った学会，研究会，調査などへ参加している。

コースは毎年度新年を迎える１月に開始され，年度を越して12月に終了する。従って研修の大半は翌年度にずれ込んで行われる。平成14年度（2002）のコースは，この年次要覧を編集している平成15年半ばの時点で，実施の真っ最中である。

本年度は，アジアから中国２名，フィリピン，ベトナムそれぞれ１名，アフリカからガボン，ギニア，ウガンダそれぞれ１名，中南米からグアテマラ，メキシコ，ペルーそれぞれ１名の，計10名の研修生が受け入れられている。

本年度の入所式は平成15年１月14日に挙行された。共通講義は１月23日から２月28日まで行われ，研修旅行は６月，京都大学ウイルス研究所，大阪大学微生物学研究所，神戸大学医学部に実施された。

研究成果発表は12月９日，diploma 授与は12月12日に予定されている。

（文責：嶋田雅曉）

８．２　平成14年度に受け入れた外国人研究者

分 野 等	氏　　　名	国　籍	受入期間	制 度 等	備　考
分子構造解析	Maria del Carmen Paruquet	アルゼンチン	14. 4. 1～15. 3. 31	外国人客員研究員	ヒューマンサイエンス新興財団
	Menaka Hapugoda	スリランカ	14. 5. 17～14. 8. 12	外国人受託研修員	JICA
	Paresh Sumatilal Shah	インド	14. 9. 28～14. 12. 26	論博研究者	JSPS
	Vuong Duc Cuong	ベトナム	14. 10. 6～14. 11. 2		JSPS
	Le Thi Quynh Mai	ベトナム	14. 10. 6～14. 11. 2		JSPS
	Vu Thi Que Huong	ベトナム	14. 10. 22～14. 11. 18		JSPS
	Sophie Bipolo	ガボン	15. 1. 14～15. 12. 12	集団研究コース	JICA
	Guillermo Posadas Herrera	メキシコ	15. 1. 14～15. 12. 12	集団研究コース	JICA
	Huynh Thi Kim Loan	ベトナム	15. 2. 10～15. 3. 9		JSPS
病原因子機能解析	Blanquita B DE Guzman	フィリピン	14. 8. 25～14. 11. 2	論博研究者	JSPS
	Phung Dac Cam	ベトナム	14. 12. 11～14. 12. 14		JSPS
感染細胞修飾機構	Nguyen Van Tuan	ベトナム	14. 12. 1～14. 12. 21		JSPS
	Nguyen Minh Hung	ベトナム	14. 12. 1～14. 12. 21		JSPS
	Edelwisa Mendoza Segubre	フィリピン	15. 1. 14～15. 12. 12	集団研究コース	JICA
寄生行動制御	Nguyen Thi Viet Hoa	ベトナム	14. 6. 2～14. 6. 29		JSPS
	Albert L..Vincent	アメリカ	15. 2. 23～15. 3. 1		科学研究費
分子疫学	Pandey Basu Dev	ネパール	13. 6. 1～15. 5. 31	外国人研究員	文部科学省
病変発現機序	Mohamed Cheick Camara	ギニア	15. 1. 14～15. 12. 12	集団研究コース	JICA
	Cuong Zuy Do	ベトナム	15. 1. 14～15. 12. 12	集団研究コース	JICA
	Prapan Jutavijittum	タイ	15. 2. 9～15. 3. 14		受託研究費
感染症予防治療	Phan Le Thanh Huong	ベトナム	14. 6. 4～14. 7. 1		JSPS
	Nguyen Thi Hien Anh	ベトナム	14. 6. 4～14. 7. 29		JSPS
	Kamruddin Ahmed	バングラディシュ	14. 8. 14～14. 8. 31		受託研究費

分　野　等	氏　　　　　名	国　　籍	受入期間	制 度 等	備　　考
感染症予防治療	Florence Maoma Mwale	ザ ン ビ ア	14. 10. 28～ 15. 4 . 18		JICA
	Heinner Hilario Guio Chunga	ペ ル ー	15. 1 . 14～ 15. 12. 12	集団研究コース	JICA
生　物　環　境	Nguyen Huu Cuong	ベ ト ナ ム	14. 6 . 21～ 14. 7 . 18		JSPS
	Pradya Somboon	タ　イ	14. 7 . 9 ～ 14. 7 . 21		科学研究費
	Nguyen Thi kim Tien	ベ ト ナ ム	15. 1 . 6 ～ 15. 1 . 11		JSPS
	Nguyen Thi Yen	ベ ト ナ ム	15. 1 . 20～ 15. 2 . 16		JSPS
	Tran Vu Phong	ベ ト ナ ム	15. 1 . 20～ 15. 2 . 16		JSPS
	Shan-qing Wang	中　国	15. 1 . 14～ 15. 12. 12	集団研究コース	JICA
	Tamara Belzabel Obispo Argueta	グァテマラ	15. 1 . 14～ 15. 12. 12	集団研究コース	JICA
社　会　環　境	Hafsa Lukwata	ウ ガ ン ダ	15. 1 . 14～ 15. 12. 12	集団研究コース	JICA
疾　病　生　態	Liu Jianbing	中　国	14. 9 . 16～ 14. 12. 13	外国人客員研究員	WHO
	Yin Dong	中　国	14. 9 . 16～ 14. 12. 13	外国人客員研究員	WHO
	Mohamed Raafat Taha	エ ジ プ ト	14. 11. 26～ 15. 11. 25	外国人客員研究員	JSPS
	Feng-xue Zhang	中　国	15. 1 . 14～ 15. 12. 12	集団研究コース	JICA
	Yu Chuanxin	中　国	15. 2 . 17～ 15. 3 . 31		科学研究費
熱帯感染症研究センター	Nicholas Mascie-Taylor	イ ギ リ ス	14. 9 . 24～ 14. 10. 4		産学連携等研究費
	Azad MD.Abul Kalam	バングラディシュ	H14. 9 . 25		JICA
	Bachtum Nova Handayani	インドネシア	H14. 9 . 25		JICA
	Sewe.Hellen Apondi	ケ ニ ア	H14. 9 . 25		JICA
	Perez Calderon Ruth Angelica	ペ ル ー	H14. 9 . 25		JICA
	Setjintanin Jirapa	タ　イ	H14. 9 . 25		JICA
	Antony Gatonye Kamigwi	ケ ニ ア	14. 9 . 30～ 14. 11. 29	外国人受託研修員	JICA

分　野　等	氏　　　　　名	国　　籍	受入期間	制 度 等	備　　考
熱帯感染症研究センター	Magumba Godfrey	ウガンダ	14. 10. 31～ 14. 11. 14		NGO民間団体
	Pimpimon Thongthien	タ　イ	14. 12. 9～ 15. 1. 23		JICA
	Pongiunt Nuntavong	タ　イ	14. 12. 9～ 14. 12. 19		JICA
	Erastus Mwangi Muniu	ケニア	15. 2. 17～ 15. 8. 8		JICA

9　研究成果の発表状況

９．１　研究業績

－分子構造解析分野－

4182 **Hasebe F., Parquet M.C., Pandey B. D, Mathenge E.G.M., Morita K., V. Balasubramaniam V., Saat Z., Yusop A., Sinniah, M., Natkunam S. and Igarashi A:** Combined Detection and Genotyping of *Chikungunya* Virus by a Specific Reverse Transcription-Polymerase Chain Reaction. J. Med. Virol.67: 370-374, 2002.

4269 **Masaki H., Hasebe F., Ahmed K., Fukuda T., Furumoto A., Watanabe K., Oishi K., Igarashi K. and Nagatake T.** A clinical, serological, and immunological study in a Japanese traveler with dengue fever. J Infect Chemother 8: 365-367, 2002.

4270 **Parquet M.C., Kumatori A., Hasebe F., Edward G.M. Mathenge E.G.M.and Morita K:** Saint Louis Encephalitis Virus induced pathology in culture cells. Archives of Virology 147: 1105-1119, 2002.

4271 **Pandey B.D., Thapa L.B., Sherchand J.B., Rimal N., Bhattarai A., and Morita K.:** Etiology of diarrhoea among adult patients during the early monsoon period in Kathmandu, Nepal. J.J.Trop.Med.and Hygiene. 30: 133-137, 2002.

4272 **Khan A.F., Morita K., Parquet M.C., Hasebe F., Mathenge E.G.M. and Igarash A.:** Complete Nucleotide Sequence of Chikungunya Virus and Evidence of an Internal Polyadenylation site. J.Gen. Virol 83: 3075-3084, 2002.

4273 **森田　公一**：ニパウイルス感染症　小児科診療　65：2117-2120，2002.

4274 **森田　公一**：日本脳炎　小児内科　34：1084-1086，2002.

4275 **森田　公一**：デング熱・デング，出血熱新世紀の感染症学上，日本臨床61：302-305，2003.

4276 **森田　公一**：西ナイルウイルスとその予防策：日本薬剤師会雑誌，55：73-75，2003.

4277 **森田　公一**：日本脳炎 in 感染症診療・投薬ガイド：総合臨床　52：1121-1125，2003.

4278 **森田　公一**：アルボウイルス感染症，現代感染症事情（下巻），140-156，2003.

4279 **Inoue S., Morita K., Matias R.R., Tuplano J.V., Resuello R.R.G., Candelario J.R., Cruz D.J.M., Mapua C.A., Hasebe F., Igarashi A. and Natividad F.F.** Distribution of three arbovirus antibodies among monkeys (*Macaca facscicularis*) in the Philippines. J. Med. Primatol. 32: 89-94, 2003.

4280 **Kamimura K., Horio M., Nakamura M., Doi R., Takashima I., Igarashi A., Ahmed A.,**

and Takasu T.: Med Entomol. Zool. Sampling of *Culex tritaeniorhynchus* for virus isolation in Karachi and Heleji Lake, a suburb of Karachi, Pakistan. 53: suppl.2: 43-46. 2002.

4281 **Igarashi A.:** Control of Japanese Encephalitis in Japan: Immunization of Humans and Animals, and Vector Control. in Japanese encephalitits and West Nile Virus. Current Topics in Microbiology and Immunology, 267: 139-152, 2002.

4282 **五十嵐　章**，西ナイルウイルス，医学のあゆみ　204：281-282，2002

4283 **森田　公一**：一週一話『西ナイル熱への対策』，日本医事新報．4122：101，2003.

4284 **森田　公一**：ウエストナイルウイルス脳炎，日本脳炎，臨床と微生物．30：351-355，2003.

4285 **森田　公一**：西ナイルウイルスなど，蚊由来のウイルス感染症．健康な子ども．369：42-43，2003.

4286 **森田　公一**：日本脳炎ワクチンの接種計画．日本医事新報．4135：145-146，2003

－病原因子機能解析分野－

4287 **Hirayama T.:** Protein tyrosine phosphatase beta, a receptor for *Helicobacter pylori* vacA toxin. Keio J Med. 51: 20-23, 2002.

4288 **Toshiya Hirayama, Akihiro Wada, Kinnosuke Yahiro, Miyuki Kimura, and Takahiro Kimura:** *Helicobacter pylori* vacuolating cytotoxin, VacA. Jpn. J. Infect. Dis. 55: 1-5. 2002.

4289 **Paone, G., Wada, A., Stevens, L.A., Marin, A., Hirayama, T., Levine, R.L., and Moss, J.:** ADP ribosylation of human neutrophil peptide-1 regulates its biological properties., Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 99: 8231-8235, 2002.

4290 **Ohsaki, M., Okuda, T., Wada, A., Hirayama, T., Niidome, T., and Aoyagi, H.:** In vitro gene transfection using dendritic poly (L-lysine)., Bioconjug. Chem., 13: 510-517, 2002.

4291 **Shirasaka, D., Aoyama, N., Sakashita, M., Kuroda, K., Maekawa, S., Wambura, C.M., Miyamoto, M., Tamura, T., Yahiro, K., Wada, A., Kurazono, H., Hirayama, T., and Kasuga, M.:** Relationship between gastric ulcer and *Helicobacter pylori* VacA detected in gastric juice using bead-ELISA method., Helicobacter., 7: 281-286, 2002.

4292 **Kimura, T., Wada, A., Nakayama, M., Ogushi, K., Nishi, Y., de Guzman, B.B., Moss, J., and Hirayama, T.:** High molecular weight factor in FCS inhibits *Helicobacter pylori* VacA-binding to its receptor, RPTPb, on AZ-521., Microbiol. Immunol., 47: 105-107, 2003.

4293 **Fujikawa, A., Shirasaka, D., Yamamoto, S., Ota, H., Yahiro, K., Fukada, M., Shintani, T., Wada, A., Aoyama, N., Hirayama, T., Fukamachi, H., and Noda, M.:** Mice deficient in protein tyrosine phosphatase receptor Z are resistant to gastric ulcer induction by VacA of

Helicobacter pylori., Nat Genet., 33: 375-381, 2003.

4294 **Yahiro K, Wada A, Nakayama M, Kimura T, Ogushi KI, Niidome T, Aoyagi H, Yoshino KI, Yonezawa K, Moss J, Hirayama T.:** Protein tyrosine phosphatase a, RPTPa, is a helicobacter pylori VacA receptor. J Biol Chem. 278: 19183-18189, 2003.

－感染細胞修飾機構分野－

4295 **Ton, T. A. L., Nakazawa, S., Huaman, M. C., & Kanbara, H. :** Influence of Antimalarial Treatment on Acquisition of Immunity in *Plasmodium berghei* NK65 Malaria. Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 9 (4): 933-934, 2002.

4296 **Moriuchi, M., Moriuchi, H., Hla Myat Mon, & Kanbara, H. :** Dichotomous Effects of *Plasmodium falciparum* Antigens on Expression of Human Immunodeficiency Virus (HIV) Coreceptors and on Infectability of CD4 Cells by HIV. The Journal of Infectious Diseases 186: 1194-1197, 2002.

4297 **Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Sakihama, N., Ferreira, M. U., Kho, W.-G., Kaneko, A., Kanbara, H., Hattori, T., & Tanabe, K. :** Mosaic organization and heterogeneity in frequency of allelic recombination of the *Plasmodium vivax* merozoite surface protein-1 locus. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America 99 (25): 16348-16353, 2002.

4298 **Ton, T. A. L., Nakazawa, S., Onizuka S., Huaman, M. C., & Kanbara, H. :** Influence of $CD4^{+}$ $CD\ 25^{+}$ T cells on *Plasmodium berghei* NK65 infection in BALB/c mice. International Journal for Parasitology 33: 175-183, 2003.

－寄生行動制御分野－

4299 **Kimura E, Fujimaki Y, Niwa M, Fujiwara M, Kadaosaka T:** Effects of *Brugia pahangi* infection on the cardiovasular system of stroke-prone spontaneously hypertensive rats. J. Parasitology, 88 (5): 839-842, 2002

4300 **Weerasooruya MV, Itoh M, Islam MZ, Qiu X-G, Fujimaki Y, Kimura E:** Prevalence and levels of filaria-specific urinary IgG4 among children less than five years of age and the association of antibody positivity between children and their mothers. Am. J. Trop. Med. Hyg., 68 (4): 465-468, 2003

4301 **青木　克己**：腸管線虫症　今日の診断指針　医学書院　第五版　1257-1258　2003

4302 **青木　克己**：鞭虫症　今日の治療指針　医学書院　2003年版　180　2003

4303 **青木　克己**：吸虫症，条虫症　新臨床内科学　第８版　Ⅲ　腎尿路・神経・感染症・

リウマチ・中毒　医学書院　1827-1828　2003

4304 **青木　克己**：バンクロフト糸状虫，バンクロフト糸状虫症，マンソン住血吸虫，マンソン住血吸虫症　医学書院医学大辞典　2004年版　2004，2351-2352　2003

4305 **青木　克己，野俣浩一郎**：フィラリア（糸状虫）症　特集－いま日常診療で注目すべき原虫症・寄生虫症　JIM（Journal of Integrated Medicine），vol. 13　248-250　2003

－分子疫学分野－

4271 **Pandey B.D., Thapa L.B., Sherchand J.B., Rimal N., Bhattarai A., and Morita K.:** Etiology of diarrhoea among adult patients during the early monsoon period in Kathmandu, Nepal. J.J. Trop. Med. and Hygiene. 30: 133-137, 2002.

－炎症細胞機構分野－

4306 **Islam, M.R., Fan, C., Fujii, Y., Hao, L.J., Suzuki, S., Kumatori, A., Yang, D., Rusvai, E., Suzuki, N., Kikuchi, H., Nakamura, M.:** PU.1 is dominant and HAF-1 supplementary for activation of the gp91 (phox) promoter in human monocytic PLB-985 cells. J Biochem (Tokyo). 131 (4): 533-40, 2002.

－病変発現機序分野－

4307 **Yoshikawa T, Asano Y, Akimoto S, Ozaki T, Iwasaki T, Kurata T, Goshima F, Nishiyama Y:** Latent infection of human herpesvirus 6 in astrocytoma cell line and alteration of cytokine synthesis. J Med Virol. 66: 497-505, 2002.

4308 **Ando Y, Terao K, Narita M, Oguchi Y, Sata T, Iwasaki T:** Quantitative analyses of cytomegalovirus genome in aqueous humor of patients with cytomegalovirus retinitis. Jpn J Ophthalmol 46: 254-60, 2002.

4309 **Ishikawa K, Ando Y, Narita M, Shinjoh M, Iwasaki T:** Cytomegalovirus retinitis during immunotherapy for common variable immunodeficiency. J Infect 44: 55-6, 2002.

4310 **Nagata N, Shimizu H, Ami Y, Tano Y, Harashima A, Suzaki Y, Sato Y, Miyamura T, Sata T, Iwasaki T:** Pyramidal and extrapyramidal involvement in experimental infection of cynomolgus monkeys with enterovirus 71. J Med Virol 67: 207-16, 2002.

4311 **Ida-Hosonuma M, Iwasaki T, Taya C, Sato Y, Li J, Nagata N, Yonekawa H, Koike S:** Comparison of neuropathogenicity of poliovirus in two transgenic mouse strains expressing human poliovirus receptor with different distribution patterns. J Gen Virol 83: 1095-105, 2002.

4312 **Nakamura H, Tamura S, Watanabe I, Iwasaki T, Yodoi J:** Enhanced resistancy of

thioredoxin-transgenic mice against influenza virus-induced pneumonia. Immunol Lett 82: 165-70, 2002.

4313 **Lokugamage K, Kariwa H, Hayasaka D, Cui BZ, Iwasaki T, Lokugamage N, Ivanov LI, Volkov VI, Dememv VA, Slonova R, Kompanets G, Kushnaryova T, Kurata T, Maeda K, Araki K, Mizutani T, Yoshimatsu K, Arikawa J, Takashima I:** Genetic characterization of hantaviruses transmitted by the Korean field mouse (*Apodemus peninsulae*), Far East Russia. Emerg Infect Dis 8: 768-76, 2002.

4314 **Ando Y, Iwasaki T:** Letter on CMV retinitis rabbit model. Invest Ophthalmol & Visual Science. 43（雑誌詳細不明）

4315 **Hasegawa H, Tatsumi M, Ogawa-Goto K, Takahashi H, Kojima A, Iwasaki T, Kurata T, Sata T, Takeuchi T, Sheehy N, Sawa H, Nagashima K, Hall WW:** Processing of the HTLV-II envelope precursor glycoprotein gp63 by furin is essential for cell fusion activity. AIDS Res Hum Retroviruses 18: 1253-60, 2002

4329 **Mitsushima H, Oishi K, Nagao T, Ichinose A, Senba M, Iwasaki T, Nagatake T:** Acid aspiration induces bacterial pneumonia by enhanced bacterial adherence in mice. Microb Pathog. 33: 203-10, 2002.

4316 **Jutavijittum P, Jiviriyawat Y, Jiviriyawat W, Yousukh A., Hayashi S, Toriyama K:** Present epidemiological pattern of antibody to hepatitis A virus among Chiang Mai children, northern Thailand. Southeast Asian J Trop Med Public Health. 33: 268-71, 2002.

4317 **Jutavijittum P, Jiviriyawat Y, Yousukh A, Kunachiwa W, Hayashi S, Toriyama K:** Short communication; Seroprevalence of hepatitis D virus infection among HBsAg carriers in northern Thailand. Jpn J Trop Med Hyg. 30: 319-20, 2002.

4318 **Mori N, Sato H, Hayashibara T, Senba M, Hayashi T, Yamada Y, Kamihira S, Ikeda S, Yamasaki Y, Morikawa S, Tomonaga M, Geleziunas R, Yamamoto N:** Human T-cell leukemia virus type I Tax transactivates the matrix metalloproteinase-9 gene: Potential role in mediating adult T-cell leukemia invasiveness. Blood 99: 1341-9, 2002.

4319 **安藤　靖恭，岩崎　琢也**：家兎眼でのヒトサイトメガロウイルス網膜炎の動物実験モデル。日眼会誌106：312-３，2002

4320 **中島　典子，岩崎　琢也**：風疹，先天性風疹症候群。小児科診療65：134-６，2002

4321 **岩崎　琢也，永田　典代，清水　博之**：エンテロウイルス71脳炎。小児感染免疫14：133-８，2002

4322 **岩崎　琢也**：Ｂウイルス病。小児科診療65：2111-５，2002

4323 **峰咲　幸哲，本田まりこ，岩崎　琢也，白木　公康**：BALB/c マウスへの単純ヘルペ

スウイルス２型臨床分離株経膣接種による神経伝播経路と脊髄炎の発症病理。東京慈恵会医科大学雑誌117：427-39，2002

4324 **有富　朋礼，石川　博基，東　真一郎，飛田　大作，濱崎　圭輔，鶴田正太郎，中尾一彦，加藤　有史，中田　恵輔，江口　勝美，鳥山　　寛**：巨細胞性肝炎像を呈した急性B型肝炎の一例。肝臓。44(1)：27-31．2003.

－感染症予防治療分野－

4325 **Yoshiko Tsuchihashi, Kazunori Oishi, Hiroyuki Yoshimine, Shoichi Suzuki, Atushi Kumatori, Toshiaki Sunazuka, Satoshi Omura, Kouji Matsushima, Tsuyoshi Nagatake:** Fourteen Member Macrolides Suppress Interleukin-8 Production but DO Not Promote Apoptosis of Activated Neutrophils. Antimicrobial Agents and Chemotherary 46 (4): 1101-1104, 2002.

4326 **Tsuyoshi Nagatake, Kamrudolin Ahmed, Kazunori Oishi:** Prevention of Respiratory Infections by Povidone-Iodine Gargel. Dermatology 204 (1): 32-362002.

4327 **Kamruddin Ahmed, Yasuo Suzuki, Daisei Miyamoto, Tsuyoshi Nagatake:** Asialo-GM 1 and asialo GM-2 are putative adhesion molecules for *Moraxella catarrhalis.* Med Microbiol Immunol 191: 5-10, 2002.

4328 **Hironori Masaki, Futoshi Hasebe, Kamru in Ahmed, Tomoaki Fukuda, Akitsugu Furumoto, Kiwao Watanabe, Kazunori Oishi, Akira Igarashi., Tsuyoshi Nagatake:** A clinical, serological, and immunological study in a Japanese traveler with dengue fever. J Infect Chemother. 8: 365-367, 2002.

4329 **Hiroaki Mitsushima, Kazunori Oishi, Takayoshi Nagao, Akitoyo Ichinose, Masachika Senba, Takuya Iwasaki, Tsuyoshi Nagatake:** Acid aspiration induces bacterial pneumonia by enhanced bacterial adherence in mice. Microbial Pathogenesis 33: 203-210, 2002

4330 **Kazuhiko Hoshino., Hiroshi Watanabe, Rinya Sugita, Norichika Asoh, Simon Angelo Ntabaguzi, Kiwao Watanabe, Kazunori Oishi, Tsuyoshi Nagatake:** High Rate of Transmission of Penicillin-Resistant *Streptococcus pneumoniae* between Parents and Children. JOURNAL OF CLINICAL MICROBIOLOGY. 40 (11): 4357-4359, 2003

4331 **Takeshi Yamaryo, Kazunori Oishi, Hiroyuki Yoshimine, Yoshiko Tsuchihashi, Kouji Matsushima., Tsuyoshi Nagatake:** Fourteen-Member Macrolides Promote the Phosphatidylserine Receptor-Dependent Phagocytosis of Apoptotic Neutrophils by Alveolar Macrophages. Antimicrobial Agents and Chemotherapy, 47 (1): 48-53, 2003

4332 **Tsuyoshi Nagatake:** Aspiration and Aspiration Pneumonia. JMAJ 46 (1): 12-18, 2003

4333 **Kazushi Motomura., Shigeru Kusagawa., Hlta Htut Lwin., Min Thwe., Min Twe., Kayoko Kato., Kazunori Oishi., Naoki Yamamoto., Myint Zaw., Tsuyoshi Nagatake., Yutaka Takebe:** Different subtype distributions in two cities in Myanmar: evidence for independent clusters of HIV-1 transmission. AIDS 17 (4), 2003

4334 **Hironori Masaki., Norichika Asoh., Hiroshi Watanabe., Misao Tao., Kiwao Watanabe., Hideki Ikeda., Keizo Matsumoto., Kazunori Oishi., Tsuyoshi Nagatake:** Possible Relationship between *Staphylococcus aureus* Colonizing the Respiratory in a Geriatric Hospital Environment. Internal Medicine 42 (3): 281-282, 2003

4335 **永武　　毅**：特集／海外旅行の医学　渡航先での注意　マラリアその他の熱帯病．臨床と研究．79(4)：61－186, 2002

4336 **大石　和徳**：最新・感染症事情　１類感染症とプリマリ・ケア．JIM　12(4)：303-306，2002

4337 **永武　　毅**：日和見病原体と感染症　［主な日和見病原体とその感染像］　緑膿菌と非醗酵菌．臨床と微生物．29(3)：51-54，2002

4338 **鬼塚　智子，大石　和徳，永武　　毅**：抗生物質としてのマクロライド　マクロライドの種類と特徴．臨床医　28(5)：560-562，2002

4339 **永武　　毅**：特集：内科－100年のあゆみ（呼吸器）　iii．主要疾患の歴史　６．呼吸器感染症．日本内科学会雑誌　91(6)：120-124，2002

4340 **永武　　毅**：≪EBM のための内科疾患データーファイル≫［感染症］インフルエンザ．臨床雑誌「内科」　89(6)：89，2002

4341 **大石　和徳，高橋　秀彦**：肺炎球菌ワクチン－update－．感染・炎症・免疫　医薬の門社　32(2)：74-79，2002

4342 **天野　秀明，森本浩之輔，永武　　毅**：特集　呼吸器疾患とアポトーシス－研究の展開と臨床応用－　肺炎とアポトーシス(Pneumonia and apoptosis)．メディカルレビュー社　10(3)：49-56，2002

4343 **永武　　毅**：特集　ガイドラインを活かした院内肺炎診療の実際　院内感染としての肺炎～患者・医療従事者の感染防御策．ヴァン　メディカル　５(2)：142-146，2002

4344 **鬼塚正三郎，麻生　憲史，大石　和徳**：臨床における今日的問題と対応　～内科領域（呼吸器科）～．化学療法の領域　18(8)：32-35，2002

4345 **永武　　毅**：教育講演　２．ワクチンの現状と将来への展望－呼吸器感染症を中心に－．日本内科学会雑誌　91：203-210，2002

4346 **永武　　毅**：薬剤耐性菌の現況と対策－呼吸器感染症を中心に－．臨牀と研究　79(9)：６-13，2002

4347 **永武　　毅**：特集　インフルエンザ　流行期の前に準備すべきこと　細菌感染が疑われた場合の対応．エルゼビア・サイエンス　ミクス　21(9)：38-41，2002

4348 **大石　和徳**：目でみる肺炎の診断と治療10　MRSA 肺炎の特徴と治療．日医雑誌　128(7)：28-30，2002

4349 **永武　　毅**：マラリア，住血吸虫症，デング熱．綜合臨床　51(10)，2002

4350 **永武　　毅**：特集　かぜ・インフルエンザへの新戦略　肺炎球菌，インフルエンザ菌ワクチン．カレントテラピー　20(10)：45-49，2002

4351 **永武　　毅**：特集：内科－100年のあゆみ（感染症）Ⅲ．主要疾患の歴史　2．耐性菌感染症．日本内科学会雑誌　91(10)：112-117，2002

4352 **永武　　毅**：Ⅹ　感染症　敗血症．日本医師会雑誌　128(8)：276-277，2002

4353 **永武　　毅**：呼吸器感染症原因微生物の迅速診断－その利用のしかた－　インフルエンザウイルスの迅速診断．Medical Practice　19(11)：1833-1835，2002

4354 **永武　　毅**：インフルエンザで抗菌役が必要なとき，不要なとき　特集　最新のインフルエンザ診療－診断・治療・予防の新展開．臨床雑誌「内科」　90(5)：90，2002

4355 **永武　　毅，星野　和彦**：特集：高齢者肺炎の予防と治療　高齢者と孫との間の細菌相互関係．Geriatric Medicine　40(11)：1551-1554，2002

4356 **永武　　毅**：肺炎を上手に治療するには　どの様な場合に肺炎を考えるか．診断と治療．90(12)：16-19，2002

－エイズ・感染防御分野－

4357 **Katane, M., Takao, E., Kubo, Y., Fujita, R., Amanuma, A.:** Factors affecting the direct targeting of murine leukemia virus vectors containing peptide ligands in the envelope protein. EMBO rep. 3 (9): 899-904. 2002.

4358 **Kubo, Y., Ono, T., Ogura, M., Ishimoto, A., Amanuma, A.:** A glycosylation-defective variant of the ecotropic murine retrovirus receptor is expressed in rat XC cells. Virology. 303: 338-344. 2002.

－生物環境分野－

4359 **Suwonkerd, W., Overgaard, H. J., Tsuda, Y., Prajakwong, S. & Takagi, M.:** Malaria vector densities in transmission and non-transmission areas during 23 years and land use in Chiang Mai province, Northern Thailand.Basic and Applied Ecology 3 (6): 197-207, 2002.

4360 **Tsuda, Y., Kobayashi, J.Nambanya, S., Miyagi, I., Toma, T., Phompida, S.& Manivang, K.:** An ecological survey of dengue vector mosquitoes in central Lao PDR. South-

east Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health 33 (1): 63-67, 2002.

4361 **Dieng, H., Boots, M., Tuno, N., Tsuda, Y., & Takagi, M.:** A laboratory and field evaluation of *Macrocyclops distinctus, Megacyclops viridis* and *Mesocyclops pehpeinensis* as control agents of the dengue vector *Aedes albopictus* in a peridomestic area in Nagasaki, Japan. Medical and Veterinary Entomology 16: 285-291, 2002.

4362 **Dieng, H., Mwandawiro, C., Boots, M., Morales, R.E., Satho, T., Tuno, N., Tsuda, Y., & Takagi, M.:** Leaf litter decay process and the growth performance of *Aedes albopictus* larvae (Diptera: Culicidae). Journal of Vector Ecology 27 (1): 31-38, 2002.

4363 **Dieng, H., Boots, M., Tuno, N., Tsuda, Y., & Takagi, M.:** Life history effects of prey choice by copepods: implications for biocontrol of vector mosquitoes. Journal of the American Mosquito Control Association 19 (1): 67-73, 2003.

－社会環境分野－

4364 **溝田　　勉**：狂牛病（BSE：Bovine Spongiform Encephalopathy）および炭疽菌が米国社会に与えた影響について．熱帯　第35巻，１-６，2002

4365 **Yasuyuki Rakue, Charnchudhi Chanyasanha, Tsutomu Mizota:** Risk Behavior of Blood Borne Diseases Assessment among Intravenous Injection Drug Users in New Olieans, USA. Journal of Public Health, January-April 2002.

4366 **溝田　　勉**：平和と国際協力は長崎が発信基地. 心と文化　第１巻　第２号，219-221, 2002.

4367 **溝田　　勉**：教養教育の潜在力と放送大学．出島　第28号，１，2002.

4368 **山本　秀樹，中野　知治，連　　利博，河原　研二，鹿嶋小緒里，小宮　正巳，沢田　　寛，中田　敬司，谷村　　晋，坂野　晶司，北川　文夫，大西　荘一**：インマルサット衛星通信を使用したネパール国への小児外科支援を目的とした遠隔医療実験とその実用化への課題について．医療情報学22(3)，2002. pp. 251-257.

4369 **谷村　　晋**：Windows ユーザを対象とした個人オンラインジャーナル全文検索システムの構築方法．医療とコンピュータ13(9)，2002, pp. 70-77.

4370 **谷村　　晋**：最近の Linux の動向．医療とコンピュータ13(10)，2002. pp. 62-72.

4371 **谷村　　晋，溝田　　勉**：保健情報の視覚化と WebGIS．第18回日本コンピュータサイエンス学会学術総会論文集2003. pp. 42-43.

－疾病生態分野－

4372 **Kayano Aida, Graciela Russomando, Mihoko Kikuchi, Norma Candia, Leticia Franco, Maria Almiron, Ratawan Ubalee, Kenji Hirayama.** High frequency of MIC null haplotype (HLA-B48-MICA-del-MICB*0107 N) in the Angaite Amerindian community in Paraguay. Immunogenetics 54: 439-441, 2002.

4373 **Sone, T., Gil, M., Mu., J.-B., Takagi, R., Hirayama, K., Higo, H., Tada, I., Monroy, C., Acosta, N., Lopez, E., Arias, de AR., Uyema, N.** Evaluation of Protein Variability in *Trypanosoma cruzi* as Indicated by Two-dimensional Gel Electrophoresis. Proceedings of the 10th International Congress of Parasitology-ICOPA X, Monduzzi editore, 279-283, 2002.

4374 **Hirayama K.** Genetic factors associated with development of cerebral malaria and fibrotic schistosomiasis. Korean J Parasitol, 40 (4): 165-172, 2002

4375 **平山　謙二**；感染症の遺伝解析　医学のあゆみ；202(10)；877-882，2002

－熱帯感染症研究センター－

4268 **Manabu Sasa and Hiroshi Suzuki:** Studies on the Species of Family Chironomidae (Diptera) Collected on Minamidaito Island, Okinawa, South Japan. Part 1. Trop. Med., 43 (3/4), 61-92, 2001.

4376 **衞藤　宗彦，古嶋　正俊，村上　智貴，江下　優樹，高岡　宏行，鈴木　　博**：大分県におけるハナヒル *Dinobdella ferox* のヒト結膜嚢寄生例. 臨床眼科, 第56巻(5)，2002.

4377 **鈴木　　博**：ハマダラカ（ソロモン諸島）．月刊みんぱく．2002年８月号20-21，2002.

4378 **Mamoru Takahashi, Hiroshi Urakami, Hitoko Misumi, Shinichi Noda, Susumu Yamamoto, Hiroshi Suzuki and Isao Matsumoto:** Detection and serotyping of *Orientia tsutsugamushi* from the unfed larval trombiculid mite *Leptotrombidium* scutellare (Nagayo, Miyagawa, Mitamura, Tamiya et Tenjin, 1921 (Acari: Trombiculidae) Med. Entomol. Zool.Vol. 53 (3): 65-72, 2002.

4379 **Shinichi Noda, Susumu Yamamoto, Kiyotaka Yoshiie, Hiroshi Oda, and Hiroshi Suzuki:** Occurrence of *Leptotrombidium scutellare* larvae in Kagoshima and Nagasaki Prefectures. Med. Entomol. Zool.Vol. 53 (3): 169-175, 2002.

4380 **岩永喜久子，門司　和彦，永田　耕司**：大学病院看護師のバーンアウトと東大式自記健康調査票（THI）成績．長崎大学医学部保健学科紀要，15(1)：39-46，2002.

4381 **鷹居樹八子，門司　和彦，豊澤　英子，三重野英子，桶田　俊充**：老人保健施設入所者への生活史聴取とナラティブベースト・ナーシング．長崎大学保健学科紀要，15(1)：23-30，2002.

4382 **Y. Tahara, K. Moji, K. Aoyagi, S. Nishizawa, K. Yukawa, N. Tsunawake, S. Muraki and C.G.N. Mascie-Taylor:** Age-Related Pattern of Body Density and Body Composition in Japanese Males and Females, 11 and 18 Years of Age. American Journal of Human Biology. 14: 327-337, 2002.

4383 **門司　和彦，嶋田　雅曉，鷹居樹八子**：「やまい」の理解，ナラティブ・ベースト・メディシン／ナーシングと国際保健．J.Seizon and Life Sci. vol 13. A. 35-42, 2002. 9

4384 **H. Sasayama, K..Aoyagi, Y. Tagawa, M. Tagawa, K. Moji, S. Honda, T. Takemoto:** The Effects of Volcanic Disaster on the Prevalence and Severity of Bronchial Asthma. Acta. Med. Nagasaki. 47: 31-36, 2002.

4385 **Y. Tahara, K. Moji, K. Aoyagi, S. Nishizawa, K. Yukawa, N. Tsunawake, S. Muraki and C.G.N. Mascie-Taylor:** Age-Related Pattern of body Density and Body Composition of Japanese Men and Women 18-59 Years of Age. Am. j. human biol. 14: 743-752, 2002.

4386 K. Moji, R. Tsuyuoka, B. Makunike and H. Tanaka: Meteorological Factors Influencing The Intensity of Malaria Outbreak In Zimbabwe. Jpn. J. Trop Med Hyg. vol 30. 3. 283-287, 2002.

4387 **C.C.Nicholas Mascie-Taylor and K. Moji:** The Relationship Between Nutritional Status, Growth and Intestinal Parasites in Bangladesh. Anthrop Kozl. 43: 95-104, 2002.

4388 **Ryutaro Ohtsuka, Tsukasa Inaoka, Kazuhiko Moji, Enamul Karimu,and Mari Yoshinaga:** Environmental Health and Economic Conditions Perceived by 50 Rural Communities in Bangladesh. J Human Ergol. 31: 13-212002.

4389 **有薗　信一，北川　知佳，田中　貴子，大池　貴行，力富　直人，高橋　哲也，門司　和彦，千住　秀明**：慢性閉塞性肺疾患患者の運動耐容能評価法としての漸増シャトルウォーキングテストの妥当性．　日本呼吸管理学会誌　11(3)：414-419，2002.

4390 **Ataka, Y., R. Ohtsuka, T. Inaoka, M. Kawabata, J. Ohashi, M. Matsushita, K. Tokunaga, S. Kano and M. Suzuki (2001):** Variation in malaria endemicity in relation to microenvironmental conditions in the Admiralty Islands, Papua New Guinea. Asia-Pacific Journal of Public Health, 13 (2): 85-90. (published in 2003)

4391 **Alusta-Tarasenko, O., J. Ohashi, Y. Ataka, T. Inaoka, R. Ohtsuka and K. Tokunaga (2003):** HLA-DRB1 polymorphism in Balopa islands, Papua New Guinea. Anthropological Science, 111 (2): 157-164.

4392 **嶋田　雅曉**：ビルハルツ住血吸虫．医学大辞典，2097，医学書院，2002.

4393 **嶋田　雅曉**：尿路住血吸虫症．医学大辞典，1879-1880，医学書院，2002.

4394 **嶋田　雅曉**：寄生虫に関する情報収集システム，嶋田雅曉，治療学，37(6)，575 - 579,

2003.

－共同研究室－

4329 **Hiroaki Mitsushima, Kazunori Oishi, Takayoshi Nagao, Akitoyo Ichinose, Masachika Senba, Takuya Iwasaki & Tsuyoshi Nagatake.:** Acid aspiration induces bacterial pneumonia by enhanced bacterial adherence in mice. Microb, pathogenesis. 33: 203-210, 2002.

4395 **Ichinose, A., Ahmed, K., Watanabe, K., Izumi, S., Hirayama, T., Nagatake, T.:** An Agar-Coated Cellophane Method for Bacterial Observation Using Scanning and Transmission Electron Microscopy. J, Electr, Microsc, Technol, Med, Biol. 16 (3): 015-020, 2002.

4396 **Yahia Mahmud, Osam Arakawa, Akitoyo Ichinose, Mohosena Begum Tanu, Tomohiro Takatani, Kazumi Tsuruda, Kentaro Kawatsu, Yonekazu Hamano, Tamao Noguchi.:** Intracellular visualization of tetrodotoxin (TTX) in the skin of a puffer *Tetraodon nigroviridis* by immunoenzymatic technique. Toxicon. 41: 605-611, 2002.

９．２　学会発表演題

1）**小林庸次，井上　健，佃博，塩見正司，岩崎琢也**：インフルエンザ脳症と考えられる２剖検例．第91回日本病理学会　横浜，2002年３月26日．

2）**岩崎琢也，長谷川秀樹，小林庸次，小川　晃，岡崎悦夫，中山雅弘，佐藤由子，熊坂利夫，中島典子，佐多徹太郎，倉田　毅**：小児のインフルエンザ感染の病理像．第91回日本病理学会　横浜，2002年３月26日．

3）**長谷川秀樹，門脇信悦，高橋秀宗，岩崎琢也，田村慎一，倉田　毅，佐多徹太郎**：放射線照射とインフルエンザ感染によるマウスの感染免疫と肺病変の解析．第91回日本病理学会　横浜，2002年３月26日．

4）**鳥山　寛，井関充及，千馬正敬**：熱帯アフリカの子宮頸癌および陰茎癌における HPV 感染．第91回日本病理学会総会，横浜，2002年３月26－28日．（日本病理学会会誌91(1)：245，2002）

5）**井関充及，林徳真吉，津田暢夫，穴見正信，安部邦子，田丸直江，鳥山　寛**：膀胱にみられた炎症性偽腫瘍の臨床病理学的検討．第91回日本病理学会総会，横浜，2002年３月26日－28日．（日本病理学会会誌91(1)：318，2002)．

6）**津田良夫，Vu Sinh Nam，杉山　章，沢辺京子，高木正洋**：ベトナムにおけるネッタイシマカ腹部斑紋の地理的変異．第54回日本衛生動物学会大会，東京，2002年４月１－３日．

7）**津田良夫，S. Yotopranoto, S. Bendryman，都野展子，Y. P. Dachlan，高木正洋**：インドネシア・スラバヤ市におけるネッタイシマカ腹部斑紋の季節変異．第54回日本衛生動物学会大会，東京，2002年４月１－３日．

8）**津田良夫，高木正洋**：放逐された蚊集団の吸血成功率，日当たり生存率，採集効率の推定法．第54回日本衛生動物学会大会，東京，2002年４月１－３日．

9）**Tran Vu Phong, Vu Sinh Nam，沢辺京子，朝永千春，金澤　保，津田良夫，高木正洋**：ネッタイシマカ成虫腹部に見られる斑紋変異とグリコーゲン・中性脂肪量との関係．第54回日本衛生動物学会大会，東京，2002年４月１－３日．

10）**都野展子，津田良夫，高木正洋，Wannapa Suwonkerd**：ウシ囮による蚊の吸血前休止行動の報告．第54回日本衛生動物学会大会，2002年４月１－３日．

11）**佐藤朝光，津田良夫，プラディア　ソンブーン，高木正洋**：ヤブカ属，ハマダラカ属およびイエカ属の蚊類の pyriproxyfen に対する感受性：雌雄間の差異について．第54回日本衛生動物学会大会，東京，2002年４月１－３日．

12）**八尋錦之助，和田昭裕，平山壽哉**：*H. pylori* VacA 毒素受容体 RPTPbeta の構造と機能解

析。第75回日本細菌学会，横浜，2002年４月４－６日.

13）**木村貴弘，木村美幸，八尋錦之助，和田昭裕，平山壽哉**：*H. pylori* VacA 毒素の結合を阻害するウシ胎児血清因子．第75回日本細菌学会，横浜，2002年４月４－６日.

14）**木村美幸，八尋錦之助，倉園久生，和田昭裕，平山壽哉**：*H. pylori* VacA，ｍ１とｍ２との受容体結合の比較．第75回日本細菌学会，横浜，2002年４月４－６日.

15）**和田昭裕，高橋　章，大串賢一，倉園久生，平山壽哉**：*Salmonella enteritidis* の鞭毛構成蛋白質（FliC）による細胞内カルシウム濃度上昇．第75回日本細菌学会，横浜，2002年４月４－６日.

16）**大串賢一，和田昭裕，高橋　章，新留琢郎，青柳東彦，倉園久生，平山壽哉**：*Salmonella enteritidis* の FliC による human beta-defensin-2発現誘導機序解析．第75回日本細菌学会，横浜，2002年４月４日－６日.

17）**大石和徳**：2198．14員環マクロッファージによるアポトーシス好中球クリアランスを促進する．第75回日本細菌学会総会，横浜市，2002年４月６日．P317.

18）**大石和徳**：呼吸器系における感染予防機構２．好中球と肺感染防御．第42回日本呼吸器学会総会，仙台市，2002年４月４日－６日．P5.

19）**永武　毅**：呼吸器感染症の今日的問題と予防戦略．第42回日本呼吸器学会総会，仙台市，2002年４月４日－６日．P80.

20）**栗田伸一，鬼塚正三郎，大石和徳，永武　毅**：マウスにおける non typable *H.influenzae* 外膜蛋白（OMP）の反復経気管投与での特異抗体産生の解析．第42回日本呼吸器学会総会，仙台市，2002年４月４－６日．P151

21）**鬼塚正三郎，栗田伸一，大石和徳，永武　毅**：マウスにおけるインフルエンザ菌外膜蛋白（OMP）の反復経気管投与による肺内樹状細胞動態の解析．第42回日本呼吸器学会総会，仙台市，2002年４月４－６日．P151

22）**山領　豪，大石和徳，吉嶺裕之，天野秀明，永武　毅**：ヒト肺胞マクロファージによるアポトーシス好中球の貧食クリアランスに対するマクロライド系．第42回日本呼吸器学会総会，仙台市，2002年４月４－６日．P152

23）**黒木麗喜，天野秀明，森本浩之輔，苑田文成，馬場基男，大石和徳，永武　毅**：高血糖マウスにおける LPS 投与時の BALF 中の HGF 産生の検討．第42回日本呼吸器学会総会，仙台市，2002年４月４－６日．P156

24）**天野秀明，森本浩之輔，黒木麗喜，苑田文成，吉嶺裕之，大石和徳，永武　毅**：マウス肺炎モデルにおける炎症終息過程における MCP-1の役割．第42回日本呼吸器学会総会，仙台，2002年４月４－６日．P156

25）**森本浩之輔，天野秀明，黒木麗喜，苑田文成，吉嶺裕之，大石和徳，永武　毅**：ヒトと

肺胞マクロファージの HGF 産生メカニズムの検討．第42回日本呼吸器学会総会，仙台，2002年４月４－６日．P156

26）**永武　毅**：抗菌薬の体内動態からみた化学療法戦略－経口抗菌薬の限界を知る－．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P93

27）**中川喜代子，土橋佳子，川上健司，斎藤若奈**：肺炎球菌による下気道感染症98例の臨床像の検討と薬剤感受性の動向について．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P102

28）**星野和彦，渡辺　浩，杉田鱗也，麻生憲史，渡辺貴和雄，大石和徳，永武　毅**：肺炎球菌の家族内伝播に関する分子疫学的解析．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P102

29）**高橋秀彦，大石和徳，吉嶺裕之，渡辺貴和雄，永武　毅**：HIV 感染者の肺炎球菌に対する自然獲得免疫に関する検討．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P103

30）**麻生憲史，渡辺貴和雄，吉嶺裕之，大石和徳，永武　毅**：インフルエンザ菌における薬剤感受性及び耐性遺伝子の経年的推移．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P148

31）**池田　徹，吉田俊昭，馬渡文弘，井上長三，大石和徳，永武　毅，川内安二，名和行文**：トリクラベンダゾールで治療を行った肝蛭症の２症例．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P165

32）**後藤潤子，大石和徳，永武　毅**：*Moraxalla catarrhalis* の表層蛋白質による肺上皮細胞からの IL-8産生誘導．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P166

33）**斎藤麻理子，吉嶺裕之，大石和徳，永武　毅**：*Burkholderia. Pseudomallei* 培養上精中の肺上皮細胞におけるアポトーシス誘導因子．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P180

34）**栗田伸一，大石和徳，黒木麗喜，岡田晴恵，田代眞人，野口英太郎，永武　毅**：高校生における麻疹集団感染の背景とその感染予防対策．第76回日本感染症学会総会，東京，2002年４月11日．P206

35）**松本慶蔵**：抗ウイルス物質をめぐって（追加発言）．第50回日本化学療法学会総会　化学療法学－その足跡，現状，将来－，神戸，2002年５月９－11日．P69

36）**大石和徳**：呼吸器感染症における対応免疫とワクチン戦略．第50回日本化学療法学会総会　化学療法学－その足跡，現状，将来－，神戸，2002年５月９－11日．P100

37）**渡辺貴和雄，大石和徳，麻生憲史，永武　毅**：発展途上国における小児急性呼吸器感染症：鼻腔スワブによる起炎菌決定の試み．第50回日本化学療法学会総会　化学療法学－

その足跡，現状，将来ー，神戸，2002年５月９－11日．P126

38）**麻生憲史，渡辺　浩，渡辺貴和雄，大石和徳，永武　毅**：タイ国北部地域において分離された喀痰由来 *Rhodococcus equi* の薬剤感受性に関する検討．第50回日本化学療法学会総会　化学療法学ーその足跡，現状，将来ー，神戸，2002年５月９－11日．P127

39）**鳥山　寛，千馬正敬**：ケニア内陸部における陰茎癌と子宮頸癌の疫学および腫瘍ウィルスの関与．第39回日本アフリカ学会学術大会，仙台，2002年５月25日－26日．（第39回日本アフリカ学会学術大会研究発表要旨70，2002）．

40）**栗田伸一，大石和徳，永武　毅**：マウスにおけるインフルエンザ菌，外膜蛋白の反復経気管投与による肺内樹状細胞の動態と特異抗体産生の解析．第22回気道分泌研究会，阿蘇，2002年６月１日．P５

41）**力富直人**：「臨床医と喀痰；実践的活用法」ー感染からアレルギーまでー．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P19

42）**土橋佳子，斎藤若奈，中川喜代子，川上健司**：過去３年間に当院に入院した粟粒結核の臨床的検討．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P30

43）**斎藤若奈，中川喜代子，土橋佳子，川上健司**：結核性膿気胸の一治療経験．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P31

44）**川上健司，土橋佳子，中川喜代子，斎藤若奈，高橋秀郎**：結核性胸膜炎に対する局麻下胸腔鏡検査の有用性．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P32

45）**倉本剛史，吉嶺裕之，大石和徳，永武　毅**：非典型的な経過をとっている NSIP；group ⅲの２症例．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P41

46）**光嶋博昭，川添金雄，高橋　淳，大石和徳，永武　毅**：Sjogren 症候群に合併した BOOP で ARDS をきたした１症例．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P43

47）**小山和彦，倉本剛史，山領　豪，天野秀明，大石和徳，永武　毅，苑田文成**：感服する気胸を呈した好酸球性肉芽腫症の１例．第48回日本呼吸器学会九州地方会春期学会，諫早，2002年６月８日．P57

48）**井上真吾，Alozo M., Cruz D., Mapua C., Punsalan R., Dimaano E., Romulo R., Carlos C．，長谷部太，森田公一，五十嵐章，Matias R., and Natividad F.**：フィリピンにおける日本脳炎の血清疫学調査，第37回日本脳炎生態学研究会，別府市，2002年７月４－５日．

49）**早坂大輔，Tamara　Gritsun，植木智隆，好井健太朗，後藤明子，水谷哲也，苅和宏明，岩崎琢也，Ernest　A　Gould，高島郁夫**：ダニ媒介性脳炎ウイルス Oshima 株の感染性

cDNA クローンの作製．第37回日本脳炎ウイルス生態学研究会，別府，2002年７月４－５日．（抄録Ｐ８）

50）**和田昭裕，木村美幸，木村貴弘，八尋錦之助，和田昭裕，倉園久生，平山壽哉**：*H. pylori* VacA は AZ‐521細胞の p38MAP kinase のリン酸化を亢進する。第49回毒素シンポジウム，岐阜，2002年７月10－12日．

51）**Daisuke Hayasaka, Tamara S Gritsun, Tomotaka Ueki, Kentarou Yoshii, Akiko Goto, Tetsuya Mizutani, Hiroaki Kariwa, Takuya Iwasaki, Ernest A Gould, Ikuo Takashima:** Infectious cDNA clone of tick-borne encephalitis virus far-eastern subtype strain Oshima. Thirty-sixth Joint Working Conference on Viral Diseases, Matsumoto, July 16-18, 2002. (p.27)

52）**Iwasaki T, Nagata N, Shimizu H, Ami Y, Miyamura T, Sata T, Kurata T:** Pathology of experimental infection of enterovirus 71 in cynomolgus monkeys in comparison with that of poliovirus. 39th Joint Working Conference on Viral Diseases, Matsumoto, July 16-18, 2002

53）**熊取厚志，Yang　Dan，鈴木章一，中村三千男**：インターフェロン－γによるシトクロム b558大鎖遺伝子発現誘導機構の解析，第13回生体防御学会，東京，2002年７月11－13日．

54）**一ノ瀬昭豊**：固定について．医学生物学電子顕微鏡技術学会・第15回　電顕技術研修会夏の学校，大分，2002年７月26－28日．

55）**Inoue S., Daroy M., Cepeda M., Alonzo M., Buhat M., Cornista A., Gonda L., CruzD., Punsalan R., Dimaano E., Alera M., Belandres D., RomuloR., Matias R., Igarashi A., Hasebe F., Morita K., and Natividad F.:** Laboratory confirmation of virus infections of the central nervous system in the Phipillines.　第17回日本国際保健医療学会，神戸市，2002年８月１－３日．

56）**神原廣二，高木正洋，吉永一未，前川芳秀，Dachlan, Y. P．他，Gerudug, I. K．他，Suryanatha A. A. N. P. 他**：インドネシア，ロンボク島におけるマラリアコントロール．第17回日本国際保健医療学会総会，神戸，2002年８月１－３日．

57）**Tsutomu Mizota, Yasuyuki Rakue, Charnchudhi Chanyasanha:** HIV prevention program among increasing condom use married men in Bangkok Thailand THAILAND.　第17回日本国際保健医療学会総会．神戸，2002年８月１－３日．

58）**谷村　晋，仲　佐保，溝田　勉**：途上国への保健 GIS の導入に関わる適正技術的視点からの検討ーホンジュラス国 JICA 保健医療プロジェクトの事例からー．第17回日本国際保健医療学会総会，神戸，2002年８月１－３日．

59）**Mingu D, Shimada M, Moji K, Kamiya Y, Ataka Y, Kaneda E, Sugiura Y, Nagai K, Chakaya J, Karama M.:** Acute respiratory infections among children in a slum area in Kenya.

第17回日本国際保健医療学会総会，神戸，2002年８月１－３日.

60）**Mingu D, Shimada M, Sugiura Y, Moji K, Nagai K, Ataka Y, Kaneda E, Nyambura J.:** Prevalence of intestinal parasite infections and daily water use among children in a slum area in Kenya. 第17回日本国際保健医療学会総会，神戸，2002年８月１－３日.

61）**金田英子，門司和彦，安高雄治，嶋田雅暁**：フィリピンのリコ・バランガイ・ヘルスステーションで収集された社会・保健統計. 第17回日本国際保健医療学会総会, 神戸，2002年８月１－３日．プログラム・抄録集　国際保健医療第17巻　p. 127

62）**鬼塚正三郎，栗田伸一，小山　純，大石和徳，永武　毅**：呼吸器感染症と獲得免疫．呼吸器感染免疫研究会　第11回京都セミナー，京都，2002年８月３日.

63）**長谷部　太，Huong V.，Parquet C.，井上真吾，Hong C., Ha Q.，森田公一**：ベトナムにおけるデングウイルス４型の分子疫学，日本ウイルス学会九州支部会，別府市，2002年９月６～７日.

64）**早坂大輔，Tamara　Gritsun，植木智隆，好井健太朗，後藤明子，水谷哲也，苅和宏明，岩崎琢也，Ernest　A　Gould，高島郁夫**：ダニ媒介性脳炎ウイルス Oshima 株の感染性 cDNA クローンの作製．第39回日本ウイルス学会九州支部総会，別府，2002年９月６日－７日．（抄録 P35）

65）**谷村　晋**：人的医療資源の分布に関する要因の検討．第61回日本公衆衛生学会総会，埼玉，2002年10月．第61回日本公衆衛生学会総会抄録集　第49巻　第10号　p469

66）**阪本尚正，谷村　晋，水野正一**：インターネット上での既存資料の有効利用：全文検索システムの応用．第61回日本公衆衛生学会総会，埼玉，2002年10月．第61回日本公衆衛生学会総会抄録集　第49巻　第10号　p197

67）**伊藤　誠，Mirani V. Weerasooriya，邱　旭光，Mohammad Z. Islam，藤巻康教，　Nipul K.　Gunawardena，木村英作**：低感染地におけるフィラリア特異的尿中 IgG４抗体の検出．第58回日本寄生虫学会西日本支部大会・第57回日本衛生動物学会西日本支部大会，松山　2002年10月12－13日.

68）**長谷部　太，Kriengsak L., Hong C., Andi U.，清水博之，余　福勲，井上真吾，宮村達男，森田公一**：日本脳炎ウイルス NS３蛋白の Helicase Motif II の役割．第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日.

69）**余　福勲，長谷部　太，井上真吾，森田公一**：日本脳炎ウイルス NS５蛋白質の機能解析：第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日.

70）**Pandey Basu，森田公一，長谷部　太，熊取厚志，Parquet C.，井上真吾，五十嵐　章**：Study of Genetic Determination by Site Directed Mutagenesis in Relation to Pathogenesis of Dengue Haemorrhagic Fever. 第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日.

71）**岡林環樹，森　嘉生，長谷部　太，小西英二，只野昌之，森石瓦司，松浦善治**：フラビウイルスコア蛋白質の核移行の解析．第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日．

72）**久保嘉直，天沼　宏**：XC 細胞におけるマウス白血病ウイルスエンベロープ蛋白質による細胞融合と N 結合型糖鎖付加．第50回日本ウイルス学会学術集会．札幌，2002年10月16日－18日．

73）**細沼美樹，岩崎琢也，多屋長治，米川博通，小池　智**：ポリオウイルスの組織特異的感染に対する１型インターフェロンレセプター欠損の影響．第50回日本ウイルス学会総会，札幌，札幌，2002年10月16－18日．

74）**永田典代，清水博之，網　康至，波多野いく持，原島綾子，佐藤由子，須崎百合子，佐多徹太郎，倉田　毅，野本明男，岩崎琢也**：ポリオウイルスレセプター導入トランスジェニックマウス TgPVR21の粘膜感染モデル．第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日．

75）**岩崎琢也，井上　智，早坂大輔，佐藤由子，松尾恵子，小野哲朗，佐多徹太郎，神山恒夫，山田章雄，倉田　毅**：Oita rhabdovirus296/1972の病原性とウイルス学的特徴。第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日．

76）**長谷川秀樹，門脇信悦，田村慎一，岩崎琢也，高橋秀宗，倉田　毅，佐多徹太郎**：放射線照射とインフルエンザ感染により起こるマウスの alveolar　tumor の解析．第50回日本ウイルス学会総会，札幌，2002年10月16－18日．

77）**渡部幹次，菊池三穂子，M.Raafat Taha，平山謙二，青木克己**：日本住血吸虫感染モデルとしてのミニブタ：第55回日本寄生虫学会南日本支部学会・第52回日本衛生動物学会南日本支部学会合同大会，長崎，2002年10月26－27日．

78）**濱野真二郎，小林　茂，鈴木　朗，白川　卓，石井一成，多田　斉，青木克己，西山馨，姫野國祐**：マラリアとαセラセミアの関係に対する分子集団遺伝学的研究（２）．第55回日本寄生虫学会南日本支部学会・第52回日本衛生動物学会南日本支部学会合同大会，長崎　2002年10月26－27日．

79）**津田良夫，杉山　章，前川芳秀，高木正洋**：無人島におけるヒトスジシマカの生態：吸血飛来蚊の垂直分布．第52回日本衛生動物学会南日本支部大会・第55回日本寄生虫学会南日本支部大会合同大会，長崎，2002年10月26－27日．Vol. 54（２）P220

80）**佐藤朝光，津田良夫，プラディア　ソンブーン，高木正洋**：医学上重要な蚊類幼虫の pyriproxyfen に対する感受性について．第52回日本衛生動物学会南日本支部大会・第55回日本寄生虫学会南日本支部大会合同大会，長崎，2002年10月26－27日．Vol. 54（２）P222

81）**長谷川麻衣子，Nam, V. S., Yen, N. T., Anh, N. C.,Duc, H. M.，高木正洋**：ベトナムハノイ近郊の水田地帯における日本脳炎媒介蚊の発生状況．第52回日本衛生動物学会南日本支部大会・第55回日本寄生虫学会南日本支部大会合同大会，長崎，2002年10月26－27日．Vol. 54（２）P222

82）**Dieng, H., Boots, M., Tuno, N., Tsuda, Y. and Takagi, M.:** Laboratory and field evaluation of *Macrocyclops ditinctus, Macrocyclops viridis, Mesocyclops pehpeiensis* against the dengue vector *Aedes albopictus* in a peridomestic area in Nagasaki, Japan．第52回日本衛生動物学会南日本支部大会・第55回日本寄生虫学会南日本支部大会合同大会，長崎，2002年10月26－27日．Vol. 54（２）P222

83）**肥後廣夫，三浦左千夫，堀尾政博，三森龍之，平山謙二，竹内　勤，多田　功，姫野国祐．***Trypanosoma　cruzi* におけるアイソザイムの hybrid パターン．第55回日本寄生虫学会南日本支部大会長崎，2002年10月26－27日．

84）**菊池三穂子，渡部幹次，M. Raafat Taha，平山謙二，青木克己**：日本住血吸虫感染モデルとしてのミニブタ　第３回ミニブタ研究会，東京，2002年11月９日．

85）**Matias R., Inoue S., Cinco M., Buerano C., Oishi K., Morita K., Hasebe F., Alfon A., Cruz D., Pancho M., Daroy M., Dimaano E., Carlos C., Igarashi A., and Natividad F.:** Recent situation of dengue fever and dengue hemorrhagic fever in the Philippines（1995－2001）．日本熱帯医学会総会，高知，2002年11月21－22日．

86）**Oishi K., Inoue S., Hasebe F., Kumatori A., Morita K., Nagatake T., Alfon J., Cruz D., Cinco M., Matias R., Alera T., Dimaano E., and Natividad F.:** A mechanism of thronbocytopenia during the acute phase of dengue virus infection：日本熱帯医学会総会，高知，2002年11月21－22日．

87）**神原廣二，高木正洋，津田良夫，吉永一未，前川芳秀，Dachlan, Y. P., Gerudug, I. K., Sekarningrat, H. L.**：インドネシア，ロンボク島におけるマラリア疫学．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

88）**神原廣二**：インドネシア，ロンボク・スンバワ島におけるマラリアコントロールプロジェクトを通して．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

89）**Juarez, S. I., Putaporntip, C., Ichinose, A., Jongwutiwes, S., Yanagi, T., Kanbara, H. :** Experimental infection into SCID mice with microsporidia isolated from an AIDS patient．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

90）**Shuaibu, M. N., Kanbara, H., Yanagi, T., Ameh, D. A., Bonire, J. J., Nok, A. J. :** Chemothrapeutic approack to African trypanosomiasis: the use of Diorganotin and its derivatives．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

91）**藤巻康教，Dao To Quyen，佐藤ゆき，Nguyen Thi Dang, Ha Huy Khoi,Do Thi Kim Lien，青木克己，山本　茂，太田房雄**：ベトナムハノイ都市部と農村部の学童における寄生虫感染と栄養不良．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

92）**渡部幹次，野口　満，野俣浩一郎，Muhoho N，青木克己**：　ビルハルツ住血吸虫感染の排尿機能に与えるインパクト．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

93）**大渡　伸，藤巻康教，熊取厚志，鳥山　寛，金田英子**：マンソン住血吸虫感染幼虫に対する水圧振動による殺傷効果．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

94）**濱野真二郎，小林茂，鈴木朗，渡部幹次，白川　卓，石井一成，多田　斉，青木克己，西山　馨，姫野國祐**：マラリアとαセラセミアの関係に対する分子集団遺伝学的研究（２）．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

95）**鳥山　寛，千馬正敬，Jutavijittum P, Yousukh A**：タイ国チェンマイ地域におけるHBワクチン接種事業の評価。第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．（日本熱帯医学会雑誌30（増刊）：260）

96）**八尋真希，藤井仁人，米井脩治，中村三千男**：DNA塩基の熱変性変異修復に関わると思われる新奇G/Tミスマッチ結合タンパク質の同定とその結合特異性の解析．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．

97）**永武　毅**：シンポジウムⅠ　新興・再興細菌感染症の現状と問題．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21日－22日．P187

98）**大石和徳，井上真吾，斉藤真理子，長谷部　太，熊取厚志，森田公一，永武　毅，Alfon J. A. R., Cruz D. J. M., Cinco M. T. D., Matias R. R., Alera T. P., Dimaano E. M., Natividad F. F.**：デングウイルス感染症の血小板減少秩序：Platelet-associated IgGと抗デングウイルスIgGの関与．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．P259

99）**Rusizoka OS，渡辺貴和雄，Chen M, Nguyet NT, Thi NT, Dung NT, Anh NTC, Huong PLT, Anh DD，永武　毅**：ベトナムにおける小児急性呼吸器感染症：起炎菌決定と呼吸器病原性菌の薬剤感受性．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．P261

100）**小山和彦，原田義高，黒木麗喜，吉嶺裕之，大石和徳，中澤秀介，神原廣二，永武　毅**：Black water feverを呈した重症熱帯熱マラリア感染症の一例．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．P280

101）**Yu Chuanxin，菊池三穂子，Zhu Yinchang, Yin xeren 平山謙二**：日本住血吸虫（中国株）のcDNAライブラリーからの主要抗原遺伝子の単離　第43回日本熱帯医学会大会，2002年11月21～23日，高知

102) **大渡　伸，藤巻康教，熊取厚志，鳥山　寛，金田英子**：マンソン住血吸虫・感染幼虫に対する水圧振動による殺傷効果．第43回日本熱帯医学会大会，2002年11月21－22日，高知

103) **門司和彦，Mohamed Karama, Ngethe Muhoho, Habab Chwaya, Ali Foum, Simba Khamis，安高雄治，嶋田雅曉，青木克己**：ケニア沿岸州およびザンジバルの小学校におけるビルハルツ住血吸虫症簡易質問票調査．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22.

104) **安高雄治，金田英子，嶋田雅曉，木須友子，門司和彦**：タンザニアにおける住血吸虫症流行地住民の水接触行動：直接観察法と思い出し法の比較研究．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22. プログラム・抄録集　第30巻　p235

105) **金田英子，木須友子，安高雄治，嶋田雅曉，門司和彦**：タンザニア・ロウアモシ地区における住血吸虫症の分布状況：学校単位と居住地単位の比較．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．プログラム・抄録集　第30巻　p236

106) **木須友子，安高雄治，金田英子，門司和彦，嶋田雅曉**：マンソン住血吸虫症集団治療後の経過観察のための質問紙によるスクリーニング検査．第43回日本熱帯医学会大会，高知，2002年11月21－22日．プログラム・抄録集　第30巻　p233

107) **本村和嗣，豊田信明，大石和徳，永井重徳，永武　毅，松島綱治**：アフリカ　ウガンダ由来 HIV 感染患者の臨床病態と遺伝子発現プロファイル解析．第16回日本エイズ学会学術集会・総会，名古屋，2002年11月28－30日．P316

108) **川上健司，土橋佳子，永武　毅**：Corynebacterium　Pseudodiphtheriticum 肺炎の４症例の検討．第72回日本感染症学会西日本地方総会，大分，2002年11月28－29日．P51.

109) **本田章子，古本朗嗣，池田秀樹，星野和彦，森本浩之輔，山領　豪，麻生憲史，天野秀明，大石和徳，永武　毅**：フィラリア乳び尿症に起因すると思われるリンパ球減少に合併したクリプトコッカス髄膜炎の一症例．第72回日本感染症学会西日本地方総会，大分，2002年11月28－29日．P.60

110) **高木理博，水谷玲子，天野秀明，麻生憲史，鵜飼桃代，大石和徳，永武　毅**：横紋筋融解症を合併したカポジ水痘様発疹の１例．第72回日本感染症学会西日本地方総会，大分，2002年11月28－29日．P.60

111) **倉本剛史，麻生憲史，大石和徳，永武　毅**：血小板減少の機序として PA-IgG の関与が示唆された輸入デング熱の一例．第72回日本感染症学会西日本地方総会，大分，2002年11月28－29日．P62

112) **光嶋博昭，大石和徳，永武　毅**：塩酸肺吸引によるマウス緑膿菌性肺炎の憎悪効果．第72回日本感染症学会西日本地方総会，大分，2002年11月28－29日．P71

113) **一ノ瀬昭豊，アハメド　カムルディン，渡辺貴和雄，和泉伸一，平山壽哉，永武　毅**：SEM，TEM　による細菌観察のためのセロファン寒天培地法と応用．第44回日本顕微鏡学会九州支部総会・学術講演会，福岡，2002年11月30日．

114) **菊池三穂子，Honggen Chen，久保達也，Ratawan Ubalee，Xiaojun Zeng，平山謙二**：日本住血吸虫感染後の肝線維化の重症度を規定するIL-13プロモーター遺伝子の機能解析．第32回日本免疫学会総会，東京　2002年12月４～６日．

115) **星野和彦，渡辺　浩，麻生憲史，渡辺貴和雄，大石和徳，永武　毅**：タイ国北部地域におけるペニシリン耐性肺炎球菌の現状と分子疫学的検討．第50回日本化学療法学会西日本支部総会，広島，2002年12月５－６日．P53

116) **熊取厚志，楊丹，鈴木章一，中村三千男**：好酸球におけるシトクロムb558大鎖(CYBB)遺伝子発現調節機構の解析，第25回日本分子生物学会年会，横浜，2002年12月11－14日．

117) **森田公一**：デング，日本脳炎キメラウイルス．九州微生物研究会，福岡，2002年12月12日．

118) **高木正洋**：疾病媒介蚊の地理的変異の精査，並びにその起因環境のGISによる分析．特定領域研究（C）「感染の成立と宿主応答の分子基盤」全体班会議，東京，2003年１月９日．

119) **平山謙二，渡部幹次，菊池三穂子，M. Raafat Taha，青木克己**：日本住血吸虫感染モデルとしてのミニブタ　新興再興感染症班会議，2003年１月16日，名古屋

120) **谷村　晋，溝田　勉**：ホンデュラス国におけるAIDSの高率罹患地域の検出とその時空間観察．第13回日本疫学会学術総会，福岡，2003年１月．第13回日本疫学会学術総会講演集　p50

121) **上村春樹**：*T. cruzi* トランスシアリダーゼファミリーの比較．日米医学協力研究会寄生虫疾患専門部会国内研究会議，名古屋，2003年１月24－25日．

122) **高木正洋**：北タイの山地から平野にかけての *An. Minimus* の密度と，周辺景観の主たる構成要素．平成14年度日米医学協力研究会国内会議，名古屋，2003年１月24－25日．

123) **渡部幹次，菊池三穂子，M. Raafat Taha，平山謙二，青木克己**　日本住血吸虫感染モデルとしてのミニブタ，日米寄生虫研究部会，名古屋，2003年１月24－25日．

124) **谷村　晋**：空間疫学は熱帯病対策にどのように役に立つか．第27回日本熱帯医学会九州支部会，長崎，2003年２月．１－２日．

125) **門司和彦，金田英子**：熱帯地域におけるProspective Community Study（PCS）の現状と日本の課題．第27回日本熱帯医学会九州支部大会，長崎2003年２月１－２日．

126) **嶋田雅曉**：解題－熱帯感染症の疫学とモデル構築の意義．第27回日本熱帯医学会九州支部大会，長崎2003年２月１－２日．

127) **藤川敬太，大畑一幸，市川辰樹，石川博基，濱崎圭輔，江口勝美，中尾一彦，鳥山　寛**：食事・運動療法により肝機能および組織学的所見の改善がみられたNASHの１例。第260回日本内科学会九州地方会，福岡，2003年２月８日.

128) **谷村　晋**：保健情報の視覚化とWebGIS. 第18回日本コンピュータサイエンス学会学術集会，東京，2003年２月.

129) **谷村　晋**：Health GIS and Spatial Epidemiology. 地理情報システム学会医療福祉環境分科会第８回研究会，長崎，2003年３月.

130) **谷村　晋，Pham Kim Sac，溝田　勉**：ベトナム南部におけるコレラ死亡数の地理的分布. 日本国際保健医療学会西日本地方学会第21回大会，大阪，2003年３月.

131) **前野芳正，中澤秀介，長嶋茂雄，田中くみ子，神原廣二，上出利光，谷口孝喜**：*Plasmodium chabaudi chabaudi* 感染免疫におけるオステオポンチンの役割. 第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日.

132) **上村春樹，加藤美枝，柳　哲雄，中澤秀介，神原廣二**：*T. cruzi* トランスシアリダーゼファミリー蛋白質の構造と活性，局在. 第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日.

133) **永宗喜三郎，上村春樹，前田裕輔，木下タロウ**：*Trypanosoma brucei* におけるトランスシアリダーゼの動態解析. 第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日.

134) **中澤秀介**：*Plasmodium berghei*：クロロキン投与後の再燃. 第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日.

135) **神原廣二，吉永一未，前川芳秀，高木正洋，Gerudug, I. K.,Dachlan, Y. P.**：インドネシア，ロンボク・スンバワ島におけるマラリア疫学. 第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日.

136) **松山拓史，渡部幹次，藤巻康教，青木克己**：住血吸虫ミラシジウムの繊毛運動とcAMP. 第72回日本寄生虫学会大会，高知，2003年３月28－30日.

137) **渡部幹次，菊池三穂子，Mohamed T.Raafat，大野晃生，岩崎琢也，平山謙二，青木克己**：日本住血吸虫感染モデルとしてのミニブタ. 第72回日本寄生虫学会大会，高知，2003年３月28－30日.

138) **Nippul Kithsiri Gunawardena, Yasunori Fujimaki, Yoshiki Aoki, Eisaku Kimura:** Differential effects of diethylcarbamazine, tetracycline and the combination on *Brugia pahangi* female adults in vitro. 第72回日本寄生虫学会大会，高知，2003年３月28－30日.

139) **藤巻康教，Nguyen Thi Viet Hoa，野田伸一，宇賀昭二，門司和彦，Le Dinh Cong，青木克己**：ベトナムハノイ近郊における土壌媒介寄生虫の伝播疫学研究：住民の感染率と土壌・埃の虫卵汚染状況. 第72回日本寄生虫学会大会，高知，2003年３月28－30日.

140) **Higo H, Miura S, Horio M, Mimori T, Agatsuma T, Hirayama K, Takeuchi T, Tada I, Himeno K.** The differences of genetic variation among major lineages in *Trypanosoma cruzi*. 第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日

141) **平山謙二，濱野真二郎，肥後廣夫，P.M.Sieu Tran，菊池三穂子，曽根敏雄，柳 哲雄，早嶋順子，多田 功，姫野国祐**：中南米の分離株を用いたクルーズトリパノソーマの種内変異解析 *Trypanosoma cruzi* の種内変異と病原性についての解析．第72回日本寄生虫学会大会久留米，2003年３月28－30日．

142) **菊池三穂子，Honggen Chen，久保達也，Ratawan Ubalee，Xiaojun Zeng，平山謙二**：日本住血吸虫感染後の肝線維化の重症度を規定するIL-13プロモーター遺伝子の機能解析 第72回日本寄生虫学会大会久留米，2003年３月28－30日．

143) **曽根敏雄，肥後廣夫，平山謙二**：*Trypanosoma cruzi* ⅠとⅡの２次元ポリペプチドマップの作成．第72回日本寄生虫学会大会，久留米，2003年３月28－30日．

９．３　国際会議における研究活動

1）**Oisi K., Sraki M., Moji K**: Childbirth-Related Traditional Customs in Japan and Korea. 26th congress the international confederation of midwives, April 14-18, 2002. Korea.

2）**Turan T, Ahmed K, Tazebay UH, Wada A, Hatakeyama T, Hirayama T, Nagatake T**: Molecular Characterization of an Adhesin of a Respiratory Pathogen, Moraxella Catarrhalis. 2ND Molecular and Diagnostic Microbiology Congress. April 21-25, 2002, Kemer, Antalya-Turkey.

3）**Hirayama T.**: Function of vacuolating cytotoxin in H. pylori infection. Rokuzou Kobayashi Memorial Symposium on Helicobacter pylori. May 11, 2002, Tokyo, Japan.

4）**T. Yamaryo, K. Oishi, H. Yoshimine , H. Amano, T. Nagatake T.** 14-member macrolides promote phosphatidylserine receptor-dependent phagocytosis of apoptotic neutrophils by alveolar macrophages. Annual Meeting of American Thoracic Society, Atlanta, May 17-22, 2002, Atlanta, Georgia, U. S. A.

5）**R. Kuroki, K. Morimoto, H. Amano, F. Sonoda, M. Baba, M. Senba, H. Yoshimine, H. Yamamoto, T. Li, K. Oishi, T. Nagatake**: Alveolar macrophages That phagocytose Apoptotic Neutrophils Produce Hepatocyte Growth Factor During Bacterial Pneumonia In Mice. Annual Meeting of American Thoracic Society, Atlanta, May 17-22, 2002, Atlanta, Georgia, U. S. A.

6）**Hasebe F., Limkittikul K., Hong T.C.T, Utama A., Shimizu H., Miyamura T., and Morita K.**: Significance of mutant helicase motif II for Japanese encephalitis virus infectivity. Thiry-sixth Joint Working Conference on Viral Diseases, US/Japan Cooperative Medical Science Meeting. July 16-18, 2002. Matsumoto, Japan.

7）**Daisuke Hayasaka, Tamara S Gritsun, Tomotaka Ueki, Kentarou Yoshii, Akiko Goto, Tetsuya Mizutani, Hiroaki Kariwa, Takuya Iwasaki, Ernest A Gould, Ikuo Takashima**: Infectious cDNA clone of tick-borne encephalitis virus far-eastern subtype strain Oshima. Thirty-sixth Joint Working Conference on Viral Diseases, US/Japan Cooperative Medical Science Meeting. July 16-18, 2002. Matsumoto, Japan. (p.27)

8）**Iwasaki T, Nagata N, Shimizu H, Ami Y, Miyamura T, Sata T, Kurata T**: Pathology of experimental infection of enterovirus 71 in cynomolgus monkeys in comparison with that of poliovirus. 39th Joint Working Conference on Viral Diseases, US/Japan Cooperative Medical Science Meeting. July 16-18, 2002. Matsumoto, Japan.

9）**K. Hirayama**; Refresher Course on Good Clinical Practices (GCP) for TDR Clinical Monitors. July 22-24, 2002, Chang Mai, Thailand.

10）**K. Hirayama**; An International Conference on Good Health Research Practices in Asia & the

Western Pacific. July 25-27, 2002, Chang Mai, Thailand.

11) **Morita K, Wong PF, Methenge EGM, Kashiwaki T, and Hasebe F.**: Construction and characterization of a Japanese encephalitis/dengue 2 chimeric virus. XII International Congress of Virology. July 27-Aug 1,Paris, France.

12) **Hirayama T, Kimura M, Kimura T, Yahiro K, Wada A, J. Moss**: *Helicobacter pylori* vacA induces P38 MAP kinase phosphorylation in AZ521 cells. IUMS Congress, 10th International Congress of Bacteriology and Applied Microbiology. p 229, Paris, France, July 27th to August 1st, 2002.

13) **K. Hirayama**; Forum for Ethical Review Committees in Asia & the Western Pacific. Strategic Initiative for Developing Capacity in Ethical Review (SIDCER), July 29-August 2, 2002, Bangkok, Thailand.

14) **Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Ferreira, M., Kanbara, H.** : Sequence variation and positive Darwinian selection on the merozoite surface protein 4 of *Plasmodium falciparum.* The Tenth International Congress of Parasitology, August 4-9, 2002, Vancouver, Canada

15) **K. Hirayama, M. Kikuchi, R. Ubalee, H. Chen, T. Yin, X. Gu, S. Zhang, H. Yuan.**: Synergistic effect of two susceptible genetic markers, hla-drb5*0101 and il-13p-a/a, on the development of post-schistosomal liver fibrosis. The Tenth International Congress of Parasitology, August 4-9, 2002, Vancouver, Canada.

16) **T. Sone, M. Gil, J-B. Mu, R. Takagi, K.Hirayama, H. Higo, I. Tada, C. Monroy, N. Acosta, E. Lopez, .R. de Arias and N. Uyema.**: Everluation of protein variable in *Trypanosoma cruzi* as indicated by two-dimensuonal gel electrophoresis. 10th International congress of Parasitology, August 4-9, 2002, Vancouver, Canada.

17) **Takagi,M.**: Mosquito-borne diseases perspective.SEAMIC Workshop on Malaria and Dengue Hemorrhagic Fever Control.August 16-21, 2002, Hanoi, Vietnam.

18) **Takagi,M.**: Fight with dengue vectors, “tough invaders”. SEAMIC Workshop on Malaria and Dengue Hemorrhagic Fever Control.August 16-21, 2002, Hanoi,Vietnam.

19) **Takagi,M.**: Recent situation of malaria vectors in SEA.SEAMIC Workshop on Malaria and Dengue Hemorrhagic Fever Control.August 16-21, 2002, Hanoi, Vietnam.

20) **Uemura, H., Schenkman, S.** : Structure and function of *Trypanosoma cruzi* trans-sialidase family proteins. Thirty-seventh Joint Conference on Parasitic Diseases, The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

21) **Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Sakihama, N., Kanbara, H., Tanabe K.** : High recombination rate of the *Plasmodium vivax* merozoite surface protein 1 locus. Thirty-seventh Joint

Conference on Parasitic Diseases, The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

22) **Ton, T. A. L., Nakazawa, S., Onizuka, S, Huaman, M. C., Kanbara, H.** : Correlation between Immunoregulatory $CD4^{+}CD25^{+}$ T Cells and *Plasmodium berghei* NK65 Infection. Thirty-seventh Joint Conference on Parasitic Diseases, The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

23) **Owhashi, M., Taoka, Y., Ishii, K., Nakazawa, S., Uemura, H., Kanbara, H.** : Identification of a ubiquitin family neutrophil chemotactic factor involved in innate immunity in malaria. Thirty -seventh Joint Conference on Parasitic Diseases, The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

24) **Huaman, M. C., Roncal, N., Nakazawa, S., Ton, T. A. L., Gerena, L., Garcia, C., Solari, L., Magill, A. J., Kanbara, H.** : The relationship of *pfmdr 1* and *pfcrt* gene polymorphism to *in vitro* amino-quinolones in isolates of *Plasmodium falciparum* from the Peruvian Amazon. Thirty-seventh Joint Conference on Parasitic Diseases. The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

25) **Aoki, Y. Watanabe, K. Muhoho, N.D. Kiliku, F.N. Ohhi, T. Katsumata, T.** : Hidden morbidity of Schistosomiasis haematobia Thirty-seventh Joint Conference on Parasitic Diseases. The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

26) **Itoh M, Weerasooriya MV, Qiu A, Islam MZ, Fujimaki Y, Gunawardena NK, Kimura E.**: Aoolication of ELISA to detect filaria-specific urinary IgG4 in a lo-endemic area in Sri Lanka. Thirty-seventh Joint Conference on Parasitic Diseases. The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

27) **Kimura E, Itoh M, Isogai Y, Fujimaki Y, Qiu X, Islam MZ, Weerasooriya MV, Mudalige MPS.**: Prevalence of Wuchereria bancrofti antigenemia and filarial-specific urinary IgG4 in Deniyana area, Matara District, Sri Lanka. Thirty-seventh Joint Conference on Parasitic Diseases. The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002..

28) **Sone T, Mu JB, Yanagi T, Higo H, Gil M, Matta V, Monroy C, Lopez MP, Arias R, Uyema N, Tada I, Hirayama K.**: Evaluation of protein variability in *Trypanosoma cruzi* as indicated by two-dimensional gel electrophoresis. Thirty-Seventh Joint Conference on Parasitic Diseases. The Japan-U.S. Cooperative Medical Science Program, Nagasaki, Japan, August 20-23, 2002.

29) **K. Moji, Y. Tahara, T. Takemoto, K. Aoyagi, H. Okumura**:Body density and total body potassium in Japanese young women. 6th International Congress on Physiological Anthropology. Aug

23-27, 2002. U.K

30) **Hirayama T.**: Helicobacter pylori VacA toxin in deseas: Role of Protein tyrosine phosphatase b The Awaji International Forum on Infection and Immunity. August 24-27, 2002, Hyogo, Japan

31) **Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Kanbara, H.** : Positive selection on the c-terminal part of the merozoite surface protein 1 of *Plasmodium vivax.* Third European Congress on Tropical Medicine and International Health, Lisbon, Portugal, September 8-11, 2002.

32) **Jongwutiwes, S., Suvannadhat, V., Tangchaisuriya, U., Putaporntip, C., Kanbara, H.** : Intragenic Recombination, Natural Selection and Sequence Variation in the Apical Membrane Antigen 1 Gene of *Plasmodium falciparum* from Thai Isolates. 13th Japanese-German Symposium on Protozoan Diseases. Nagasaki, Japan, October 2-5, 2002.

33) **Maeno, Y. Nakazawa, S., Nagashima, S., Sasaki, J., Kanbara, H., Taniguchi, K.** : Osteopontin takes parts in the progress of protective immunity in *Plasmodium chabaudi* infection. 13th Japanese-German Symposium on Protozoan Diseases. Nagasaki, Japan, October 2-5, 2002.

34) **Nakazawa, S.** : *Plasmodium berghei* surviving a drug treatment. 13th Japanese-German Symposium on Protozoan Diseases. Nagasaki, Japan, October 2-5, 2002.

35) **Shuaibu, M. N., Kanbara, H., Yanagi, T., Ameh, D. A., Bonire, J. J., Nok, A. J.** : Chemotherapeutic Approach to African Trypanosomiasis: the use of Diorganotin and Its Derivatives. 13th Japanese-German Symposium on Protozoan Diseases. Nagasaki, Japan, October 2-5, 2002.

36) **Rivera, W. L., Alcazaren, J. C. S., Santos, S. R., Escueta, A. S., Villacorte, E. A., Rivera, P. T., Kanbara, H.** : Genetic diversity of clinical and field isolates of *Entamoeba histolytica* in the Philippines. 13th Japanese-German Symposium on Protozoan Diseases. Nagasaki, Japan, October 2-5, 2002

37) **Morita K.**: Construction and characterization of Japanese encephalitis/dengue chimeric viruses Japan-Singapore International Symposium. Oct 10-11, 2002. Nagasaki, Japan

38) **Morita K.**: New technology for laboratory diagnosis on JE. SEAMIC Meeting, Oct 21-25, 2002. Manila, Philippines.

39) **Morita K.**: Research on new JE vaccines. SEAMIC Meeting, Oct 21-25, 2002. Manila, Philippines.

40) **Morita K.**: Virological research, new information on JEV. SEAMIC Meeting, Oct 21-25, 2002. Manila, Philippines.

41) **永武　毅**：第７回汎太平洋新興感染症国際会議，US/Japan Cooperative Medical Science Meeting Acute Respiratory Infections subcommittee. 上海，中国，2003年10月31日－11月１日．

42) **Tsutomu Mizota, Yasuyuki Rakue, Shailesh Hegde**: How Evaluate Current Decade Malaria by Intervention study in Africa (1991-2001). November, 2002. Bangkok, Thailand.

43) **Susumu Tanimura**: Health GIS and Spatial Epidemiology. Joint International Meeting of Tropical Medicine 2002, Bangkok, Nov. 2002.

44) **Susumu Tanimura,Pham Kim Sac,Tsutomu Mizota**: Improvement of disease mapping for rare cases in the south Vietnam by applying Poisson model into probability map. Vietnamese-Japanese Seminar on Tropical Infectious Diseases, Hanoi, Nov. 2002.

45) **Putaporntip, C., Jongwutiwes, S., Kanbara, H.** : Meiotic recombination and sequence variation in the apical membrane antigen 1 of *Plasmodium vivax.* The Third MIM Pan-African Malaria Conference. Arusha, Tanzania, November 17-22, 2002.

46) **Morita K.**: Dengue /JE chimeric viruses and their characterization. Japan-Vietnam International Symposium. Nov. 28-30, 202. Hanoi, Vietnam.

47) **Hasebe F., Limkittikul K., Hong T.C.T, Utama A., Shimizu H., Miyamura T., and Morita K.**: Significance of mutant helicase motif II for Japanese encephalitis virus infectivity Japan-Vietnam International Symposium. Nov.28-30, 2002. Hanoi, Vietnam

48) **Uemura, H., Nakazawa, S., Dao, L. D., Cong, L. D.** : Polymorphism in pfmdr-1 gene of malaria parasite populations in a south Vietnam community. Vietnamese-Japanese Seminar on Tropical Infectious Diseases. Hanoi, Vietnam, November 28-30, 2002.

49) **Nakazawa, S., Maeno, Y., Nagashima, S., Sasaki, J., Higo, K. M., Taniguchi, K.** : Utility of the dried blood on filter paper as a source of cytokine mRNA for the analysis of immunoreactions in *Plasmodium yoelii* infection. Vietnamese-Japanese Seminar on Tropical Infectious Diseases. November 28-30, 2002, Hanoi, Vietnam

50) **K. Oishi, Nguyet NT, Thi NT, Dung NT, Phuoung DM, Anh NTC, K. Watanabe, Anh DD, Huong PLT, Long HT, T. Nagatake**: Usefulness of a quantitative culture methods using bronchial secretion for bacterial diagnosis of community-acquired pneumonia (CAP) among children in Vietnam. Vietnamese-Japanese Seminar on Tropical Infectious Diseases. November 28-30, 2002, Hanoi, Vietnam.

51) **Nam, V. S., Yen, N. T., Anh, N. C., Hasegawa, M., Tsuda, Y. & Takagi, M.**: Japanese encephalitis vectors in North and Central Vietnam, 2001-2002. Vietnam-Japan Seminar on Tropical Infectious Diseases.November 28-30, 2002, Hanoi,Vietnam.

52) **Nam, V. S., Tsuda, Y., Yen, N. T. & Takagi, M.**: Variation in dorsal pattern of *Aedes aegypti* in Vietnam.Vietnam-Japan Seminar on Tropical Infectious Diseases.November 28-30, 2002, Hanoi, Vietnam.

53) **Sawabe, K., Phong, T. V., Nam, V. S., M., Tsuda, Y. & Takagi, M.**: Glycogen and neutral lipid contents in selected bright and dark strains of *Aedes aegypti* from Hanoi, Vietnam.Vietnam-Japan Seminar on Tropical Infectious Diseases.November 28-30, 2002, Hanoi,Vietnam.

54) **Wada, A., Ogushi, K., Rafael, L., Moss, J., and Hirayama, T.** : Analysis of human b-defensin -2 (hBD-2) induction by Salmonella enteritidis FliC (flagellin), 37th U.S.-Japan Joint Conference on Cholera and Other Bacterial Enteric Infections panel, December 17-19, 2002, Okinawa, Japan

９．４　報告書等印刷物

1）**森田公一**：節足動物媒介性ウイルス疾患の予防・治療に関する研究（分担）　地球環境保全試験研究費平成14年度研究成果報告書（環境省地球環境局研究調査室編集）

2）**森田公一**：節足動物媒介性ウイルスに対する診断法の確立，疫学およびワクチン開発に関する研究（分担）　新興・再興感染症研究事業平成14年度研究報告書

3）**森田公一**：感染症および感染症対策の国際動向に関する研究（分担）　新興・再興感染症研究事業平成14年度研究報告書

4）**青木克己**：住民の住血吸虫症に対する認識を高める方法の開発．厚生労働科学研究研究費補助金　新興・再興感染症研究事業　平成14年度総括・分担研究報告書．P15－17，2002.

5）**鳥山　寛**：タイにおける肝疾患のウィルス学的および病理学的研究．平成13年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告集，P435－436.

6）**Toriyama, K., Zha, Y., Iseki, M., Senba, M., Nakao, K. & Hmasaki, K.**: Immunohistochemical detection of hepatic ferritin in chronic hepatitis B, chronic hepatitis C and steatohepatitis; Assessment of hepatic iron deposition.　平成13年度共同研究報告書，P43－46.

7）**井関充及，千馬正敬，鳥山　寛，佐藤　衛，島田厚良，岸川正大，荒木美奈子，太田至，小林聡史**：カポシ肉腫における分子病理学的および病理組織学的研究．平成13年度共同研究報告書，P47－49.

8）**岩崎琢也**：厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業：重症エンテロウイルス脳炎の疫学的及びウイルス学的研究並びに臨床的対策に関する研究（H12－新興－24）平成14年度総括・分担研究報告書主任研究者岩崎琢也　2003，３

9）**岩崎琢也**：厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業：重症エンテロウイルス脳炎の疫学的及びウイルス学的研究並びに臨床的対策に関する研究（H12－新興－24）平成12－14年度総合研究報告書主任研究者岩崎琢也　2003，３

10）**永武　毅**：びまん性肺疾患または呼吸不全における細菌感染に関する研究．　厚生労働科学研究費補助金　特定疾患対策研究事業　平成14年度　総括・分担研究報告書　pp. 24－31，2003年３月刊

11）**永武　毅**：インフルエンザ脳炎・脳症の発症機序の解析と治療の開発　小児の上気道におけるウイルスと細菌のかかわり－日本と海外との比較研究を通じて．平成14年度厚生科学研究（脳科学研究事業）分担者報告書　pp. 39－42，2003.

12）**永武　毅**：髄膜炎菌の国際間比較研究．厚生科学研究費補助金　新興・再興感染症研究事業　髄膜炎性髄膜炎の発生動向調査及び検出方法の研究　平成14年度　総括・分担研

究報告書　pp. 67－70, 2003年３月刊
13) **永武　毅，大石和徳，渡邊　浩，麻生憲史，渡辺貴和雄**：タイ国における AIDS に合併した呼吸器感染症治療法と予防対策の研究（課題番号12576017）平成12年度～平成14年度科学研究費補助金　基盤研究(B)(2)　研究成果報告書　2003年３月刊
14) **平山謙二，姫野国祐，曽根敏雄，肥後広夫，濱野真二郎，柳　哲雄，菊池三穂子**：シャーガス病の多様な病態とヒト及び原虫の種内変異との関連（研究課題番号　12376001）平成12年度～平成14年度科学研究費補助金　基盤研究(A)(1)　研究成果報告書，pp. １－256, 2003年３月
15) **太田伸生，丸山治彦，鈴木高史，平山謙二，奈良武司，熊谷　貴，吉田彩子**：各種日本住血吸虫ワクチン分子の野外試験評価と効果発現の分子的機序の解析：（研究課題番号12576009）平成12年度～平成14年度科学研究費補助金　基盤研究(B)(2)　研究成果報告書，pp. １－166, 2003年３月
16) **太田伸生，青木克己，朝日博子，川中正憲，小島荘明，嶋田雅暁，田邉将信，二瓶直子，平山謙二，門司和彦，松田　肇**：日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及び予防に関する研究（H12－新興－18）：厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）平成12年度～平成14年度　総合研究報告書，１－409, 2003年３月
17) **太田伸生，青木克己，朝日博子，川中正憲，小島荘明，嶋田雅暁，田邉将信，二瓶直子，平山謙二，松田　肇，門司和彦**：日本住血吸虫等世界の寄生虫疾患の疫学及び予防に関する研究（H12－新興－18）：厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）平成14年度　総括・分担研究報告書，１－262, 2003年３月
18) **大渡　伸，藤巻康教，熊取厚志，鳥山　寛，金田英子**：疾病感染に対する太陽紫外線暴露の憎悪作用と影響評価　（研究課題番号　13680630）平成13平成14年度科学研究費補助金　基盤研究(C)(2)　研究成果報告書，pp. 1－104, 2003年３月
19) **平山謙二**：住血吸虫の診断用抗原探索，ワクチン開発に関する研究．生労働科学研究研究費補助金　新興・再興感染症研究事業　平成14年度総括・分担研究報告書．P59－62, 2002.
20) **高木正洋**：無人島におけるヒトスジシマカの定着・存続に関する研究．文部省科学研究費補助金研究成果報告書，2002年４月刊.
21) **高木正洋**：生態学者による国際保健ひとかじり．「国際保健医療のお仕事」中村安秀・編著，南山堂，P１－226：217－225, 2003年２月刊.
22) **高木正洋**：東南アジアにおける環境変化が疾病媒介蚊に及ぼす影響．文部省科学研究費補助金研究成果報告書，2003年３月刊.
23) **溝田　勉，楽得康之**：環太平洋地域における日米会議（1999）の報告　－特にインフル

エンザ，住血吸虫，デング熱についてー　2002年12月刊
24）**溝田　勉**：危機管理としての熱帯病対策「全国共同利用研」共同研究事業　共同研究報告書　2003年３月刊
25）**溝田　勉**：国際保健医療学への誘い「全国共同利用研」共同研究事業　共同研究報告書　2003年３月刊
26）**嶋田雅曉**：対策のための数学モデル作成に関する研究．生労働科学研究研究費補助金　新興・再興感染症研究事業　平成14年度総括・分担研究報告書．P36－41，2003.
27）**門司和彦**：住血吸虫症対策における健康教育改善に関する研究．厚生労働科学研究研究費補助金　新興・再興感染症研究事業　平成14年度総括・分担研究報告書．P82－86, 2003.

9．5　熱帯医学研究所集談会

平成14年度熱帯医学研究所大集談会プログラム

日時　平成15年３月24日㈪　９：00－16：00

９：00　青木所長　挨拶

病原体解析

９：10－９：30	分子構造解析	Parquet M.C	Characterization of JE virus infected human dendritic cells
		長谷部　太	ベトナムで分離したＢ細胞特異的結合を示すと思われるデング２型ウイルスの解析
９：30－９：50	病原因子機能解析	大串　賢一	サルモネラ・エンテリティディスのフラジェリン（FliC）による Caco-2 細胞からの hBD-2の発現誘導機序
		和田　昭裕	ヘリコバクター・ピロリの空胞化毒素（VacA）の作用機序
９：50－10：10	感染細胞修飾機構	Ton That Ai Long	Influence of immunoregulatory CD4+ CD25+ T cells on protective immunity to *Plasmodium berghei* NK65 infection.
		Chaturong Putaporntip	MSP 1: From *Plasmodium falciparum* to *Plasmodium vivax*
10：30－10：50	寄生行動制御	藤巻　康教	糸状虫感染型幼虫の宿主侵入時に認識する血清成分の検索
		渡部　幹次	ビルハルッ住血吸虫感染患者の排尿障害
10：50－11：00	分子疫学	Basu Dev Pandey	A single amino acid mutation in the PrM region of Dengue 2 virus isassociated with increased infectivity, enhanced cytokine production and implications for disease severity”
11：00－11：15	共同研究室／電顕室	一ノ瀬昭豊	電子顕微鏡室の利用状況及び共同研究状況2001－３ SEM/TEM による細菌観察のためのセロファン寒天培地法と応用

熱帯感染症研究センター

11：15－11：35		門司　和彦	Epidemiological study on schistosomiasis in Africa.

宿主病態解析			
13：00－13：20	炎症細胞機構	熊取　厚志	好酸球における食細胞 NADPH オキシダーゼ遺伝子発現機構の解析
		中村三千男	新奇 G/T ミスマッチ結合タンパク質の解析
		中村三千男	CGD における点変異の同定
13：20－13：40	病変発現機序	早坂　大輔	Production of infectious clone of tick borne encephalitis virus
		千馬　正敬	Molecular pathology of the penile neoplasms in Africa and South-East Asia
13：40－14：00	感染症予防治療	斉藤麻里子	1999～2001年のフィリピンにおける小児デングの臨床像：とくに出血性素因について
		星野　和彦	呼吸器病原性菌の親子間の伝播に関する分子疫学的検討
14：00－14：15	エイズ・感染防御	久保　嘉直	マウスレトロウイルスの細胞侵入機構
環境医学			
14：30－14：50	生物環境	高木　正洋	分野の総括
		Hamady Dieng	Efficacy of 3 copepods as predators against *Aedes albopictus*.
		川田　均	研究計画：新世代殺虫剤による疾病媒介蚊防除手法の基礎研究
14：50－15：10	社会環境	谷村　晋	平成14年度の社会環境分野における研究活動の総括
		谷村　晋	保健 GIS と空間疫学の応用
		金田　英子	アフリカにおける子どもの「病いの疫学」と統合ケア（IMCI）
15：10－15：30	疾病生態	大渡　伸	水中医動物に対する予防対策（水圧変化がマンソン住血吸虫・感染幼虫, 中間宿主貝へ与える影響
		菊池三穂子	日本住血吸虫感染後肝線維化症と相関を示した IL-13プロモーター遺伝子多型の機能解析

10　講　演　会

10．1　熱帯医学研究所における所外講師による講演

1）肝炎ウイルスの病原性と免疫

垣見　和宏（東京医科大学）

2002年３月

2）Japanese encephalitis in India

T.N. Dhole（Dept. of Microbiology,SGPGIMS）

2002年６月27日，熱帯医学研究所小会議室

3）Interactions between schistosomiasis and blood-borne infectious diseases in human: Epidemiological findings.

Dr. Evan Secor（Immunology Branch Division of Parasitic Diseases, CDC, Atlanta, USA）

2003年１月20日，医学部・ポンペ会館

4）二本鎖 DNA コンホーメーション多型によるゲノム多型の解析.

安波　道朗（東京医科歯科大学　難治疾患研究所　分子病態）

2003年２月９日，医学部・ポンペ会館

5）ドミニカ共和国のフィラリア症について

Albert Vincent（Div. of Infectious Diseases and Tropical Medicine, Univ. of Florida, Tampa, USA）

2003年２月25日

6）ミトコンドリアの多様性：寄生適応における意義

北　　潔（東京大学大学院医学系研究科・国際保健学専攻・生物医化学教室）

2003年３月３日

7）Idiotypic immunoregulation of morbidity in human and mouse schistosomiasis mansoni.

D.G. Colley（Center for Tropical and Emerging Global Diseases, Georgia Univ., USA）

2003年３月31日

10．2　熱帯医学研究所教官による講演

1）Capacitasion de SIG（Sistema de Informacion Geografica）（Ⅰ）

Susumu Tanimura

Proyecto de Salud Reproductiva en la Region No. 7

Apr. 2-12, 2002. Honduras

2）デング熱

森田　公一

日本衛生動物学会総会シンポジウム

2002年４月３日（東京）

3）発癌のメカニズムと食物

千馬　正敬

長崎県病院栄養協議会研修会

2002年５月10日，長崎市

4）国際保健医療入門

嶋田　雅曉

佐賀医科大学保健学科講義

2002年５月15日，佐賀

5）発展途上国の人口と健康

門司　和彦

久留米大学医学部講義

2002年５月20日，久留米

6）プライマリーヘルスケア

嶋田　雅曉

久留米大学医療科学講義

2002年５月23日，久留米

7）最近の国際情勢

溝田　　勉

総務省行政評価監察事務所

2002年５月21日，長崎

8）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌蔓延の時代を迎えて－

永武　　毅

石巻市医師会桃生郡医師会学術講演会

2002年５月29日，石巻市

９）蚊学の世界から

高木　正洋

長崎大学名誉教授懇談会

2002年５月31日，長崎

10）疾病媒介蚊の生態と防除

高木　正洋

三重大学大学院医学研究科特論

2002年６月８日，津

11）呼吸器感染症の今日的問題点と治療－基礎から臨床まで－

永武　　毅

第19回栃木胸部疾患研究会

2002年６月13日，栃木県

12）呼吸器感染症治療の今日的問題と対応

永武　　毅

呼吸器感染症学術講演会

2002年６月14日，福井市

13）呼吸器感染症の今日的問題と対応

永武　　毅

八女市医師会学術講演会

2002年６月20日

14）熱帯病と熱帯医学研究所

嶋田　雅曉

長崎北高校生授業

2002年６月20日，熱研

15）熱帯地域のウイルス感染症

岩崎　琢也

滋賀医科大学医学部講義

2002年６月24日，滋賀県瀬戸市

16）呼吸器感染症の外来治療－今日的問題と対応－

永武　　毅

八代市医師会学術講演会

2002年６月28日，八代市

17）呼吸器感染症の治療・予防戦略

大石　和徳

鷹医会学術講演会

2002年６月29日，京都

18）紫外線環境

大渡　　伸

長崎大学環境科学部特別講義

2002年７月３日，長崎

19）長崎大学：法人化に向けての対応，特に熱帯医学研究所の対応

青木　克己

長崎医学同窓会北九州支部会

2002年７月13日，小倉

20）国際疾病疫学

神原　廣二

大阪大学医学部保健学科学生講義

2002年７月16，17日，大阪

21）国際援助と保健資源

嶋田　雅曉

高知医科大学保健学科講義

2002年７月23日，高知

22）食品と寄生虫病

藤巻　康教

徳島大学医学部　栄養衛生学　講議と実習

2002年７月24日，徳島

23）ツツガムシ病を媒介するツツガムシの生態

鈴木　　博

2002年度　牛臨床寄生虫研究会・宮崎シンポジウム

2002年７月31日，宮崎市

24）Cerebral Malaria in Myanmar

K. Hirayama

第17回日本国際保健医療学会総会

2003年８月１日－３日，神戸

25）耐性菌蔓延時代における抗菌薬選択の考え方

永武　　毅

ファイザーテレビシンポジウム

2002年８月７日，長崎市

26）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌の今日的問題点と対応－

永武　　毅

第５回　高砂市医師会生涯教育研修会

2002年８月８日，高砂市

27）呼吸器感染症の今日的問題と対応

永武　　毅

鹿屋市医師会学術講演会

2002年８月22日，鹿屋市

28）呼吸器感染症の治療・予防－今日的問題と対応策－

永武　　毅

岐阜感染症フォーラム

2002年８月24日，岐阜市

29）呼吸器病原性菌の耐性化とワクチン戦略

大石　和徳

静岡県呼吸器感染症懇話会

2002年８月31日，浜松市

30）Decreased serum opsonic activity against Streptococcus pneumoniae in HIV-infected Ugandan adults

大石　和徳

Seminar in Makerere University

2002年９月５日，Uganda

31）ODA と PKO の連携（Ⅰ）

溝田　　勉

放送大学長崎学習センター

2002年９月７日，長崎

32）熱帯医学とケニアに於ける住血吸虫症対策

青木　克己

九州大学医学部　特別講義

2002年９月９日，福岡

33）ODA と PKO の連携（Ⅱ）

溝田　　勉

放送大学長崎学習センター

2002年９月14日，長崎

34）今日的インフルエンザの診断・治療・予防

永武　　毅

第２回　呼吸器感染症学術講演会

2002年９月19日，松本市

35）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌の今日的問題と対応－

永武　　毅

鳥取市医師会学術講演会

2002年９月20日，鳥取市

36）ODA と PKO の連携（Ⅲ）

溝田　　勉

放送大学長崎学習センター

2002年９月21日，長崎

37）デング出血熱について

森田　公一

第382回長崎医学会

2002年９月28日，佐世保

38）21世紀における日本の役割

溝田　勉

長崎県すこやか長寿大学校

2002年９月24日，長崎

39）呼吸器感染症の治療・予防

永武　　毅

城南呼吸器カンファランス

2002年９月26日，東京

40）ODA と PKO の連携（Ⅳ）

溝田　　勉

放送大学長崎学習センター

2002年９月28日，長崎

41）GIS と空間分析：社会科学的調査への利用について（Ⅰ）

―特に社会医学的ないしは公衆衛生学的事象を中心に―

谷村　　晋

長崎純心大学

2002年10月９日，長崎

42）Genetic susceptibility to Parasitic Infectious disease in Humans

K. Hirayama

Singapore-Japan International Symposium,

October 10-11, 2002, Nagasaki, Japan

43）ウイルス感染症の病理

岩崎　琢也

岩手医科大学医学部講義

2002年10月10日，岩手県盛岡市

44）Schistosomiasis Control in Developing Countries:Reinfection and Symptoms after Treatment.

Kazuhiko Moji

The Seventh Nagasaki-Singapore Symposium on Medical Sciences

October 11th, 2002. Nagasaki, Japan.

45）温暖化と感染症

嶋田　雅曉

とろぴ会

2002年10月15日，長崎

46）GIS と空間分析：社会科学的調査への利用について（Ⅱ）

ー特に社会医学的ないしは公衆衛生学的事象を中心にー

谷村　　晋

長崎純心大学

2002年10月16日

47）ケニアに於ける住血吸虫症対策：住民の病気認識の調査の必要性

青木　克己

牛臨床寄生虫研究会

2002年10月18日，札幌

48）耐性菌蔓延の時代の抗菌化学療法

永武　　毅

神戸市医師会学術講演会

2002年10月19日，神戸

49）地球の時代を考える（Ⅰ）

溝田　　勉

長崎純心大学

2002年10月30日　長崎

50）Capacitasion de SIG（Sistema de Informacion Geografica）（Ⅱ）

Susumu Tanimura

Proyecto de Salud Reproductiva en la Region No. 7

Oct. 30-Nov. 5, 2002. Honduras

51）HLA and IL-13 associated genetic susceptibility to schistosomal liver fibrosis in China.

K. Hirayama.

7th International conference on Emerging Infectious Disease in the Pacific Rim, October 31-November 2, 2002, Shanghai, China

52）Environmental impact on human health

安高　雄治

財団法人国際保健医療交流センター

2002年年11月１日

53）地球の時代を考える（Ⅱ）

溝田　　勉

長崎純心大学

2002年11月６日　長崎

54）Genes controlling susceptibility to malaria.

K. Hirayama.

1st. Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases, November 10-13, 2002, Pattaya, Thailand

55）Disease Mapping by GIS

Susumu Tanimura

International training Course on School-based Malaria and Soil-Transmitted Helminthases Control for Programme Managers, ACIPAC, Nov. 14, 2002, Bangkok

56）発展途上国の感染症対策

溝田　　勉

ISC/IZUMI 財団

2002年11月24日，長崎

57）生活習慣状況調査のデータについて

門司　和彦

健康ながさき21フェスタ

2002年11月26日，長崎

58）国際保健医療

嶋田　雅曉

産業医科大学大学院講義

2002年11月27日，北九州

59）地球の時代を考える（Ⅲ）

溝田　　勉

長崎純心大学

2002年11月27日，長崎

60）Usefulness of a quantitative culture methods using bronchial secretion for bacterial diagnosis of community-acquired pneumonia (CAP) among children in Vietnam

大石　和徳

Vietnam-Japan Cooperative Program, NIHE, Hanoi, Vietnam

2002年11月29日，Vietnam

61）Importance of identification to species

Masahiro Takagi

Training course of mosquito identification

2002年12月２－４日，Hanoi, Vietnam

62）原虫と感染

神原　廣二

京都大学医学部学生講義

2002年12月６日，京都

63）熱帯寄生虫病学特論

青木　克己

京都大学医学部　特別講義

2002年12月12日，京都

64）呼吸器感染症の治療・予防

永武　　毅

花巻医師会学術講演会

2002年12月12日，花巻市

65）世界のウイルス感染症の現状

森田　公一

第４回薬剤耐性病原体の実験室診断コース

2002年12月13日，熊本

66）GIS と空間分析：社会科学的調査への利用について（Ⅲ）

―特に社会医学的ないしは公衆衛生学的事象を中心に―

谷村　　晋

長崎純心大学

2002年12月18日，長崎

67）ケニアに於ける住血吸虫症の疫学と対策

青木　克己

東京医科歯科大学医学部特別講義

2003年１月10日，東京

68）呼吸器感染症の外来治療－今日的問題と対応－

永武　　毅

垂水区医師会学術講演会

2003年１月15日，神戸市

69）呼吸器感染症の治療・予防

永武　　毅

茨城県南呼吸器研究会講演会

2003年１月23日，茨城

70）デングはなぜ流行を繰り返すのか

森田　公一

国立感染症研究所学友会シンポジウム

2003年１月23日，東京

71）輸入感染症

森田　公一

熊本県庁医師歯科医師会研修会

2003年１月25日，熊本

72）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌の今日的問題と対応－

永武　　毅

島根県医師会学術講演

2003年１月29日，島根

73）問題の所在：LCS/PCS の現状と日本の課題

門司　和彦

第27回日本熱帯医学会九州支部大会シンポジウム

2003年２月１日，長崎

74）NPO と NGO（Ⅰ）

溝田　　勉

放送大学長崎学習センター

2003年２月６日，長崎

75）寄生虫疾患の重症化に関与する遺伝子

平山　謙二

医科歯科大学特別講義

2003年２月７日，東京

76）NPO と NGO（Ⅱ）

溝田　　勉

放送大学長崎学習センター

2003年２月７日　長崎

77）熱帯地域で猛威を振う寄生虫疾患

青木　克己

予防衛生協会セミナー2003

2003年２月14日，筑波

78）国際社会の動向とわが国の対応

溝田　　勉

出島ロータリー・クラブ

2003年２月14日，長崎

79）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌の今日的問題と対応－

永武　　毅

岩国市内科医会学術講演会

2003年２月14日，岩国市

80）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌の今日的問題と対応－

永武　　毅

熊本県社会保険支払い基金審査委員会学術講演会

2003年２月20日，熊本市

81）呼吸器感染症の治療と予防戦略

大石　和徳

小松市医師会講演会

2003年２月20日，小松市

82）Evidence of an Internal Polyadenylation site in Chikungunya Virus Genome

Morita K.

Seminar in Indian National Institute of Virology

2003年２月26日，（Pune，インド）

83）病理学総論

千馬　正敬

第17回管理栄養士国家試験受験準備講習会

2003年３月８日，長崎市

84）衛生動物をめぐる最近の話題蚊学の世界から

高木　正洋

第38回ねずみ衛生害虫駆除技術研修会

2003年３月11日，大野城

85）A new strategy for control of Schistosomiasis: Studies on a trap for miracidia

青木　克己

ソウル大学医学部寄生虫セミナー

2003年３月14日，韓国ソウル

86）呼吸器感染症の治療・予防の今日的問題と対応－小児から高齢者まで－

永武　　毅

福岡小児感染症研究会

2003年３月19日，福岡

87）呼吸器感染症の外来治療－耐性菌の今日的問題と対応－

永武　　毅

島根県医師会学術講演会

2003年３月20日，松江市

88）東南アジアにおける日本脳炎と日本脳炎ワクチンについて

森田　公一

財団法人阪大微生物病研究会観音寺研究所講演会

平成15年３月28日，観音寺

89）西ナイルウイルスについて

森田　公一

財団法人阪大微生物病研究会観音寺研究所講演会

2003年３月28日，観音寺,

90）呼吸器感染症の今日的問題と対応

永武　　毅

日本薬学会　ランチョンセミナー

2003年３月28日，長崎市

91）住血吸虫症を悪化させる宿主側の要因

平山　謙二

日本住血吸虫発見100年記念国際シンポジウム

（Centenary Symposium to Celebrate the Discovery of Schistosoma japonicum）

2003年３月30日，久留米

11　主要な研究設備

1　バイオハザード　セイフティーフード
2　環境制御実験装置
3　超ミクロトーム
4　回転電動万能ミクロトーム
5　分析電子顕微鏡システム
6　クリスタットミクロトーム
7　反射型蛍光顕微鏡
8　ウルトラミクロトーム
9　落射蛍光位相差顕微鏡
10　分離用超遠心機
11　真空高速冷却遠心機
12　クリオスタット
13　万能倒立顕微鏡
14　走査電子顕微鏡装置
15　プロテインシステム
16　生態機能解析装置一式
17　高圧蒸気滅菌装置
18　病理組織標本作製システム一式
19　超高速ビデオ
20　DNA シンセサイザーシステム
21　微生物全自動増殖解析装置
22　細胞自動解析分離システム一式
23　原虫遺伝子 DNA 解析システム
24　レーザースキャン顕微鏡
25　医用サーモグラフィ装置
26　蛋白細胞相互作用解析システム
27　白血球機能解析システム一式
28　核酸蛋白質解析合成システム
29　宿主・寄生体相互作用解析システム一式
30　プラスミド自動分離調整システム一式
31　遺伝子検出システム
32　高分解能核磁気共鳴装置一式
33　感染症病原性解析システム一式
34　コロニーアナライザー画像解析装置
35　熱帯性病原体成分機能解析システム
36　NMR 測定用生体管理装置
37　多機能ぜん虫行動解析システム一式
38　熱帯性ウイルス感染症診断試薬作成システム
39　蛋白質精製システム一式
40　病原性ウィルス遺伝子及び蛋白質機能解析システム
41　自動炭酸ガス細胞培養装置
42　超遠心機
43　核酸オリゴマー感染症治療薬開発システム
44　生物顕微鏡
45　細菌毒素活性測定解析システム

12 刊　行　物

１）Tropical Medicine

当研究所が発行した機関誌で，熱帯医学の原著論文のほかに短報や総説などが掲載される。本誌は長崎大学風土病紀要として昭和34年に創刊されたものであるが，昭和42年に研究所名が改められたときにTropical Medicine（熱帯医学）と変更され，さらに平成元年からは英文のみの雑誌となった。毎年４号分を１巻として平成12年度には第42巻が発行されたが，平成13年度から休刊中である。

２）長崎大学熱帯医学研究所年次要覧

昭和39年３月，当研究所の沿革および研究活動をまとめた最初の「長崎大学風土病研究所年次要覧，昭和38年度」が刊行された。その後，昭和42年の研究所名改称に伴う標記表題への変更はあったが，昭和45年度まで毎年刊行された。昭和46年度から54年度までの分はまとめて昭和56年３月に発行された。昭和55年度から再び毎年発行されることになり現在に至っている。平成13年度年次要覧は平成15年１月に発行された。

３）長崎大学熱帯医学研究所　Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University

国内および外国からの来訪者に対する当研究所の紹介パンフレットとして，長崎大学熱帯医学研究所案内（A Guide to the Institute of Tropical Medicine, Nagasaki University）が昭和55年12月に最初に発行された。その後一部改訂されたものが随時発行されてきた。平成元年10月には，当研究所が共同利用研究所に改組されたのを機会に，標記のように表題を改めカラー印刷として発行され，その後は毎年発行されることになった。平成６年度に研究所の機構が大部門制に改組されたのを機に，このパンフレットはＢ５判からＡ４判に改められ，また和文版と英語版を別々に作成することになった。平成14年度版は５月に発行された。

４）長崎大学熱帯医学研究所共同研究報告集

この報告集は，当研究所が平成元年に全国共同利用研究所に改組されたのに伴い，毎年実施される共同研究と研究集会の概要をまとめたものである。平成13年度の報告集は，平成14年７月に発行された。

長崎大学熱帯医学研究所年次要覧
平成14年度（2002）

平成15年10月発行

編集者：長崎大学熱帯医学研究所
附属熱帯感染症研究センター
発行者：長崎大学熱帯医学研究所
〒852-8523 長崎市坂本１丁目12-4
☎(095)849-7800（総合案内）
印刷所：株式会社　昭　和　堂
〒850-0875 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル
☎(095)821-1234